

福井県子育て意識調査 報告書

令和6年9月
福井県

1. 調査目的

県民の結婚や出生行動に関する詳細な調査を行うことにより、福井県が抱えている少子化の現状を詳細に把握するとともに、本県が現在行っている少子化・子育て支援策に対する住民の評価を調査することで政策評価につなげる。また、合計特殊出生率が全国値に比べて高い2つの県（島根県、宮崎県）や低い2つの県（秋田県、奈良県）と比較することにより、福井県の独自性や相違点を把握する。

2. 調査設計

(1) 調査対象：令和5年11月1日現在、20～40代の男女

(2) 対象人数：

福井県在住 4,000人（有効回答数 1,606人）

秋田県在住 750人（有効回答数 203人）

奈良県在住 750人（有効回答数 171人）

島根県在住 750人（有効回答数 198人）

宮崎県在住 750人（有効回答数 160人）

(3) 選定方法：市町村別人口を考慮した上で、住民基本台帳から無作為抽出

(4) 調査方法：対象者に郵送により依頼文を配布し、対象者は依頼文記載のQRコードからオンラインで回答。

(5) 調査時期：令和5年11月～令和6年1月

※本調査の集計にあたっては、山口慎太郎氏（東京大学経済学部教授）、茂木良平氏（ボンペウ・ファブラ大学政治社会科学学部研究員、南デンマーク大学人口学センター助教）からご意見をいただいている。

調査結果の概要

第一部

(1) 結婚について

福井県や高出生率県と低出生率県では結婚状況や結婚観に差がみられた。既婚者割合は福井県と低出生率県で7%ポイントの差がある。配偶者のいない人が抱く結婚に対するイメージは、すべての県で約半分以上がポジティブなイメージを持っている一方で、低出生率県では否定的な意識が高い特徴がみられた。結婚意欲においても、福井県と高出生率県が積極的な回答が多い一方で、低出生率県では「あまり結婚したいと思わない」が最多だった。交際相手がいない割合も低出生率県でより高い傾向が見られた。

(2) 出産・子育てについて

(1) でみられた結婚状況を反映して、子どものいない割合は低出生率県では福井県に比べて6%ポイント高い。また、3人以上の子どもを持つ割合は福井県や高出生率県で高く、低出生率県では2人が主流となっていた。子どもや子育てに関しては県ごとの大きな違いは見られなかったが、理想子ども数には差があり、高出生率県では3人以上が多く、低出生率県ではやはり2人が主流だった。労働環境の整備が理想子ども数を実現するために重要であるとの回答が多い。

(3) 家事育児の男女分担について

男女の理想的な分担は、どの県も平等な配分が最多であるものの、高出生率県で特にその割合が高く、実際に平等な配分やそれに近い配分を実現できている割合も高かった。しかしそれでも実際の分担は、どの県でも女性が7割以上を負担する家庭が主流であり、これを変えるためには労働環境の改善が必要だと認識されている。

第二部

(1) 結婚について

有配偶割合や初婚年齢において、男女間で大きな差が見られた。女性は25歳から40歳にかけて、男性よりも有配偶割合が高く、初婚年齢も低かった。交際相手がいる割合の傾向も男女で異なり、男性は25 - 44歳で25%前後と一定で推移しているのに対し、女性では25 - 29歳以降40 - 44歳にかけて右肩下がりに減少していた。

(2) 出産・子育てについて

3年以内の出生意欲において、女性は「子どもを持つことを考えていない」と回答し、対照的に男性は「わからない」と回答する傾向がみられた。また、配偶者がいると「(もう1人) 子どもを持つつもりはない」と回答する割合が高まり、逆に配偶者がいないと「わからない」の割合が増えた。子どもの数別においても、「持ちたい」と答えるのは現在の子どもの数が0人と1人が多く、2人以上いる場合は出生意欲は低かった。さらに、子育てに関するイメージでは、配偶者がいると「楽しみや喜び」を強調する一方で、いない場合は「義務や責任」が重視される傾向が特に男性に見られた。

(3) 家事育児の男女分担について

男女ともに平等的な配分が理想とされつつも、男性は父親の関与に関して「3：7」の割合が理想とする割合が高くみられた。実際の分担は女性は、男性の分担が少ないと回答する割合が高く、反対に男性は、自らの分担割合が高いと回答する割合が高かった。家事育児の理想の関わり方を実現する方法として、男性は職場の理解など働き方を挙げる割合が女性より高いのに対し、女性は男性の家事育児への啓発や教育を挙げる割合が男性より高い。また、育児休業の取得状況にも顕著な違いがみられる。育児休業取得日数は、男性は平均 50 日前後なのに対し、女性は平均 1 年以上と大きな差がある。

(4) 施策について

福井県は国の支援策に加えて 14 の独自施策を行っているが、県民に広く認知されているのはその中の 3 つにとどまり、利用割合も低い傾向が見られた。しかし、これらの施策に対する評価は高く、満足度の高い施策が多いことが確認された。男女の認知差もあり、特に女性が低い認知度を示す施策が存在した。地域行政と職場における子育て支援について、男女間で満足度や認識に違いが見られた。女性は特に地域行政に対する不満を「他の地域より劣っているから」と考える傾向があり、職場の理解については女性が低い評価をしている。

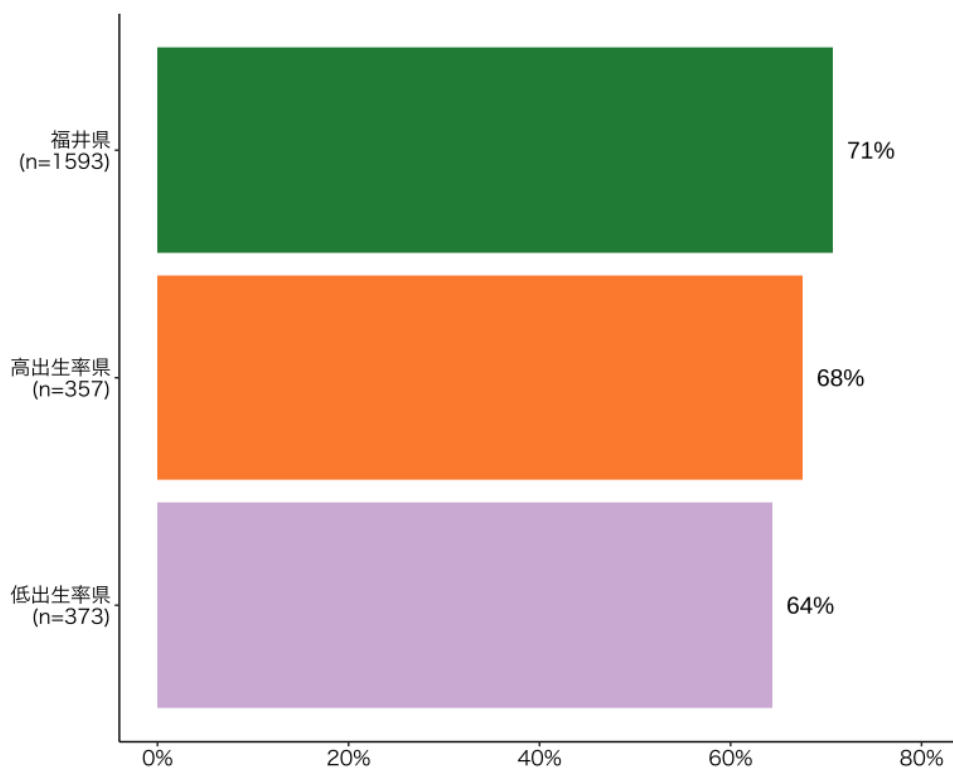
第一部：基本集計

福井県、高出生率県（島根県、宮崎県）、低出生率県（秋田県、奈良県）に分けて、質問票の全ての質問の分布を示す。

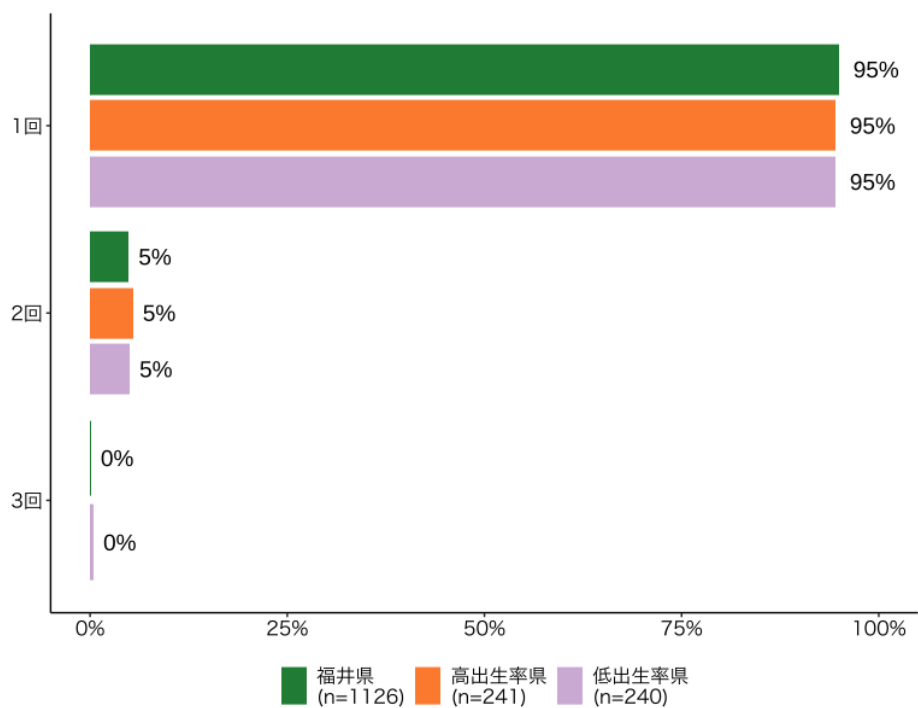
1. 結婚歴、配偶者、現在の子どもの数に関すること

福井県や高出生率県は現在結婚している、あるいは結婚したことがある割合が低出生率県よりも高い。既婚者の割合は福井県と低出生率県で7%ポイントの差がみられた。それに関連して、子どもがいない（無子）割合も低出生率県に比べて低くなっており、福井県は低出生率県より6%ポイント低い。また3人以上子どもを持っている割合は福井県や高出生率県で高く、低出生率県は子どもが2人の割合が高い。初婚年齢や現在配偶者がいる割合など他の質問項目は県ごとの差は大きくみられなかった。

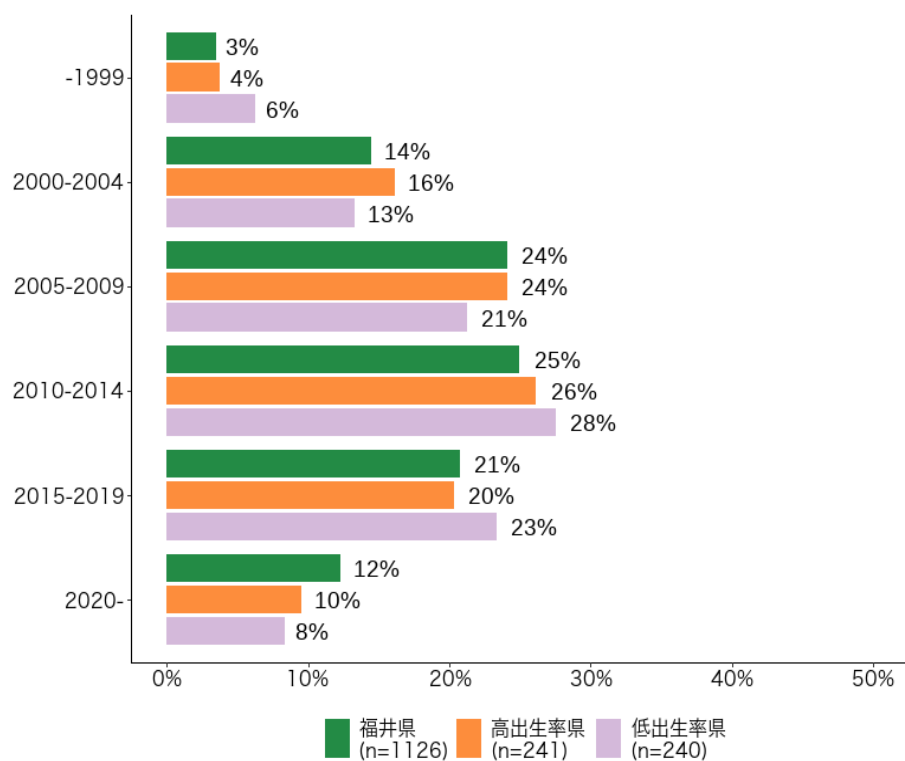
問1 結婚している・したことがある人の割合【全員回答】



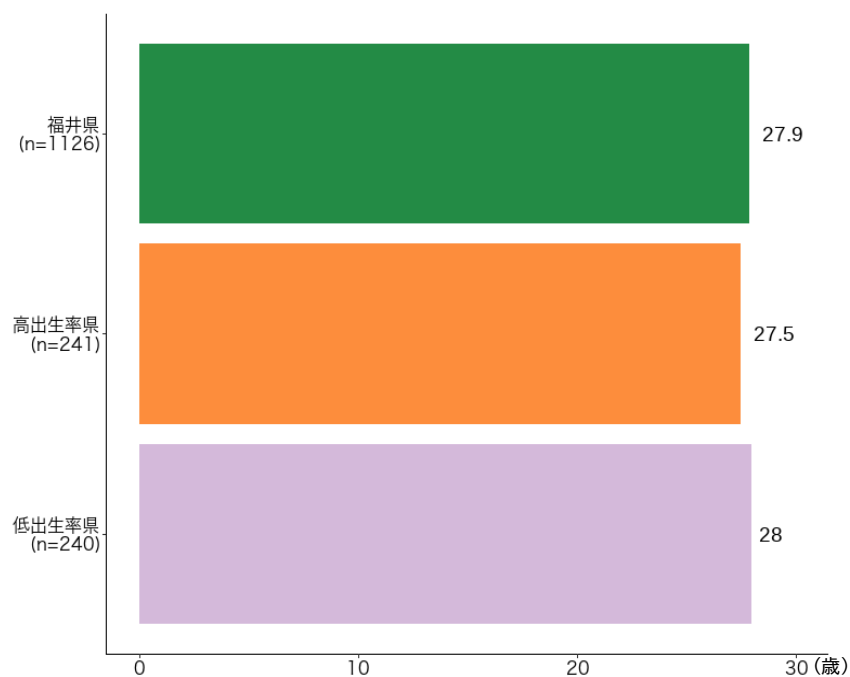
問 2.1 結婚の回数【問 1 で「結婚している・したことがある」と回答した人のみ】



問 2.2 初婚年【問 1 で「結婚している・したことがある」と回答した人のみ】

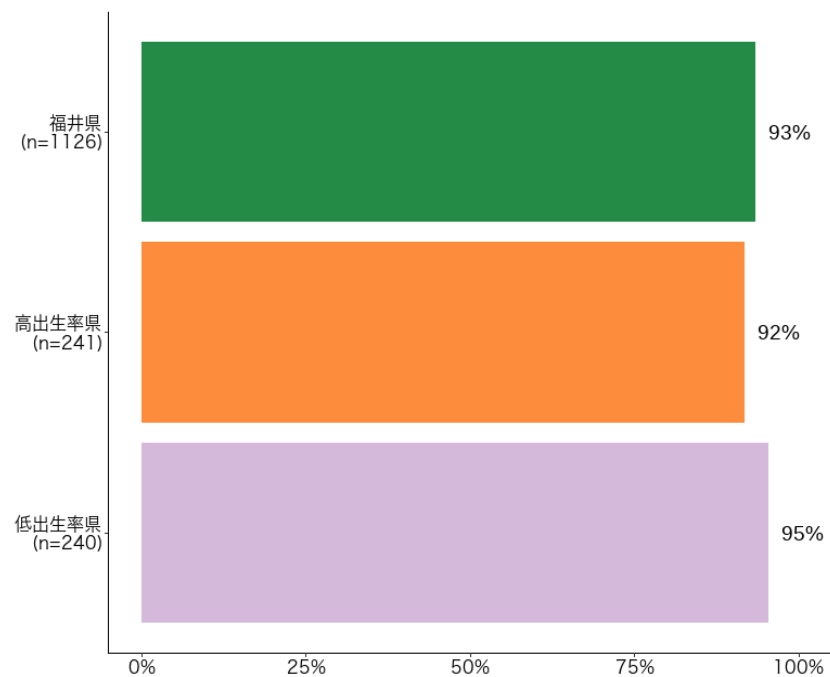


問 2.3 平均初婚年齢【問 1 で「結婚している・したことがある」と回答した人のみ】

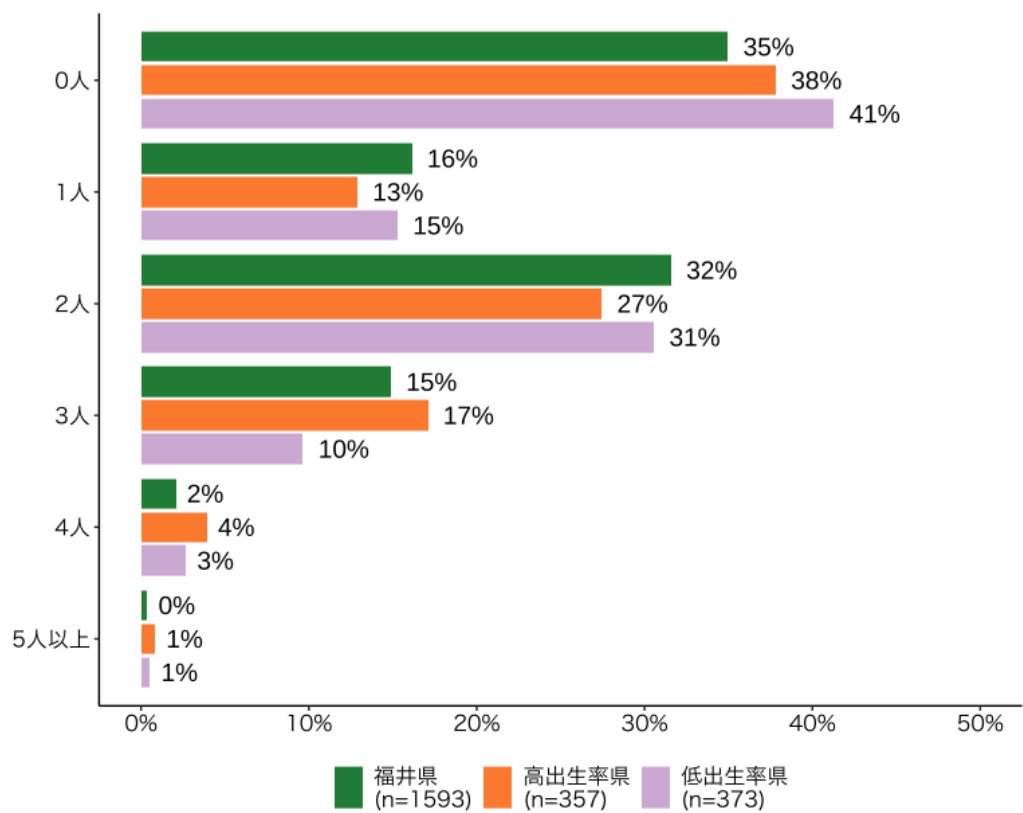


問 3 現在、配偶者がいる人の割合

【問 1 で「結婚している・したことがある」と回答した人のみ】



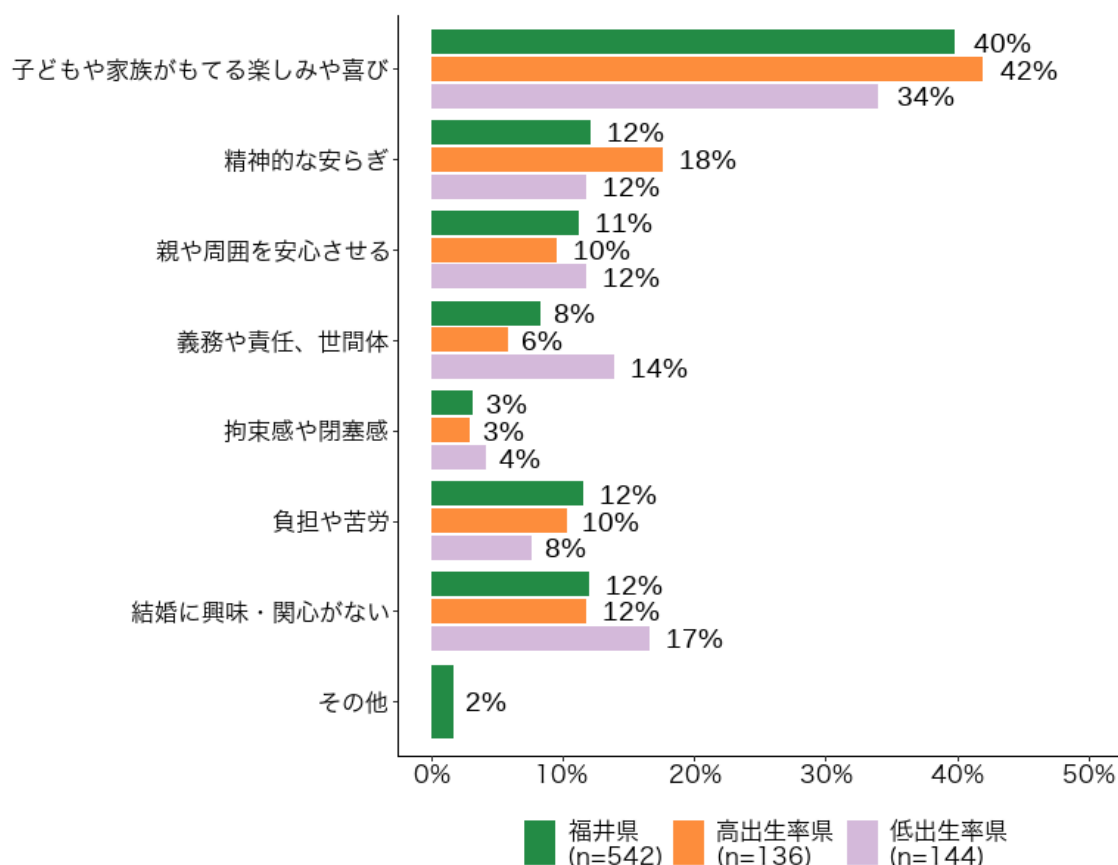
問4 現在の子どもの数【全員回答】



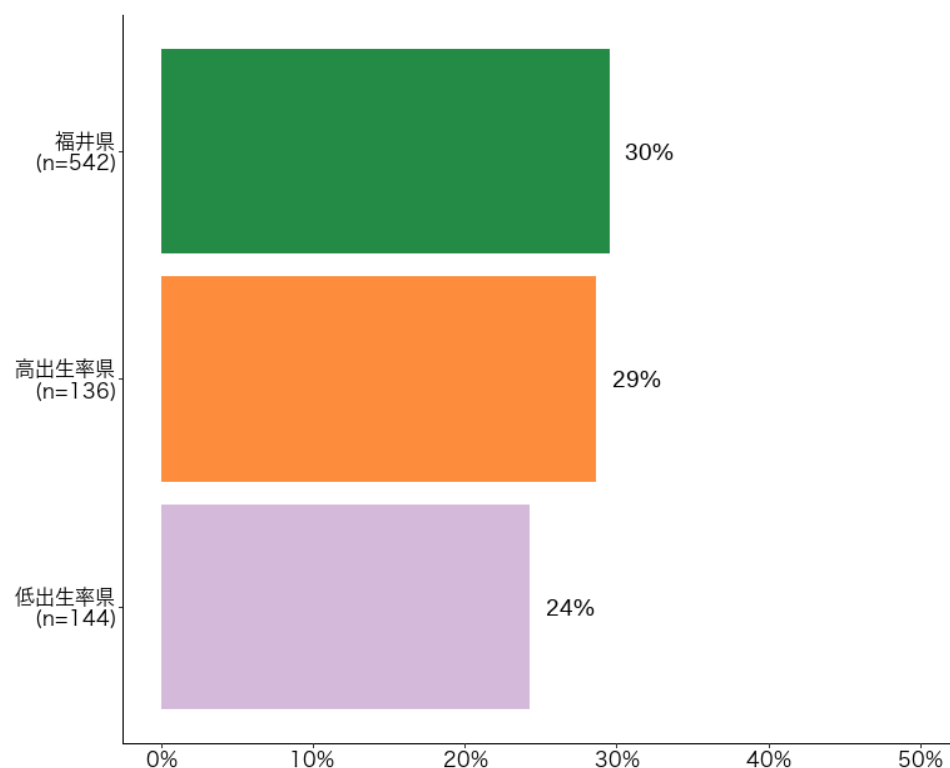
2. 結婚に関すること

配偶者がいない人が抱く結婚に対するイメージは、どの県も「子どもや家族がもてる楽しみや喜び」が最多で、「精神的な安らぎ」も含めると5～6割の人が結婚に対してポジティブなイメージを持っていることがわかる。一方、低出生率県は「義務や責任、世間体」や「結婚に興味・関心がない」と答える割合が他県に比べて高いことが特徴的である。結婚意欲に関しても同様で、「いずれは結婚したい」という回答が福井県や高出生率県で最多であるのに対し、低出生率県は「あまり結婚したいと思わない」が最多となっている。交際相手がいる割合はどの県も3割弱と全国値と大きな差はないが、福井県や高出生率県の方が低出生率県より高い値になっている。結婚意欲はあるが結婚に至っていない理由として、「まだ適切な相手と巡り会っていない」がどの県も最多である。福井県では、経済的理由を挙げる人が比較的に多く、低出生率県では現在の年齢の若さを挙げる人が多かった。一方、結婚意欲が弱い人に関して、県ごとの違いは大きくは見られず、社会人になってから結婚意欲を失うケース、またその理由として「結婚の必要性やメリットを感じていないから」がどの県も多かった。

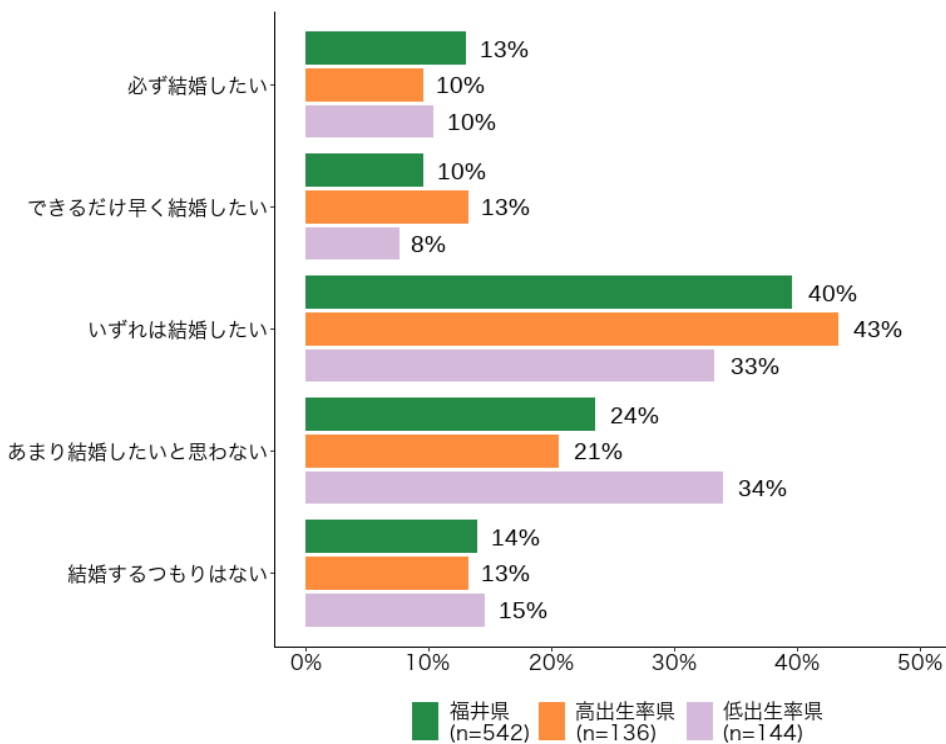
問5 結婚に対するイメージ【結婚したことがない、または配偶者がいない人のみ回答】



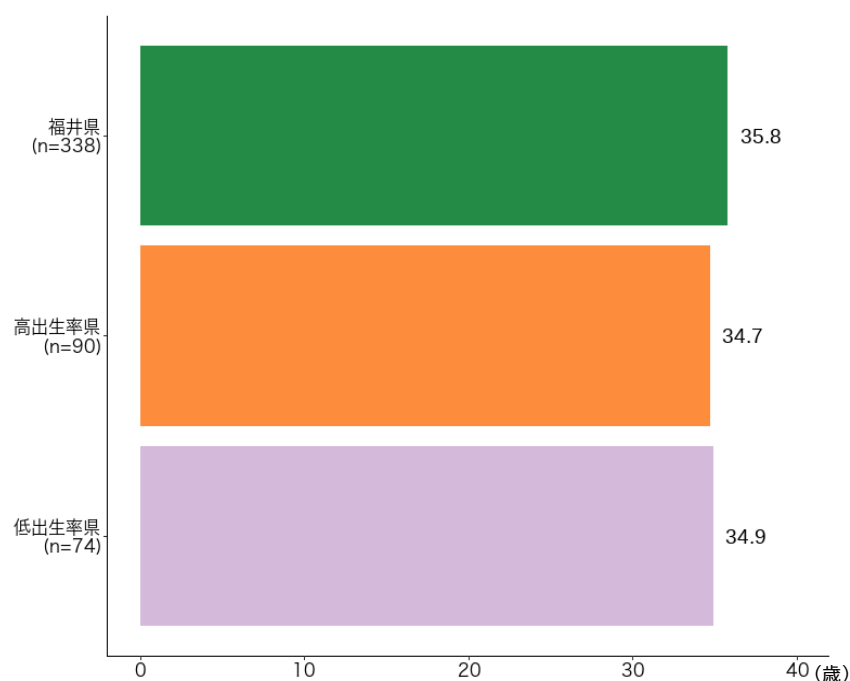
問 6 交際相手がいる人の割合【結婚したことがない、または配偶者がいない人のみ回答】



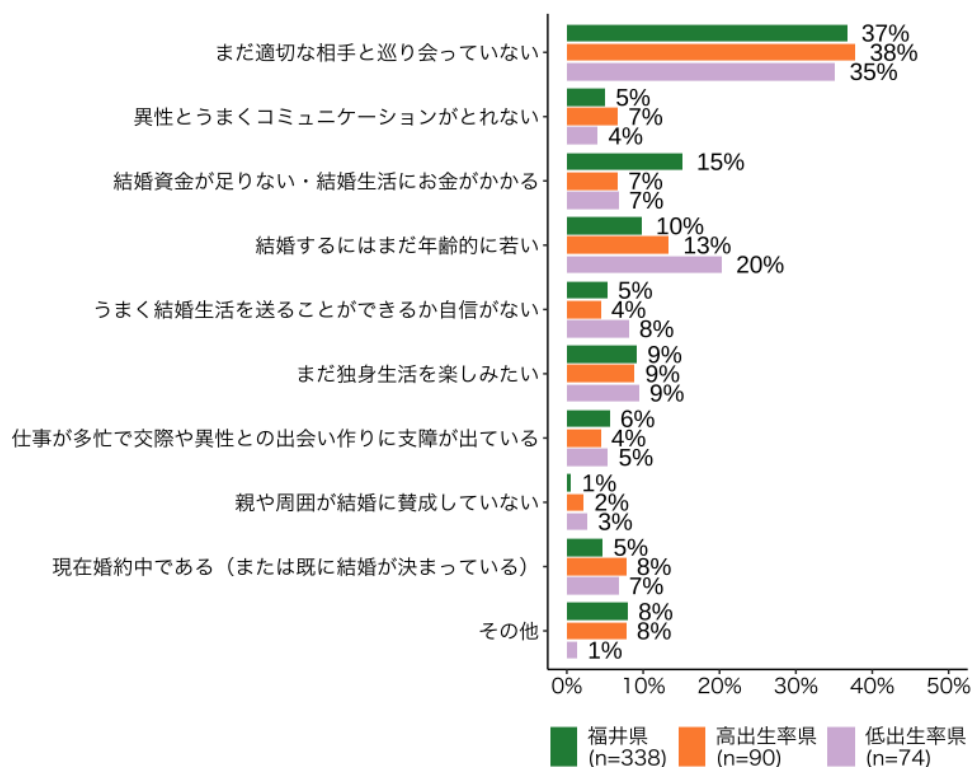
問 7 今後結婚する意欲があるか【結婚したことがない、または配偶者がいない人のみ回答】



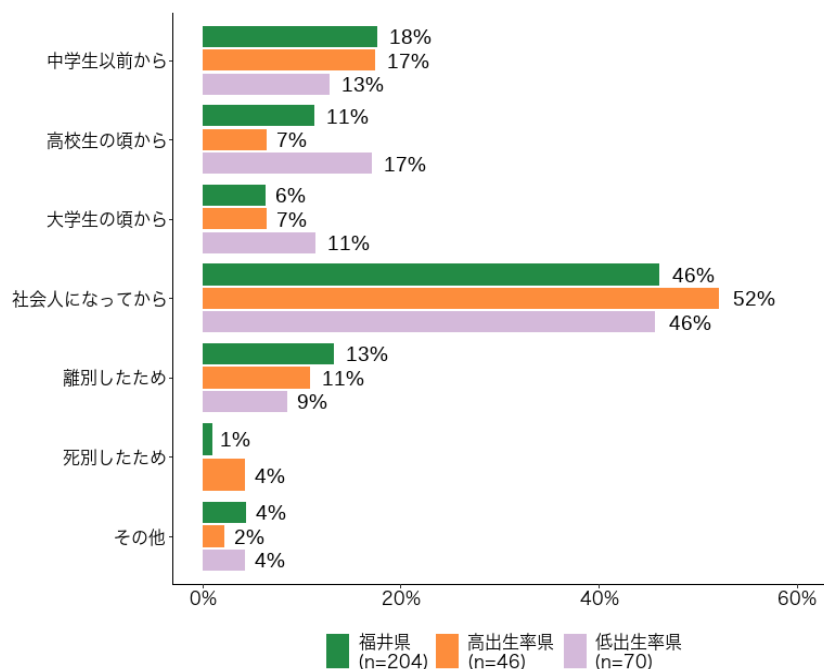
問8 何歳までに結婚したいか（平均値）【問7で「必ず結婚したい」「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚したい」と答えた人のみ回答】



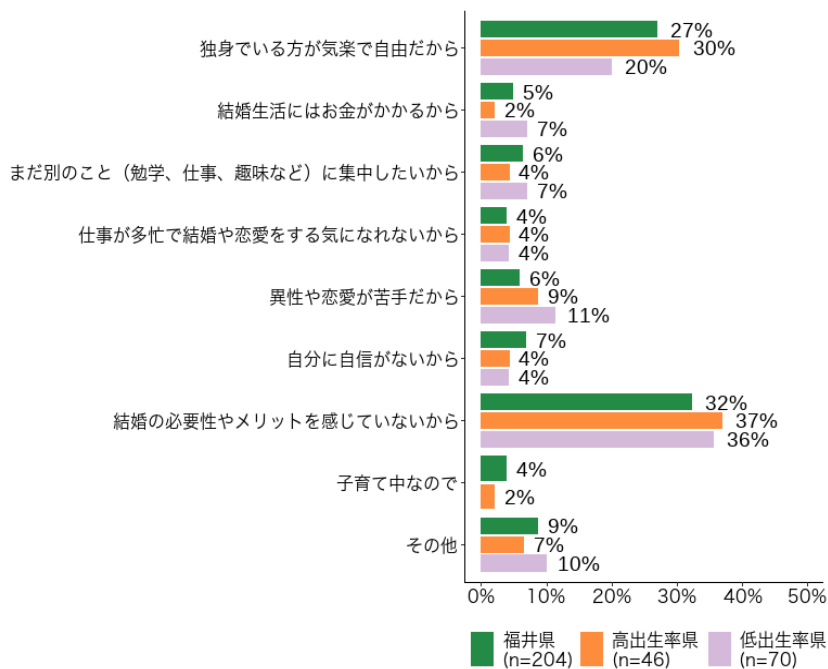
問9 まだ結婚に至っていない理由【問7で「必ず結婚したい」「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚したい」と答えた人のみ回答】



問 10 いつ頃から結婚への意欲がなくなったか【問 7 で「あまり結婚したいと思わない」「結婚するつもりはない」と答えた人のみ回答】



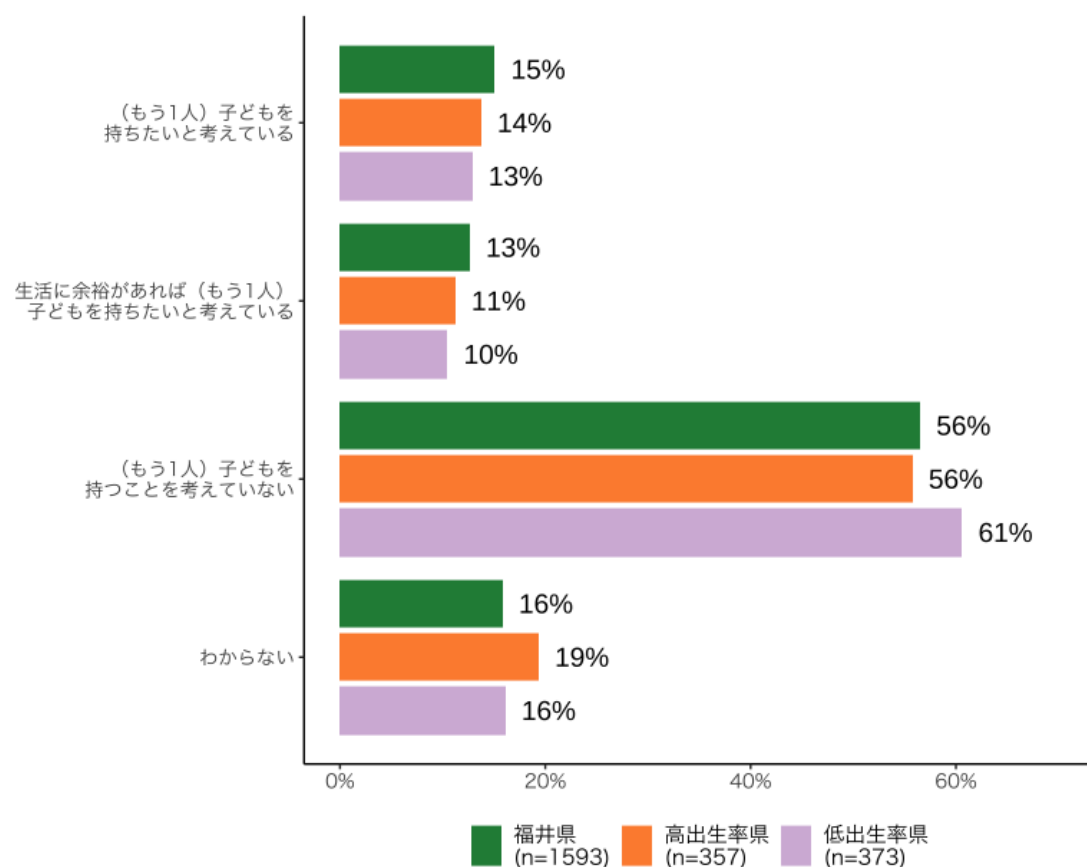
問 11 結婚への意欲が無い理由【問 7 で「あまり結婚したいと思わない」「結婚するつもりはない」と答えた人のみ回答】



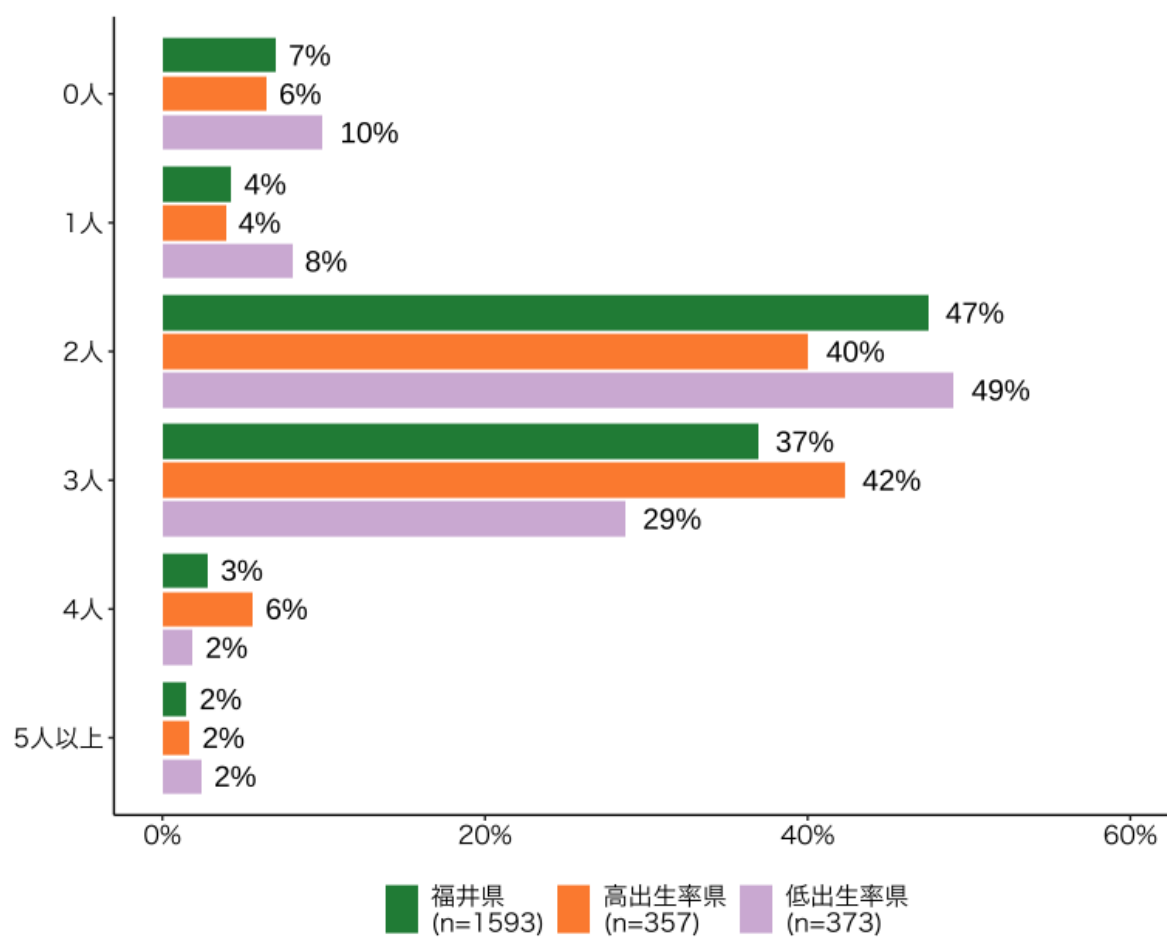
3. 子どもや子育てに関すること

子どもや子育てに関しては、全体的に県ごとの大きな違いは見られなかった。しかし理想子ども数には差がみられた。福井県や低出生率は理想子ども数が2人の人が多かったが、高出生率県では3人、4人と回答する割合が高い。また、理想子ども数が0人の割合は低出生率県が比較的高かった。今後3年以内の出生意欲がない割合が最も高かったが、「わからない」と回答している割合がどの県も2番目に多く注目に値する。理想子ども数を実現するため最も重要だと思うことは育児休業や短時間勤務といった、仕事と子育てが両立できる労働環境の整備と考えている人がどの県も最多だった。

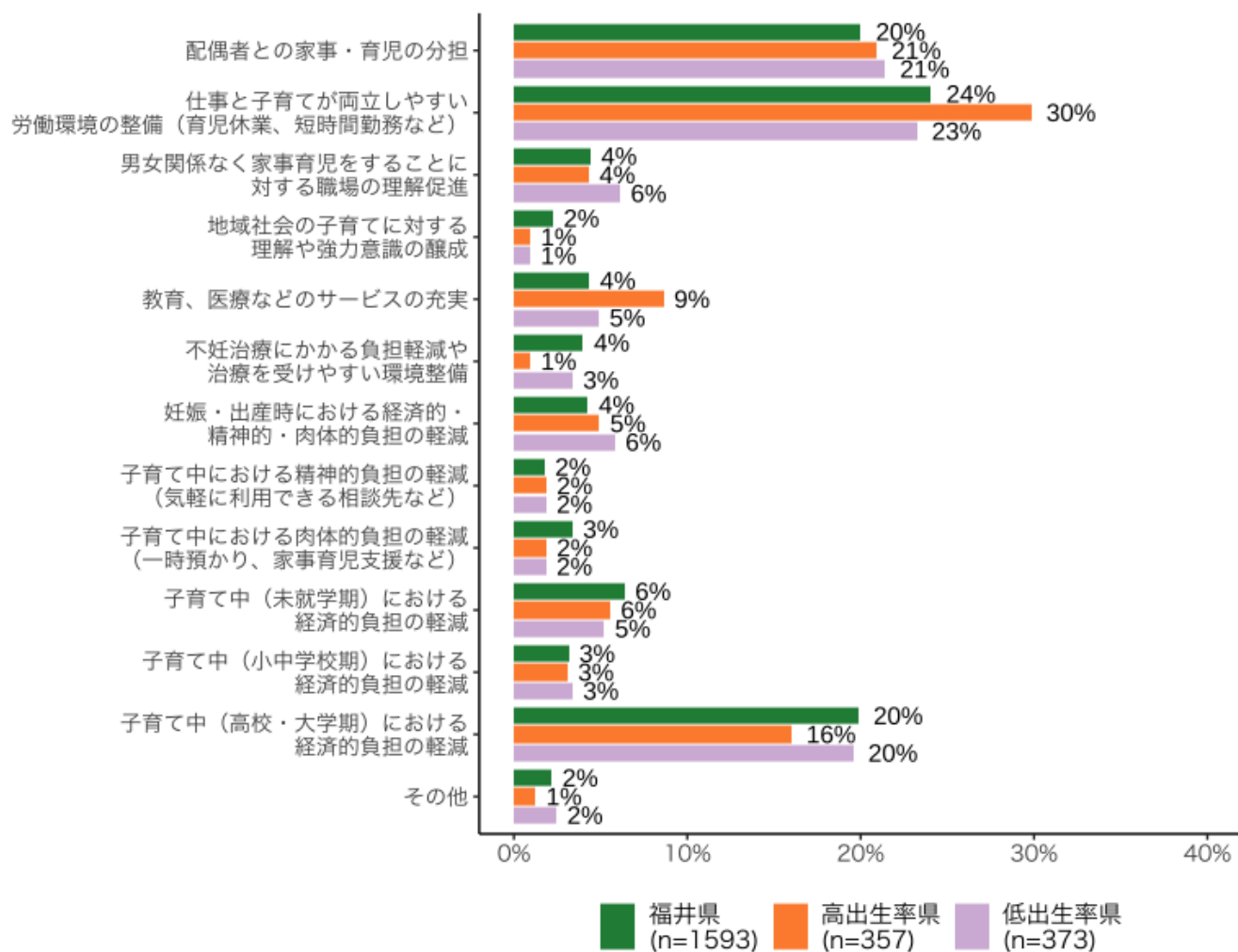
問12 今後3年以内に子どもを持ちたいと考えているか（すでにお子さんがいる方はもう1人持ちたいと考えているか）【全員回答】



問 13 理想とする子ども数【全員回答】

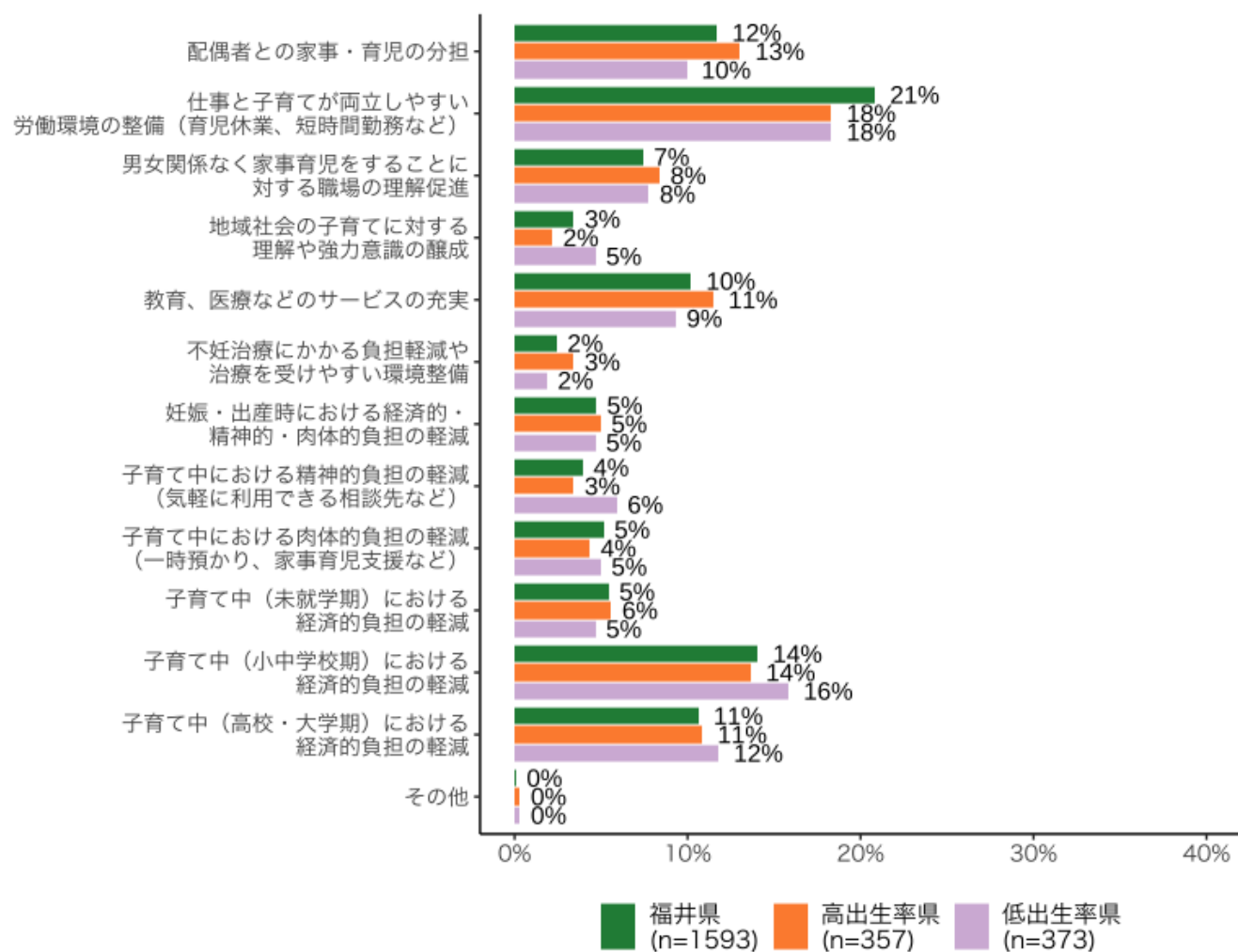


問 14 理想とする子どもの数を実現するために必要だと思うこと（1 位）【全員回答】



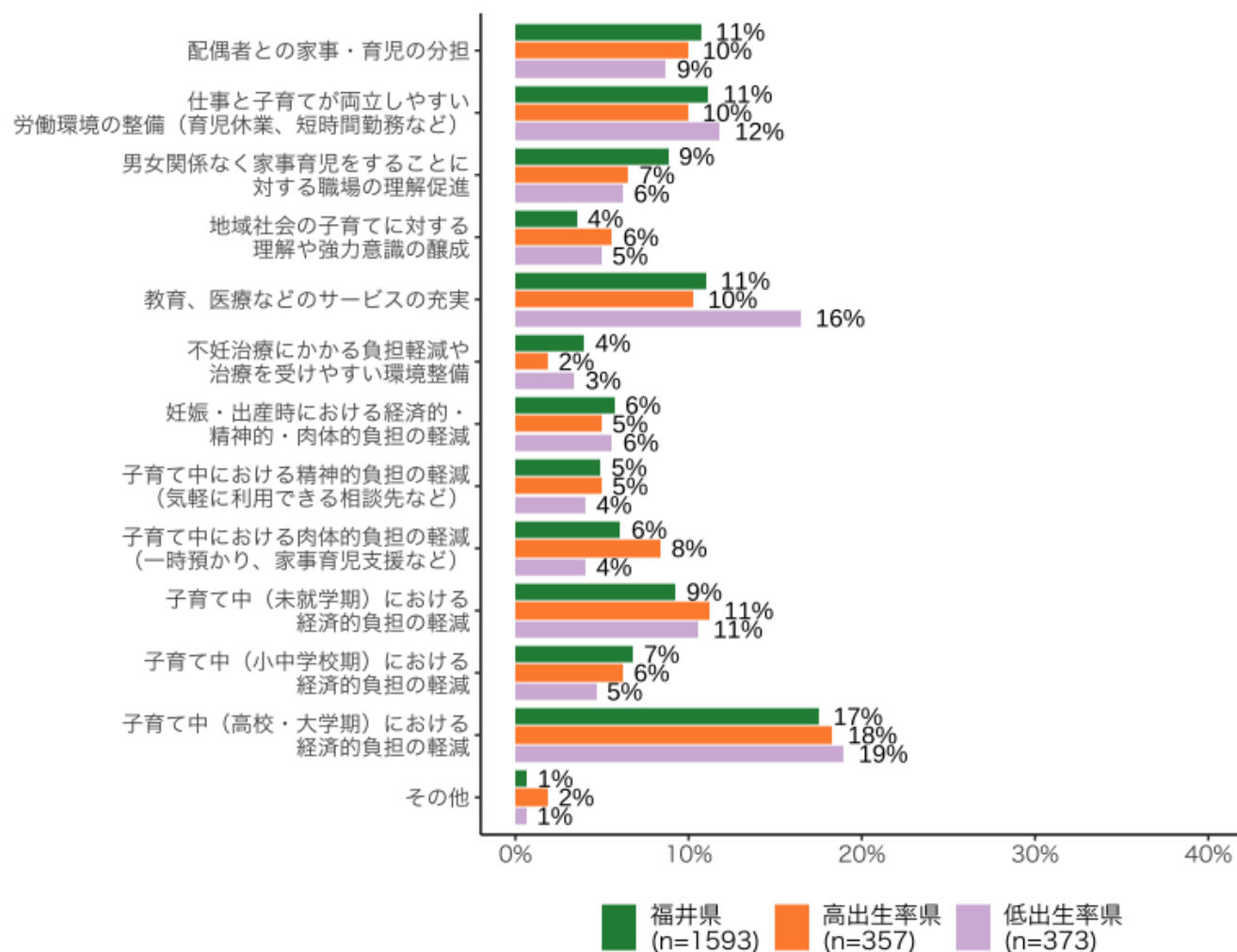
欠損値：福井県に164ケース；高出生率県に32ケース；低出生率県に46ケース

問 14 理想とする子どもの数を実現するために必要だと思うこと（2 位）【全員回答】



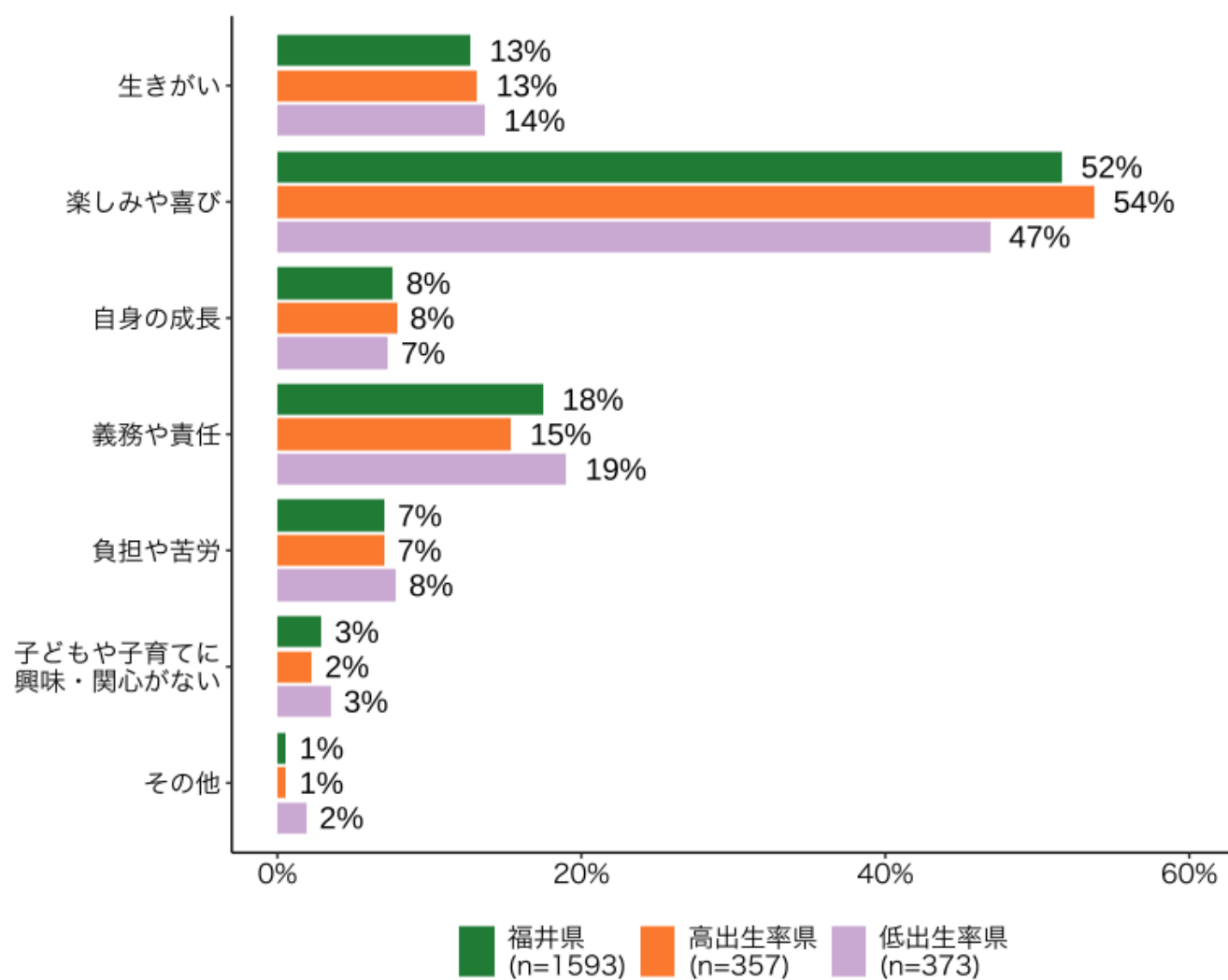
欠損値：福井県に192ケース; 高出生率県に35ケース; 低出生率県に51ケース

問 14 理想とする子どもの数を実現するために必要だと思うこと（3 位）【全員回答】



欠損値：福井県に209ケース；高出生率県に35ケース；低出生率県に51ケース

問 15 子どもや子育てに対するイメージ【全員回答】



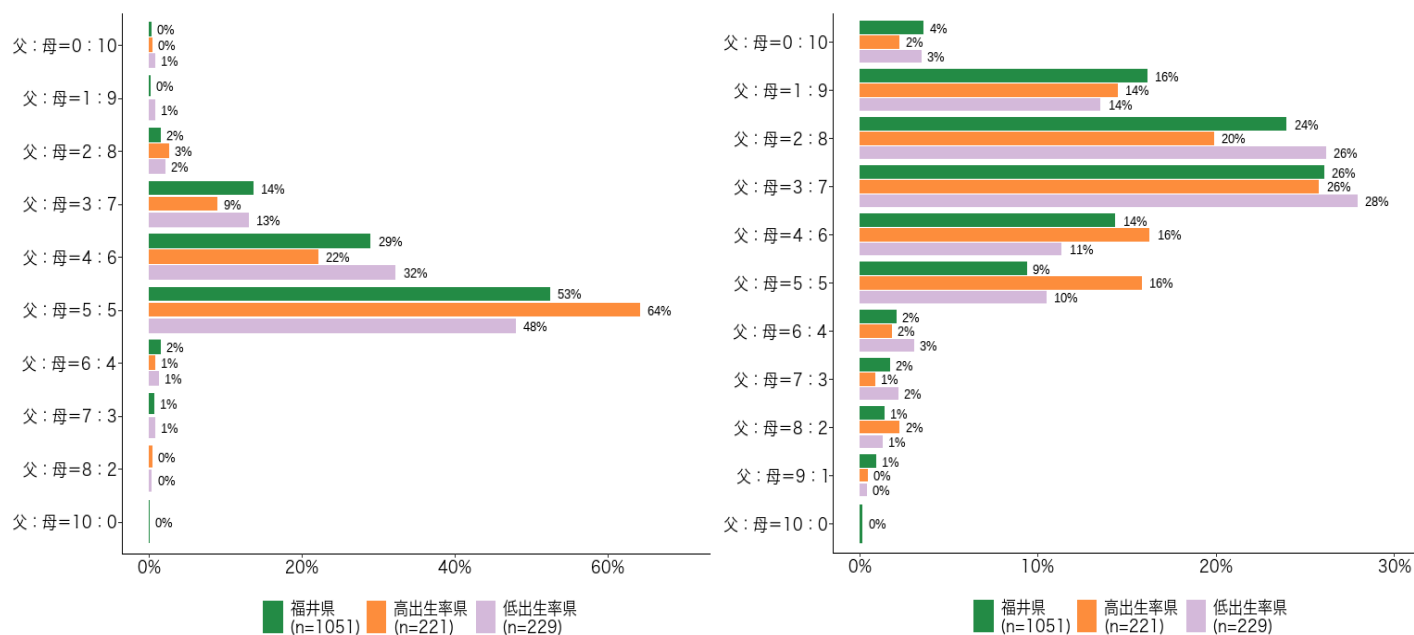
4. 家事育児の分担に関すること

家事や育児に関する男性と女性の理想の配分として、どの県も男性と女性半分半分が理想と答える割合が最多であるが、高出生率県が特に多く、低出生率県に比べて16%ポイントも高い。また、実際に5:5の割合、あるいは男性:女性=4:6を実現できている割合も他県に比べて高出生率県で高かった。しかし、それでもどの県でも最多の配分は男性:女性=3:7と、女性が7割負担する家庭が多い。男性の家事育児を高めるためには、ここでも労働環境の整備が最多となった。「3. 子どもや子育てに関すること」と同様に、その他の質問項目では県ごと大きな差はみられなかった。

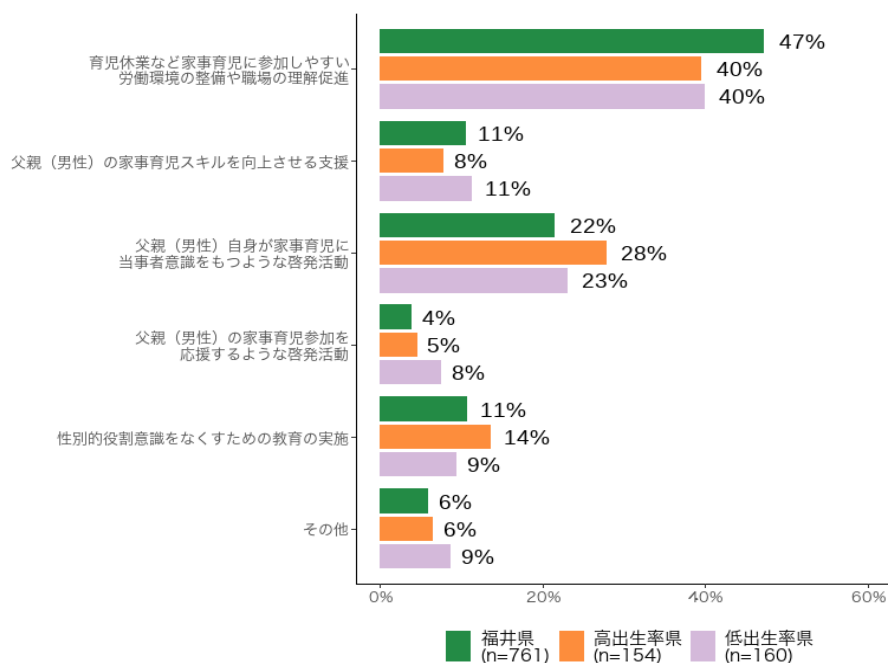
問 16 父親と母親の家事育児への理想の関わり具合（左）

問 17 父親と母親の家事育児への実際の関わり具合（右）

【いずれも問3で配偶者ありと答えた人のみ回答】



問 18 理想の家事育児の関わり具合を実現するために必要だと思うこと【問 16、17 で父親の実際の関わり具合が理想の関わり具合より低い方のみ回答】

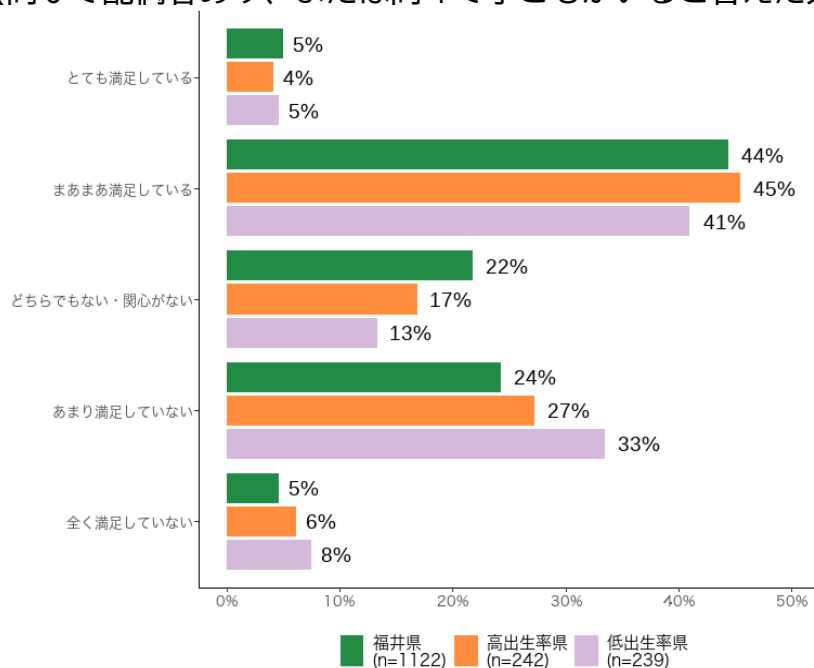


5. 子育てにかかる環境に関すること

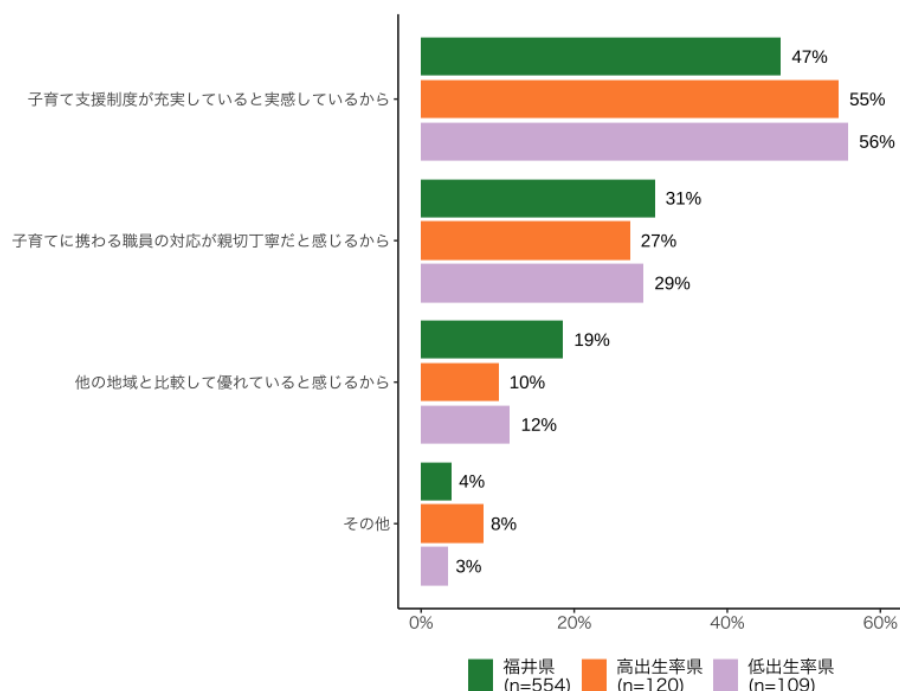
地域の子育て支援に満足している割合は、県ごとに大きな違いはみられない。一方で、「どちらでもない・関心がない」の割合は福岡県が低出生率県より 9%ポイント高く、満足していない割合は低出生率県が最も高かった。

問 19 居住している地域（県全体）の行政による子育て支援に満足しているか

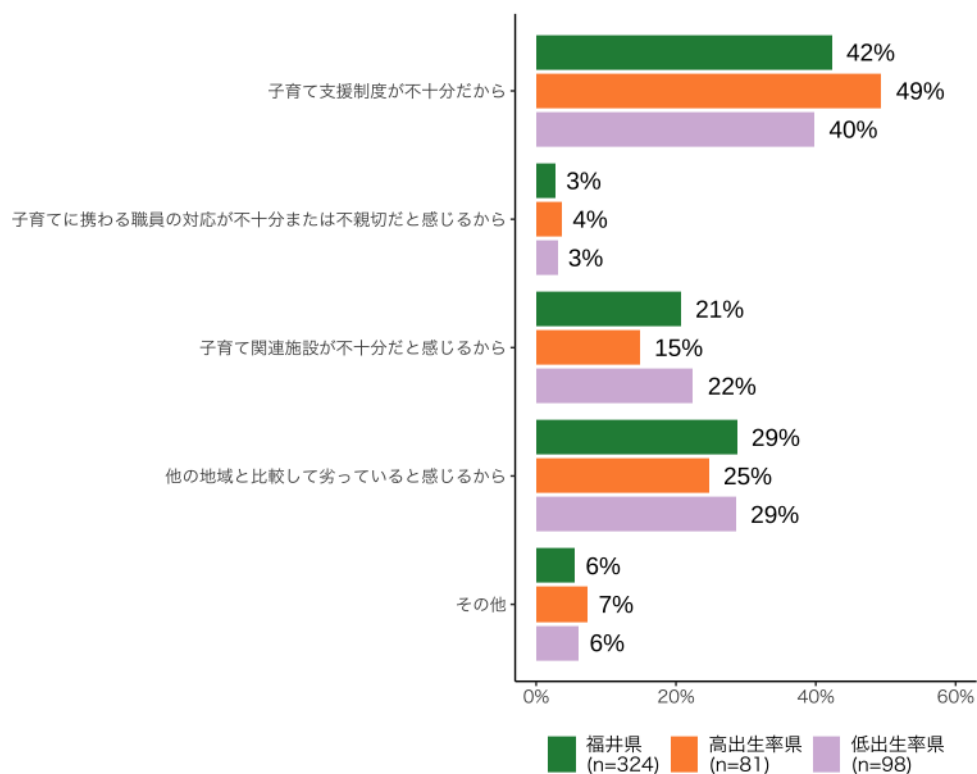
【問 3 で配偶者あり、または問 4 で子どもがいると答えた人のみ回答】



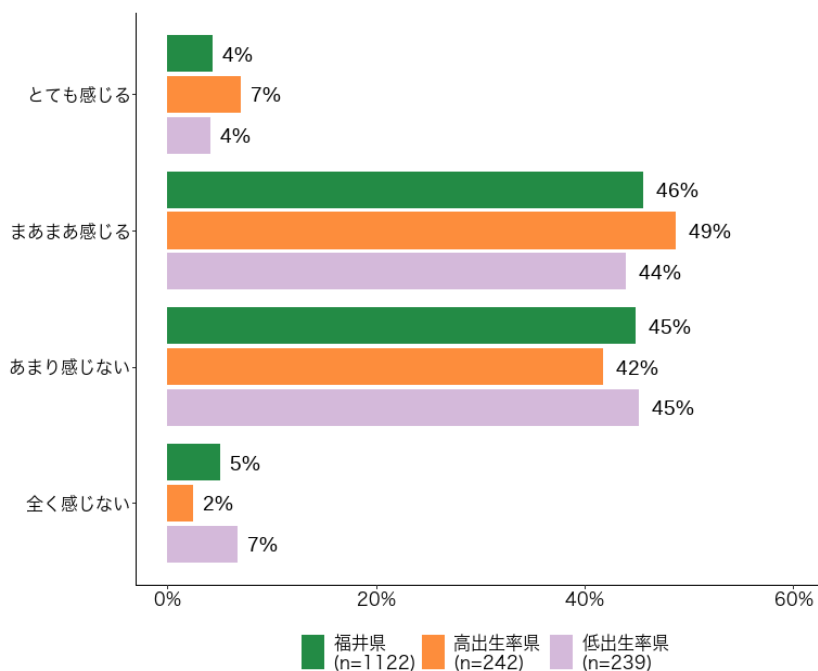
問 20 満足していると回答した理由【問 19 で「とても満足している」「まあまあ満足している」と答えた人のみ回答】 問 21 は省略。



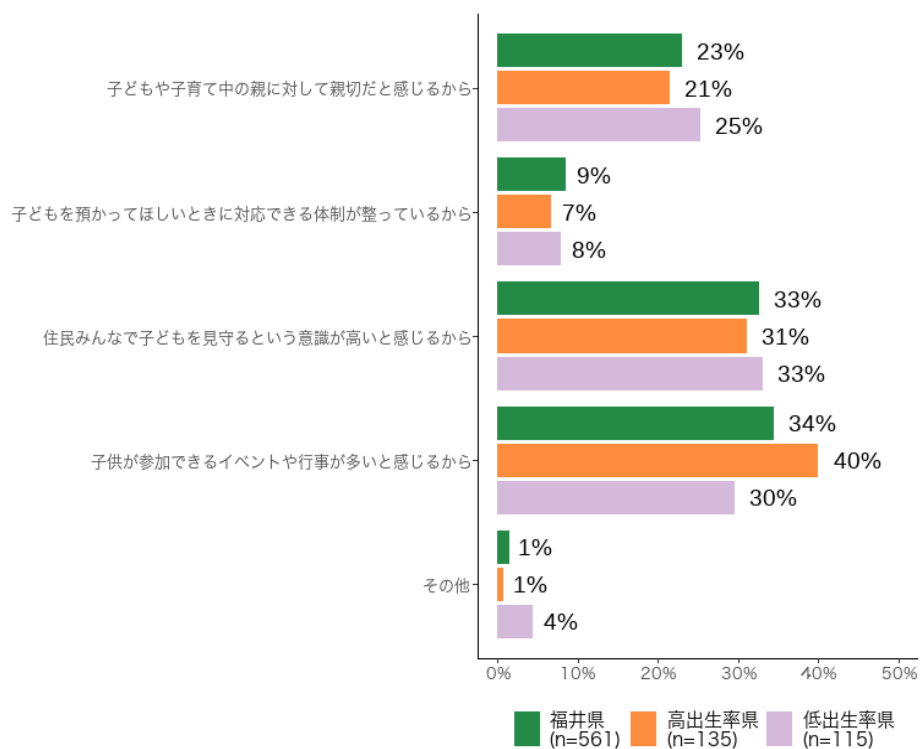
問 22 満足していないと回答した理由【問 19 で「あまり満足していない」「全く満足していない」と回答した方のみ】



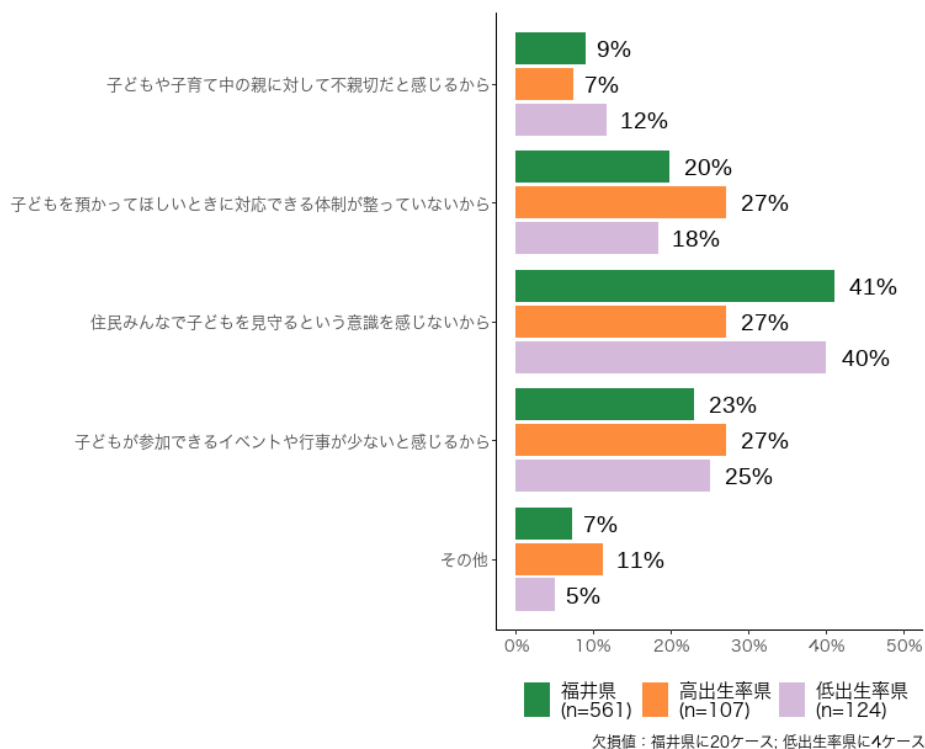
問 23 居住している地域は、地域住民と子どもの関わりが深いと感じるか【問 3 で配偶者あり、または問 4 で子どもがいると答えた人のみ回答】



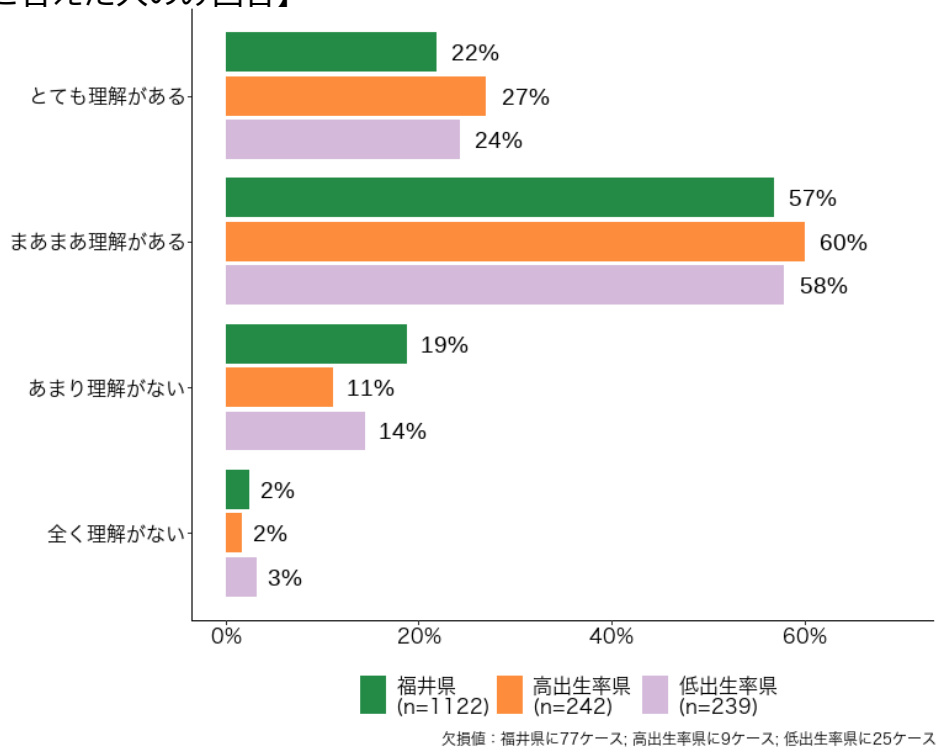
問 24 関わりが深いと回答した理由【問 23 で「とても感じる」「まあまあ感じる」と回答した方のみ】



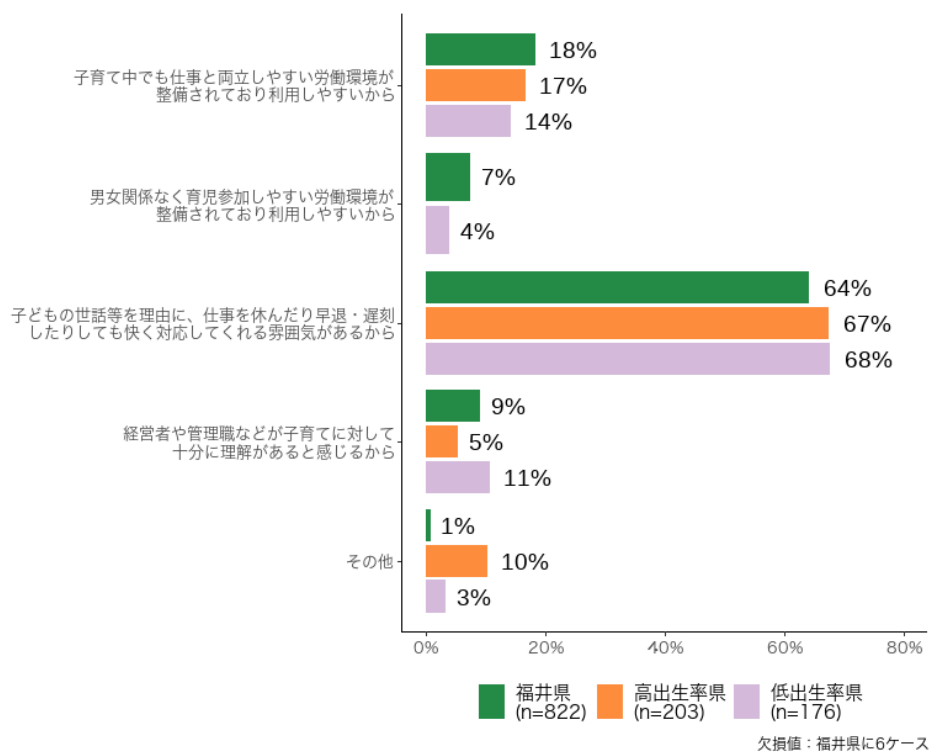
問 25 関わりが深くないと回答した理由【問 23 で「あまり感じない」「全く感じない」と回答した方のみ】



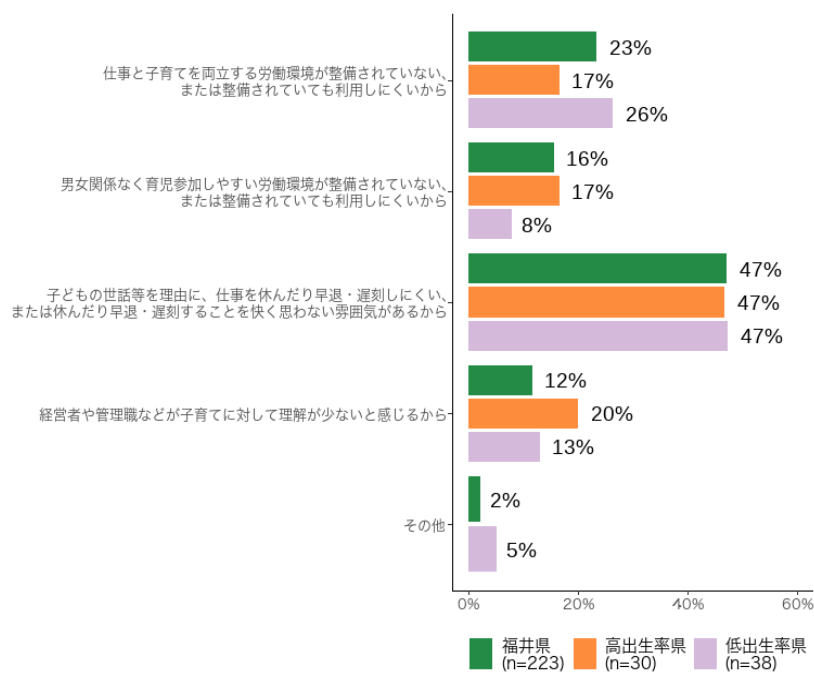
問 26 職場において子育てへの理解は十分にあるか【問 3 で配偶者あり、または問 4 で子どもがいると答えた人のみ回答】



問 27 理解があると回答した理由【問 26 で「とても理解がある」「まあまあ理解がある」と回答した方のみ】



問 28 理解がないと回答した理由【問 26 で「あまり理解がない」「全く理解がない」と回答した方のみ】

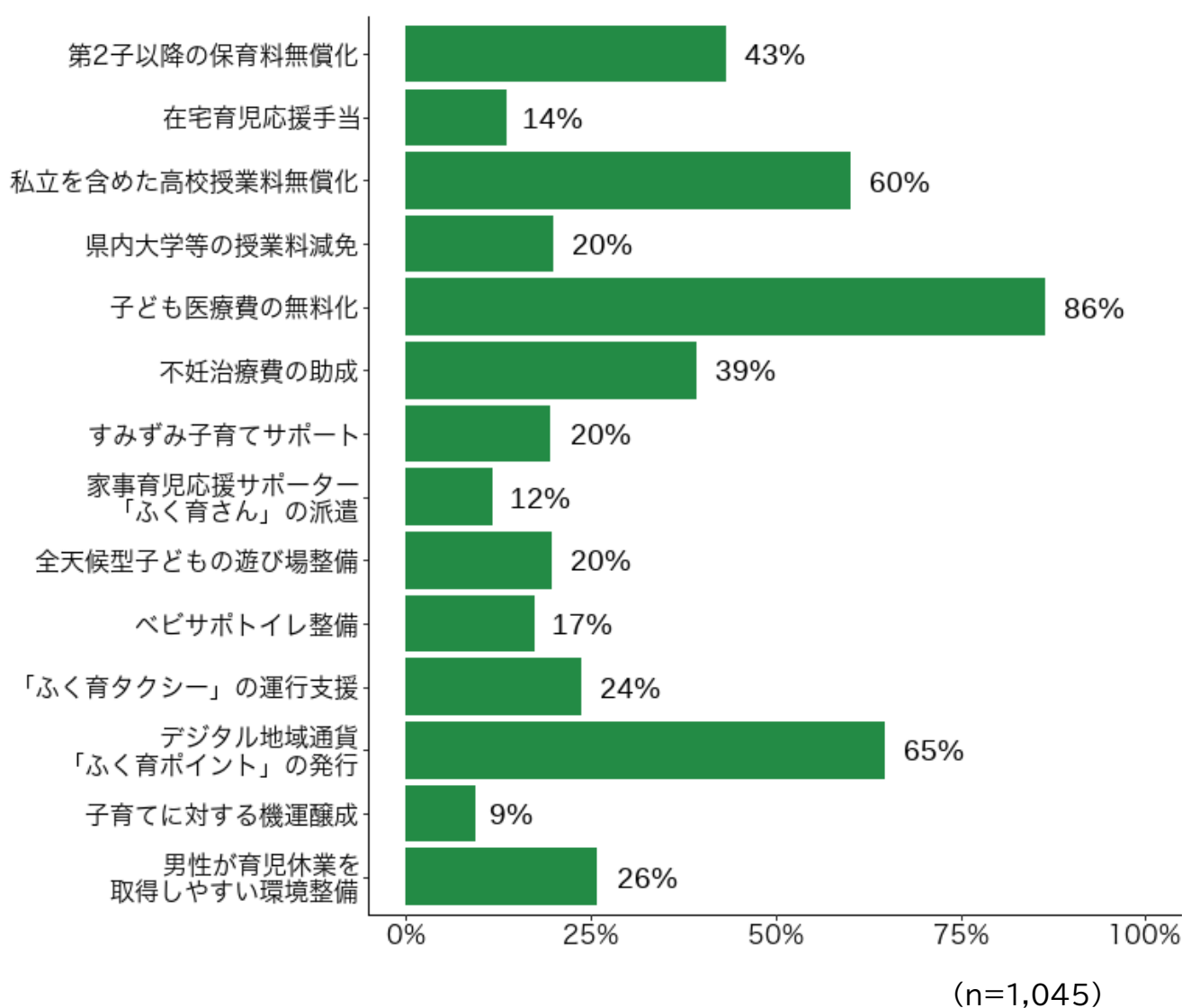


6. 既存の子育て支援策に関すること

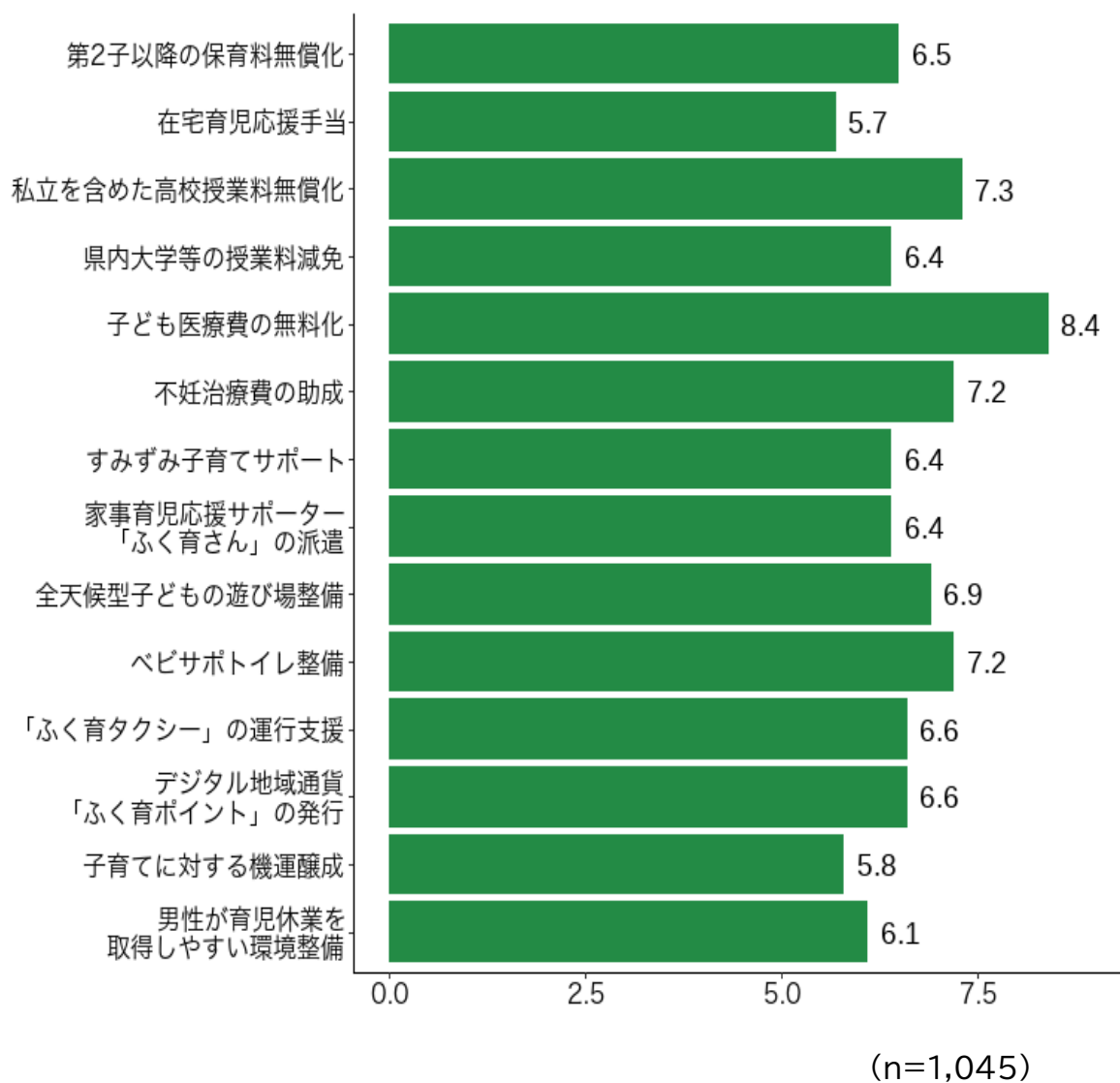
福井県は国が行う子育て支援策以外に 14 もの独自施策を行っている。しかし、福井県の住民の半分以上が認知していた施策はそのうちの 3 つ（高校授業料無償化、子ども医療費の無料化、デジタル通貨）のみにとどまった。また利用割合も 5～7%と非常に低い。一方、それぞれの施策への評価は全ての施策において約 6 以上と高い。

問 29 福井県が独自に実施している子育て支援策の評価【福井県内の調査のうち、問 3 で配偶者がいるまたは問 4 で子どもがいると回答した人のみ】

制度を知っていたか



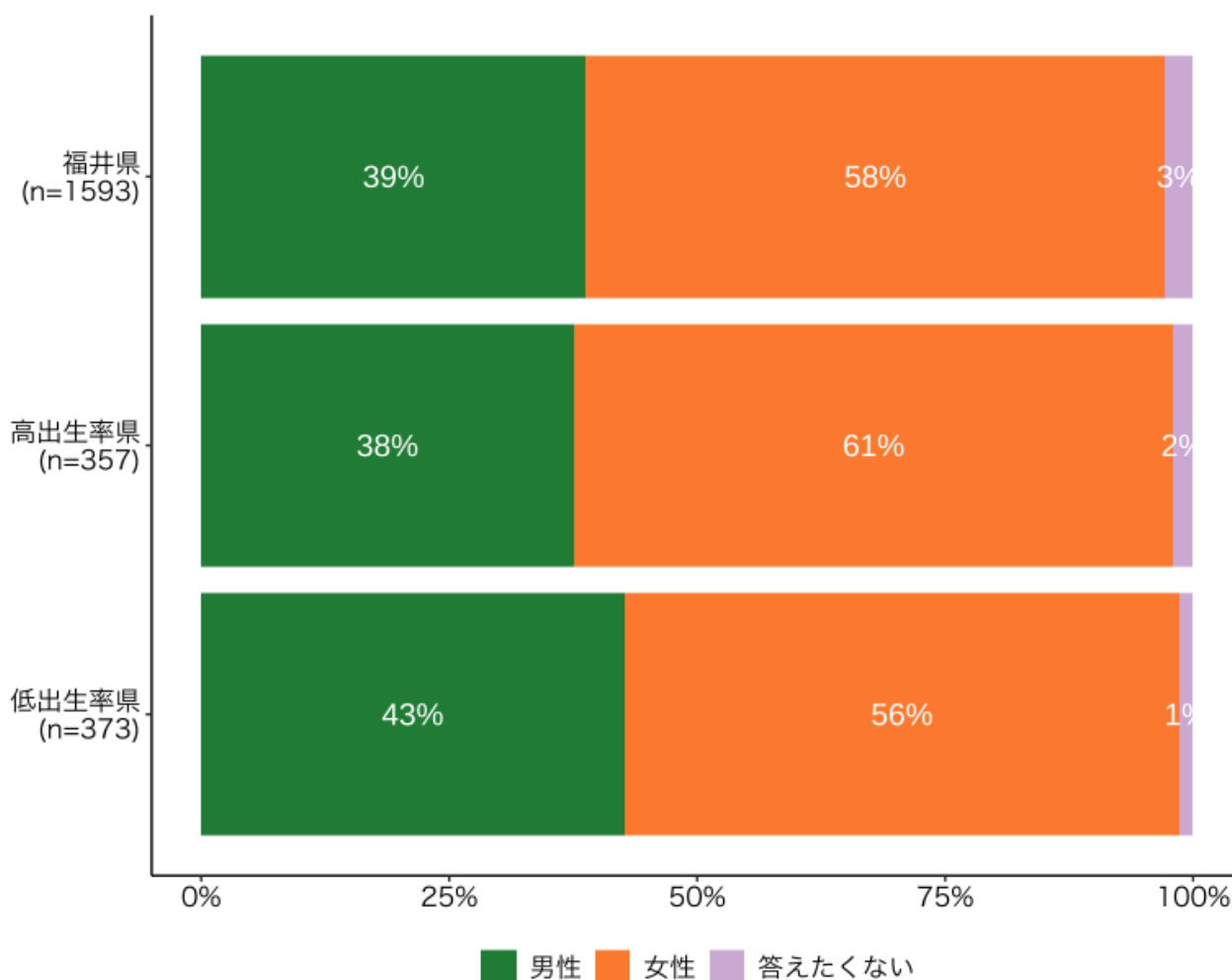
制度に対する評価（平均値（10 ポイントまで））



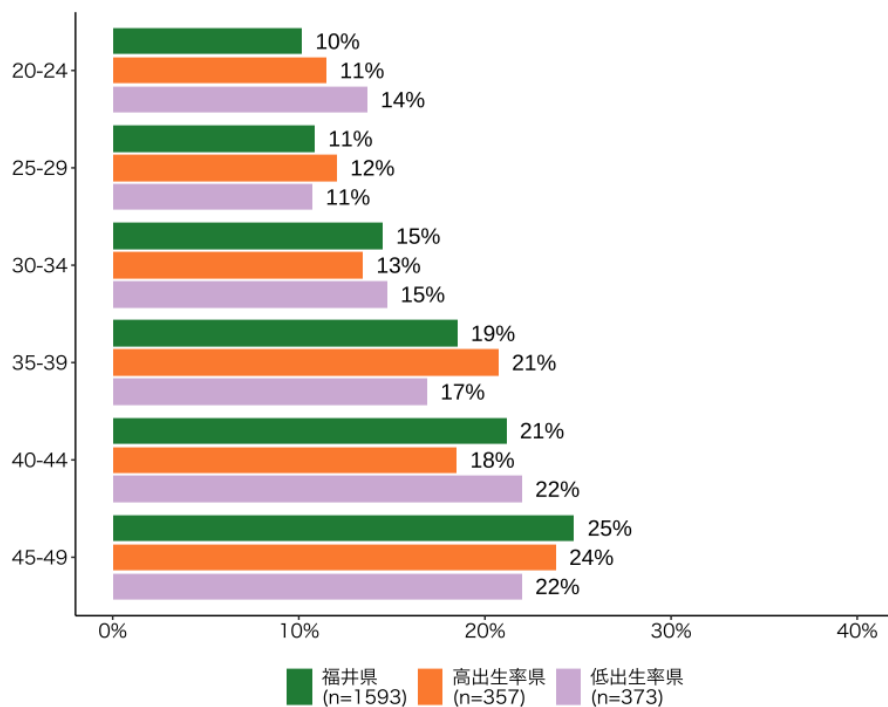
7. 回答者の属性に関すること

回答者と配偶者の属性に関する質問で、県ごとに差がみられたのは、1日の平均的な労働時間と育児休業の取得割合だった。1日の平均的な労働時間は法定労働時間の8時間である割合がどの県も最多ではあるものの、高出生率県で特にその割合が高かった。育児休業の取得割合もこれまでの質問への回答の特徴を反映するように、福井県や高出生率県は低出生率県に比べて取得割合が高く、その取得期間も長い傾向がみられた。

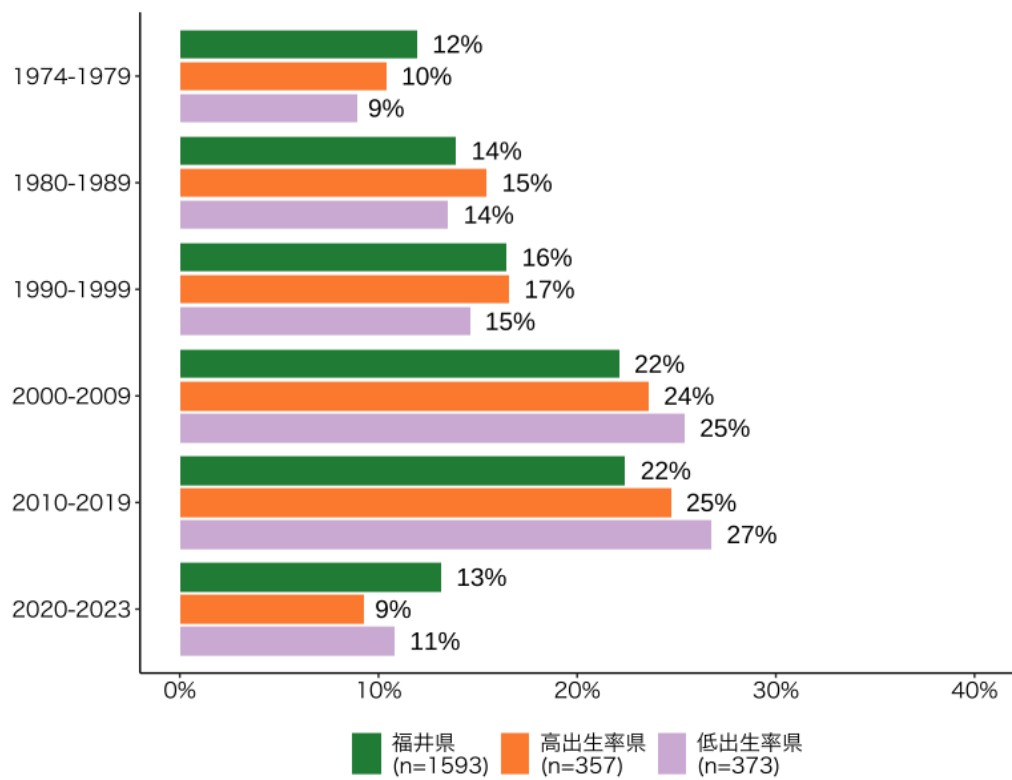
問 31 性別【全員回答】



問 32 年齢【全員回答】 問 33 は省略。

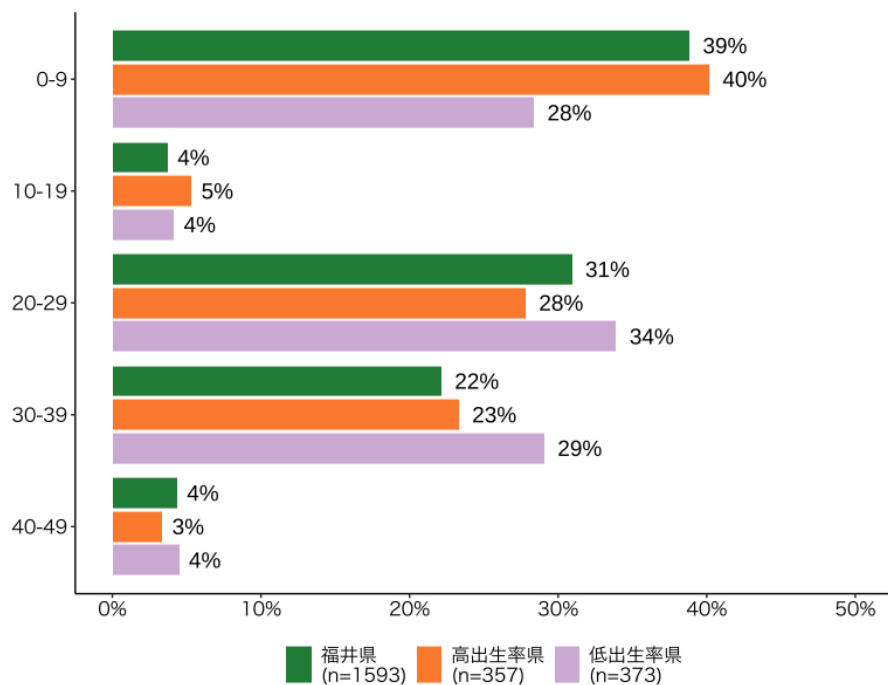


問 34. 現在の居住地に住み始めた年【全員回答】

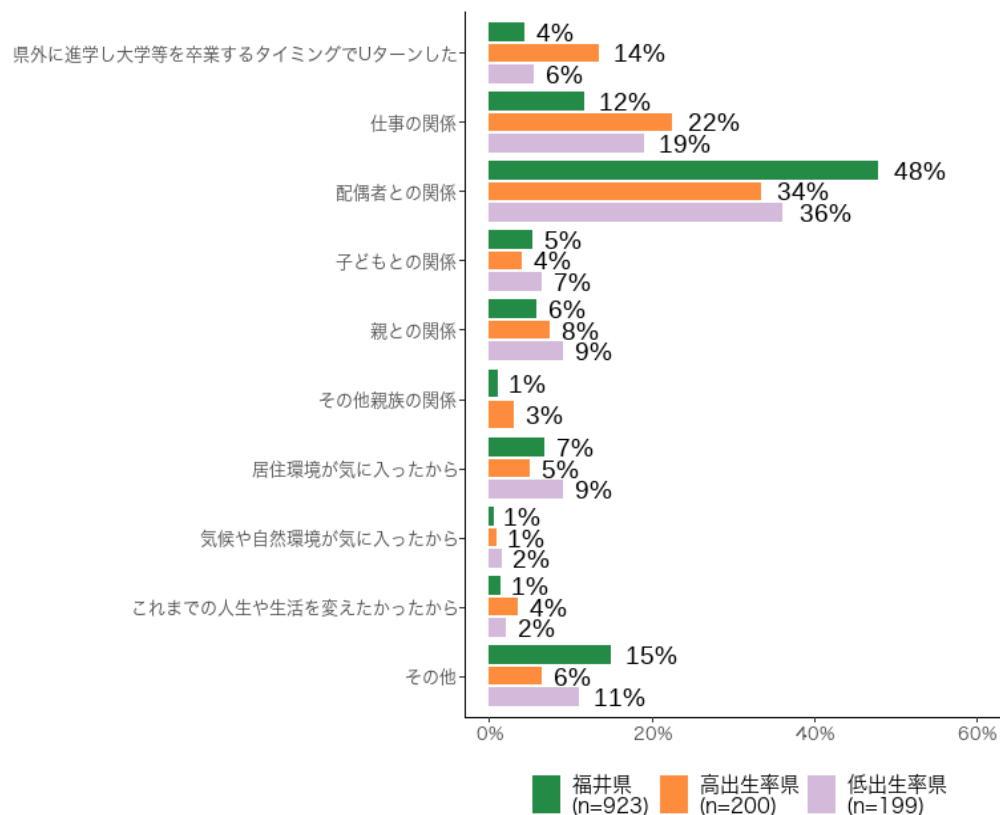


欠損値：福井県に19ケース；高出生率県に1ケース；低出生率県に3ケース

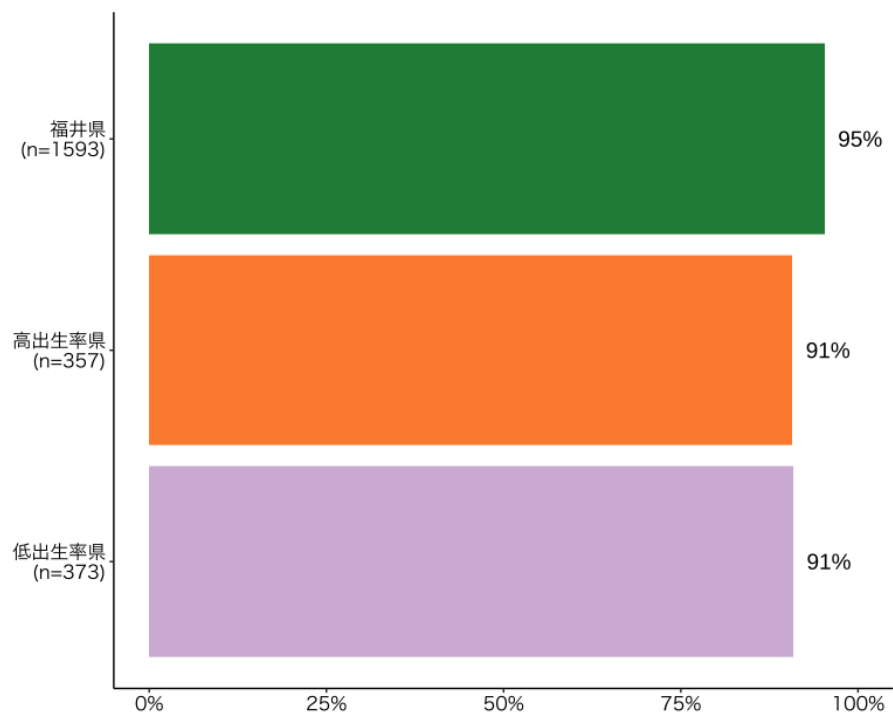
問 34. 現在の居住地に住み始めた年齢【全員回答】



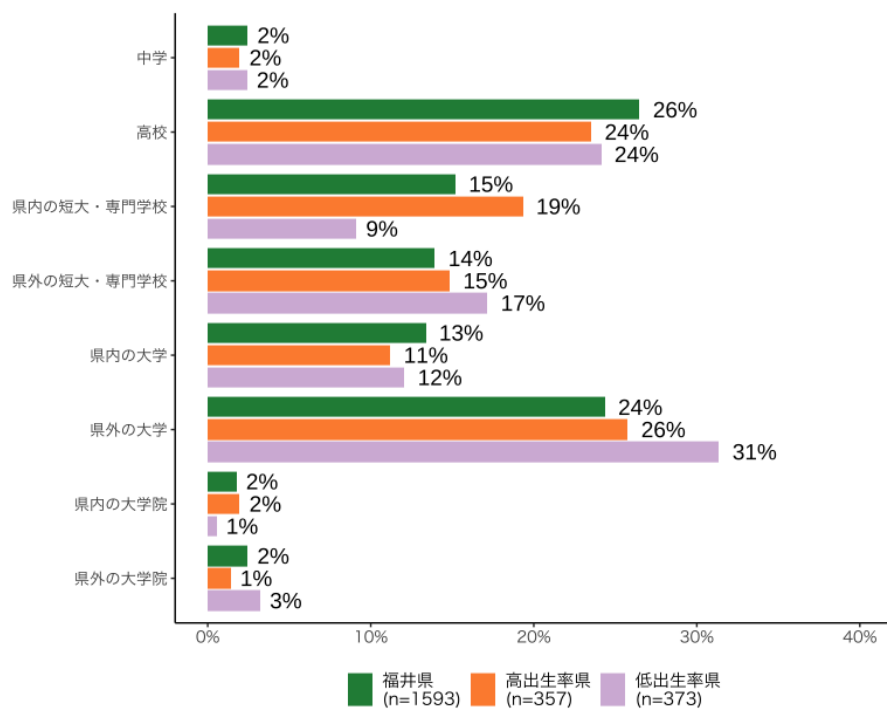
問 35. 現在の居住地に居住している理由【問 34 で満 18 歳以降に住み始めた方のみ】



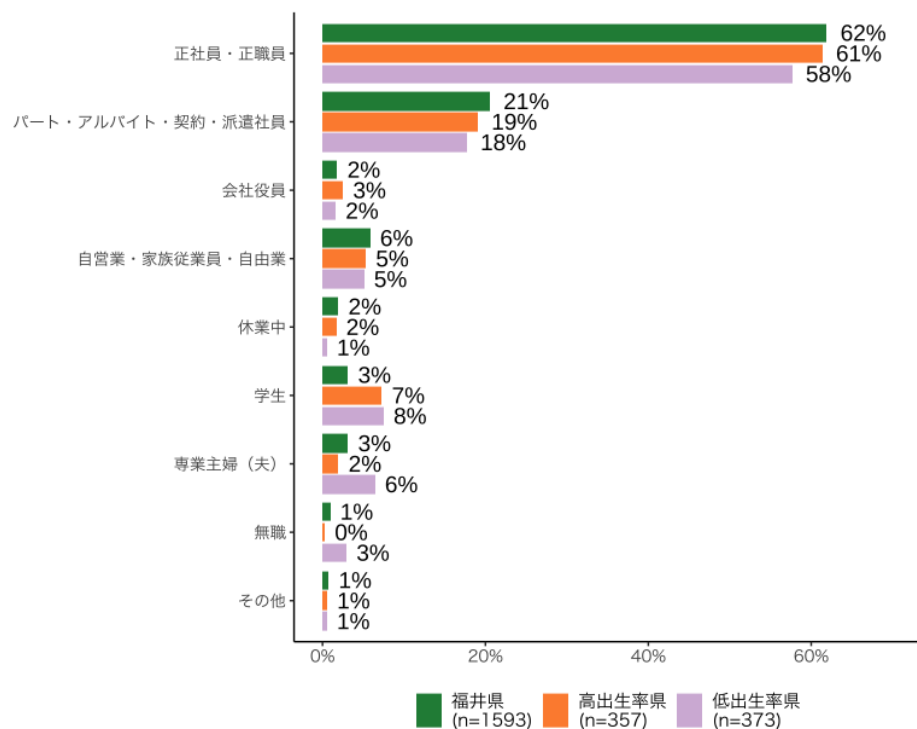
問 36. 既に学校を卒業している人の割合【全員回答】



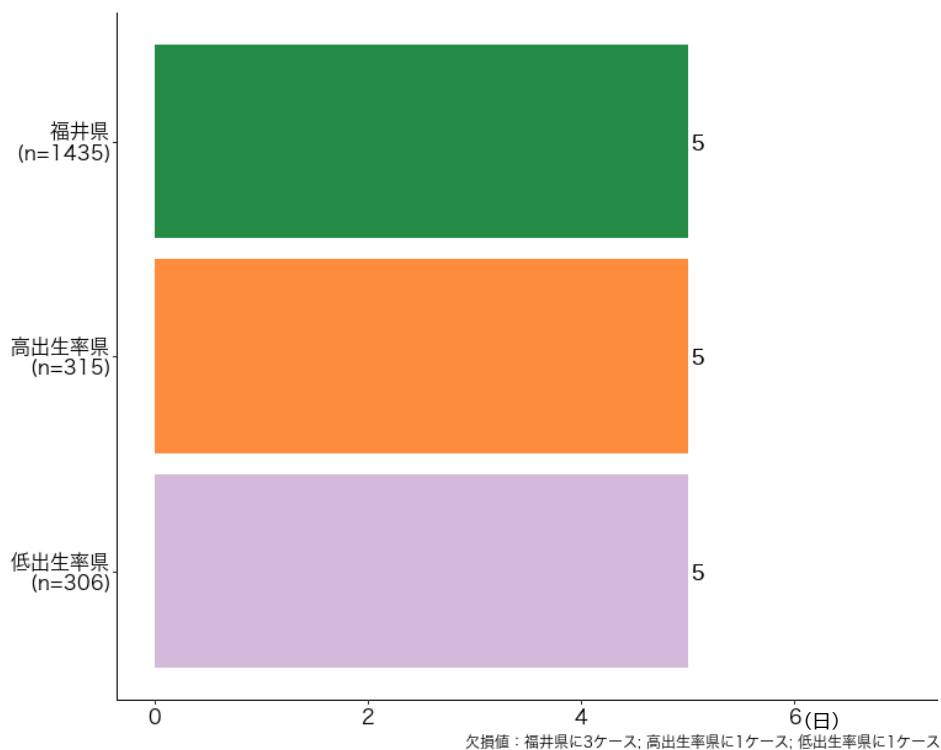
問 37 最終学歴または在学中の学校【全員回答】



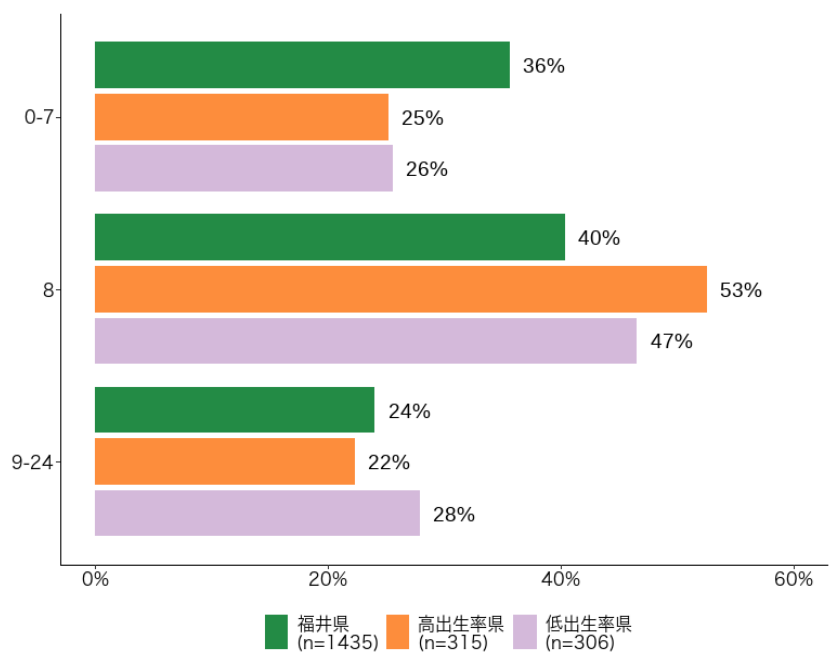
問 38 就労形態【全員回答】



問 39 1 週間の平均的な労働日数【問 38 で就労していると回答した人のみ】

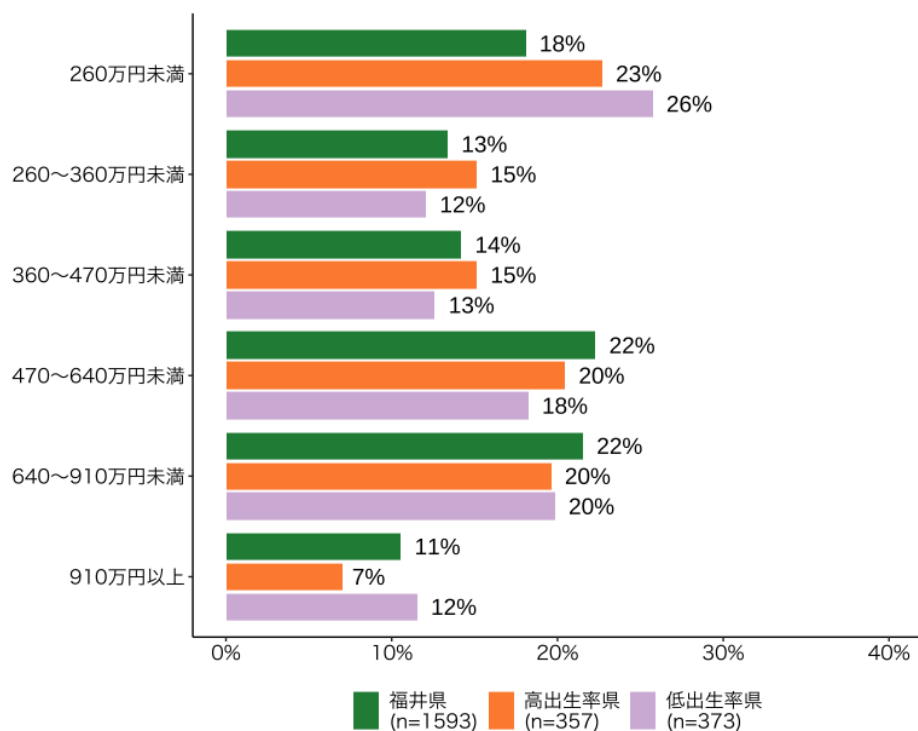


問 40 1日の平均的な労働時間【問 38 で就労していると回答した人のみ】

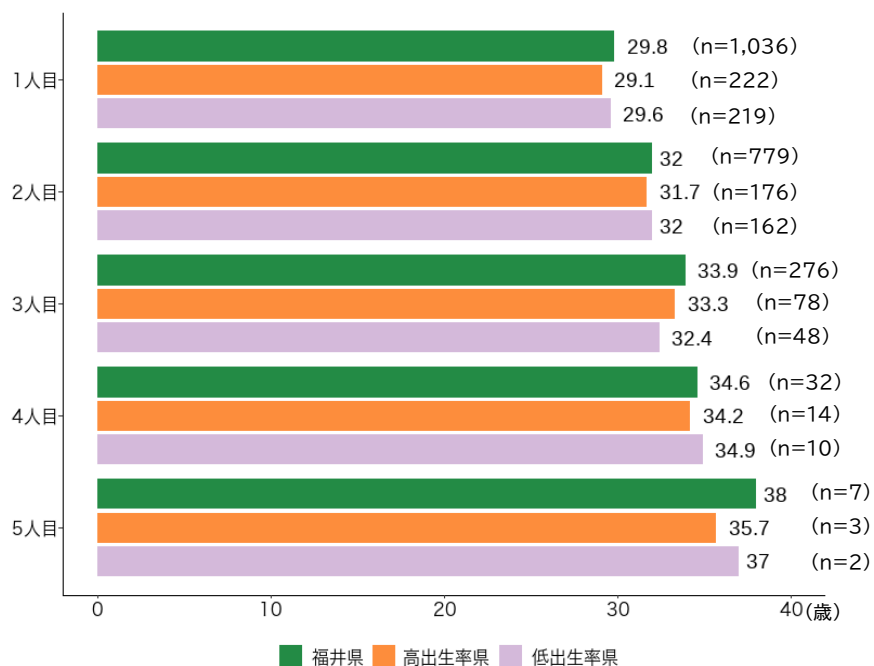


欠損値：福井県に12ケース；高出生率県に176ケース；低出生率県に1ケース

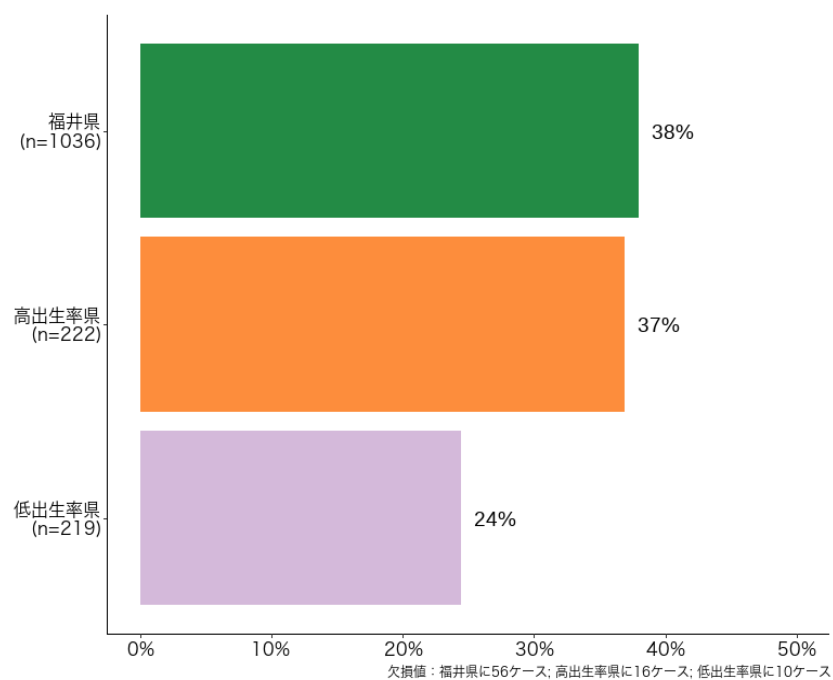
問 41 ご自身と配偶者を合わせた昨年1年間の年収、配偶者がいない場合はご自身だけの年収【全員回答】



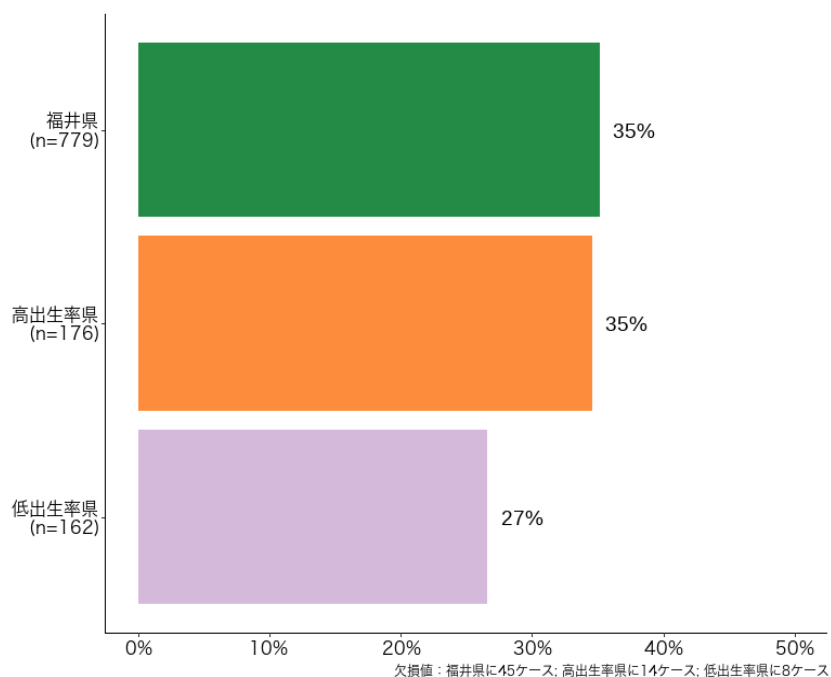
問 42 それぞれの子どもを出産した年齢【問 4 で回答した子ども数】



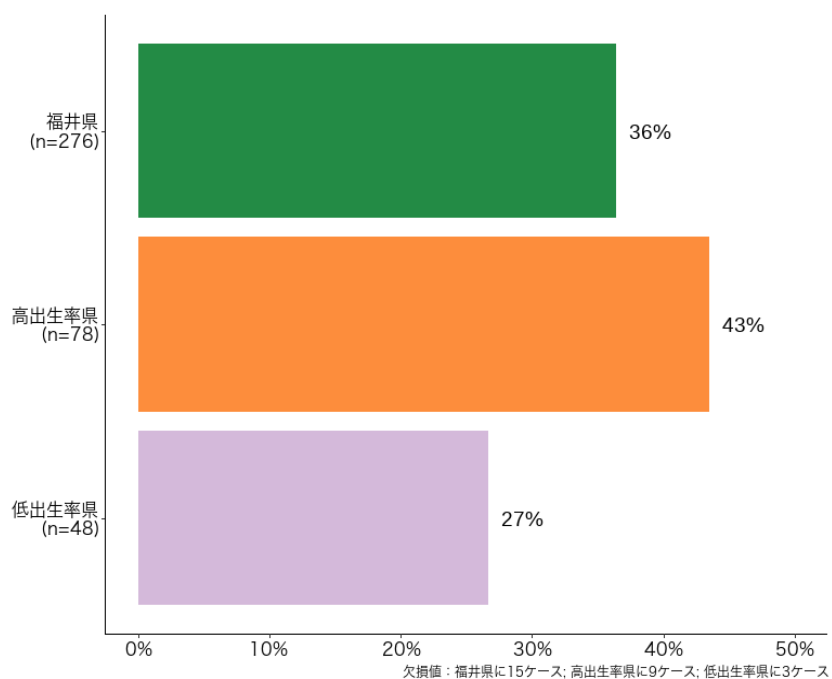
問 43.1 育児休業を取得した人の割合（第一子時）【問 4 で子どもが一人以上と回答した人】



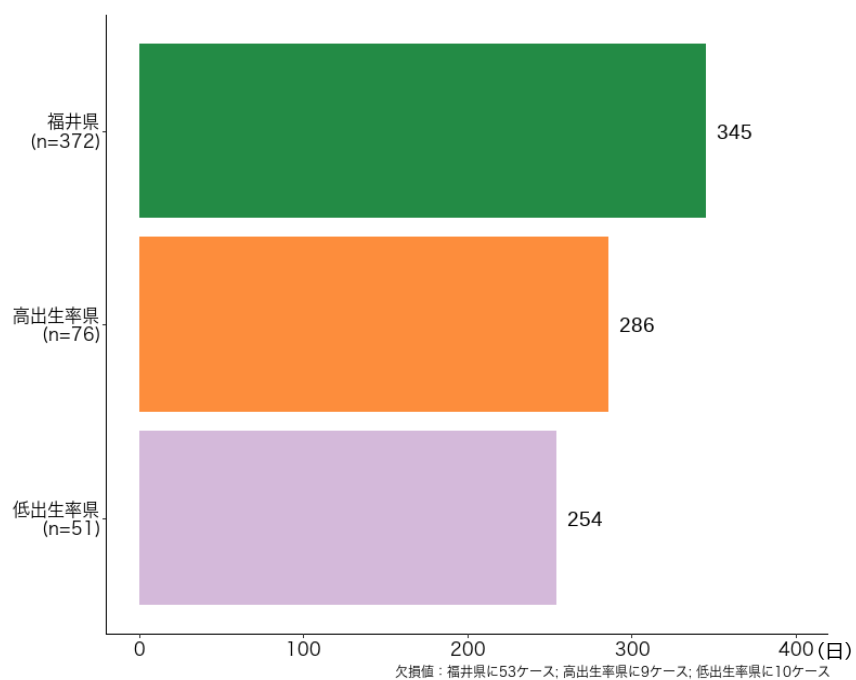
問 43.1 育児休業を取得した人の割合（第二子時）【問 4 で子どもが二人以上と回答した人】



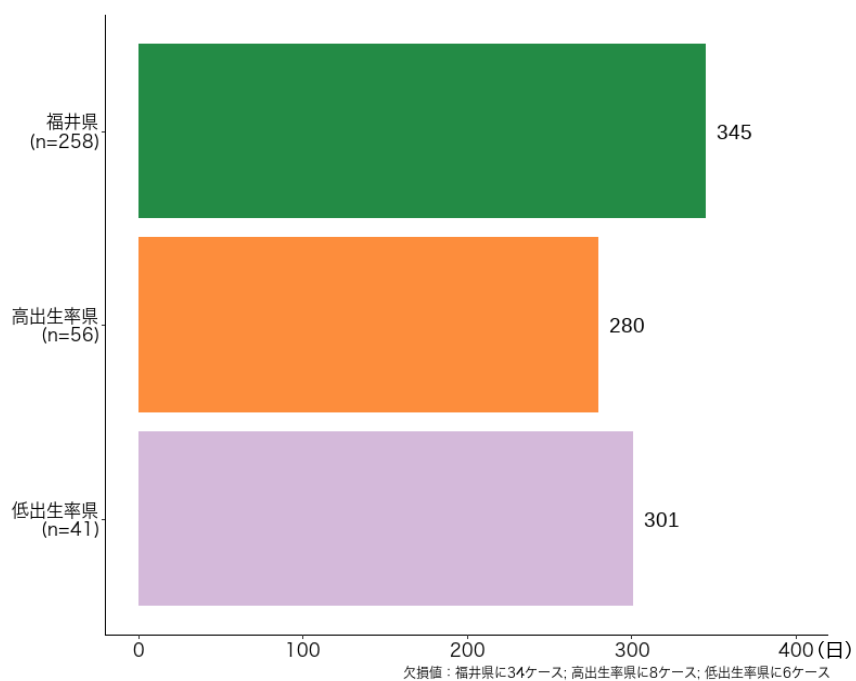
問 43.1 育児休業を取得した人の割合（第三子時）【問 4 で子どもが三人以上と回答した人】



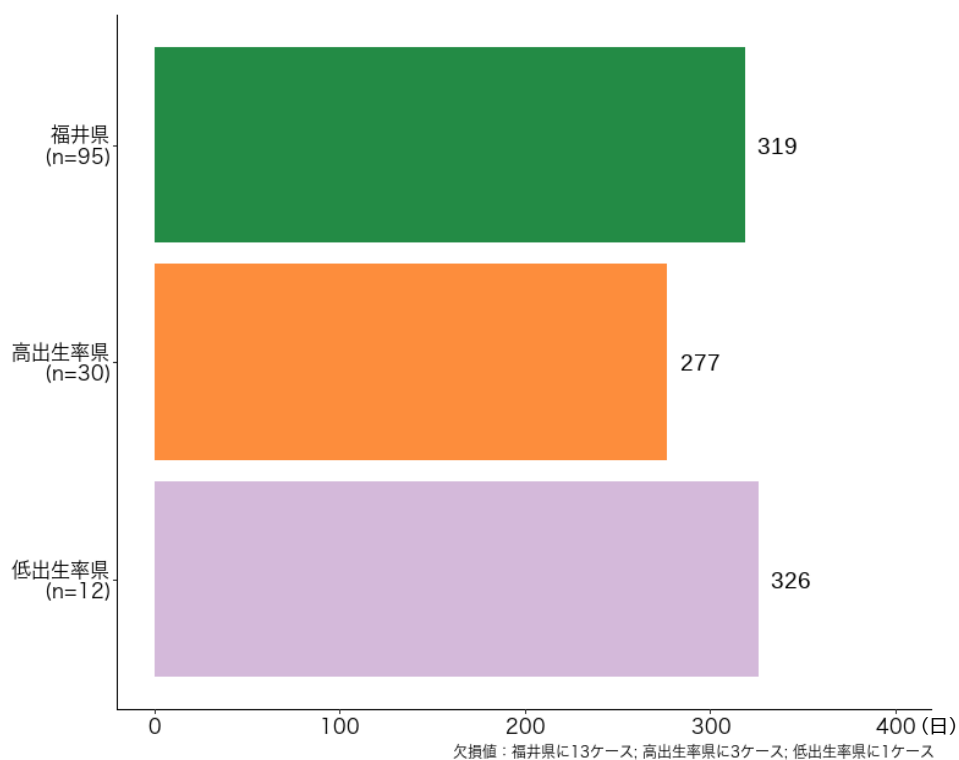
問 43.2 育児休業取得の平均期間（第一子時）【問 43.1 で育児休業取得した（第一子時）と回答した人】（日）



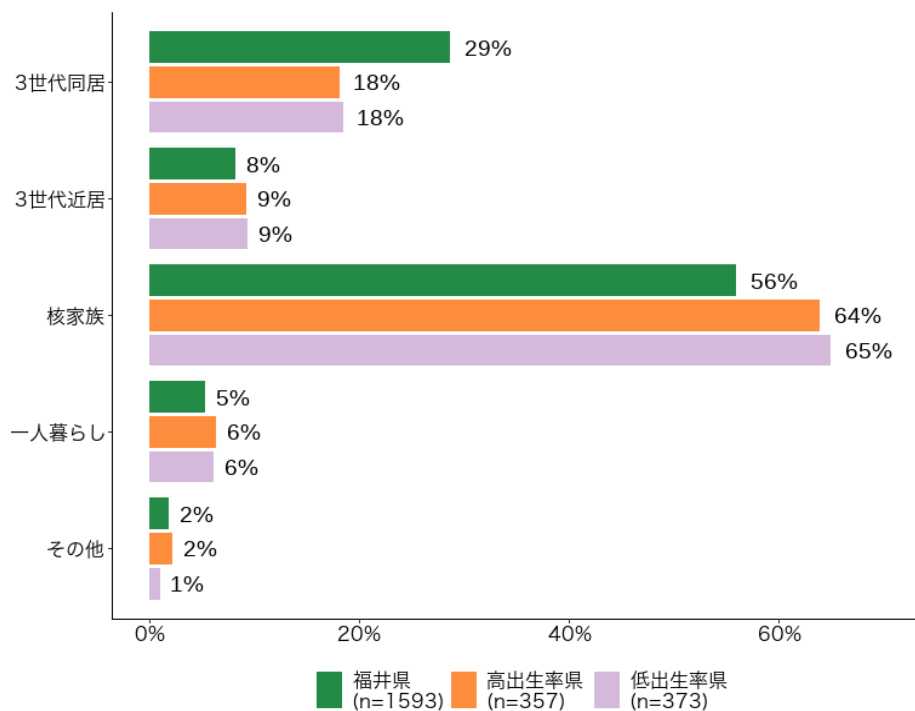
問 43.2 育児休業取得の平均期間（第二子時）【問 43.1 で育児休業取得した（第二子時）と回答した人】（日）



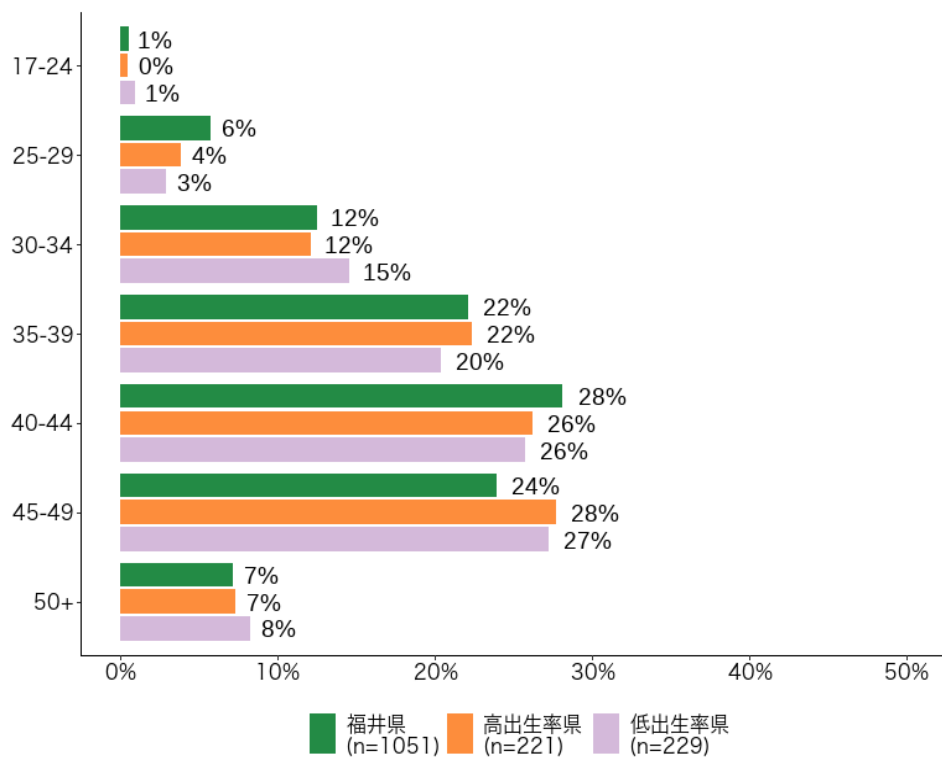
問 43.2 育児休業取得の平均期間（第三子時）【問 43.1 で育児休業取得した（第三子時）と回答した人】（日）



問 44 世帯の状況【全員回答】

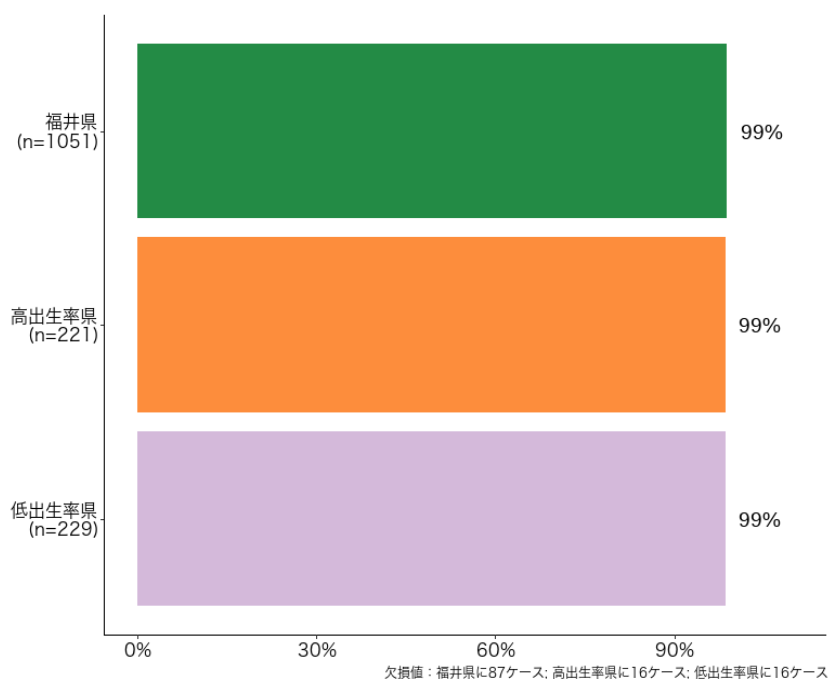


問 45 配偶者の年齢【問 3 で配偶者がいると回答した人のみ】

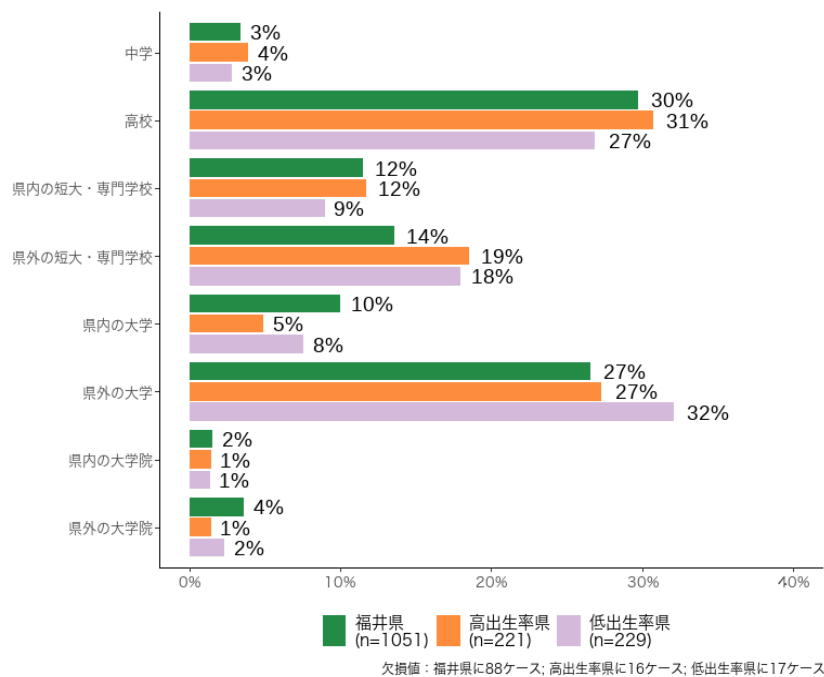


問 46 配偶者が学校を卒業している（※在学中でない）人の割合

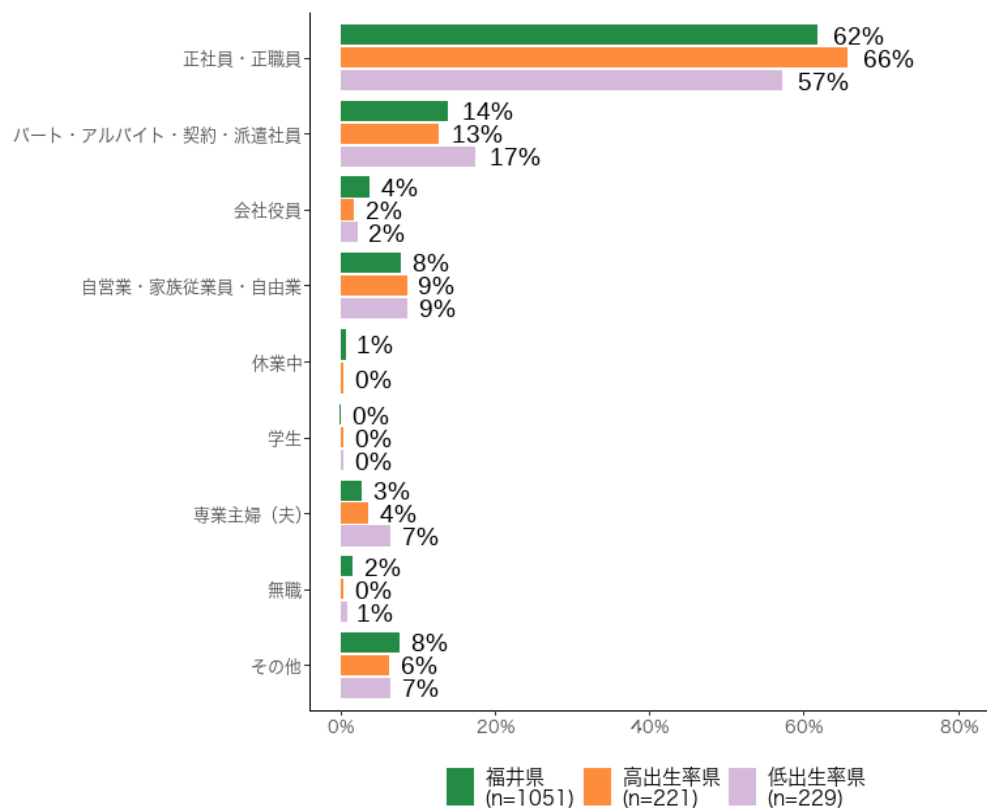
【問 3 で配偶者がいると回答した人のみ】



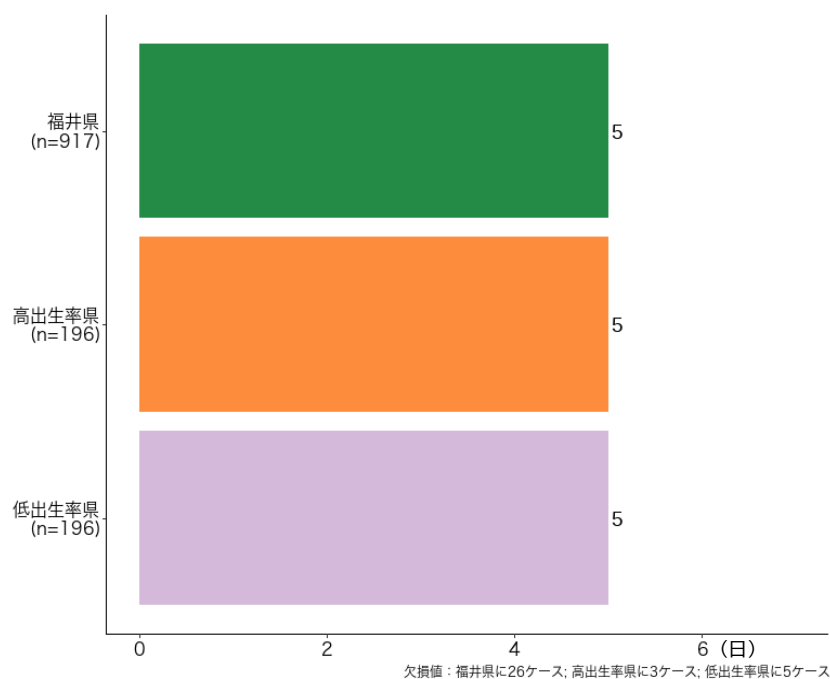
問 47 配偶者の最終学歴または在学中の学校【問 3 で配偶者がいると回答した人のみ】



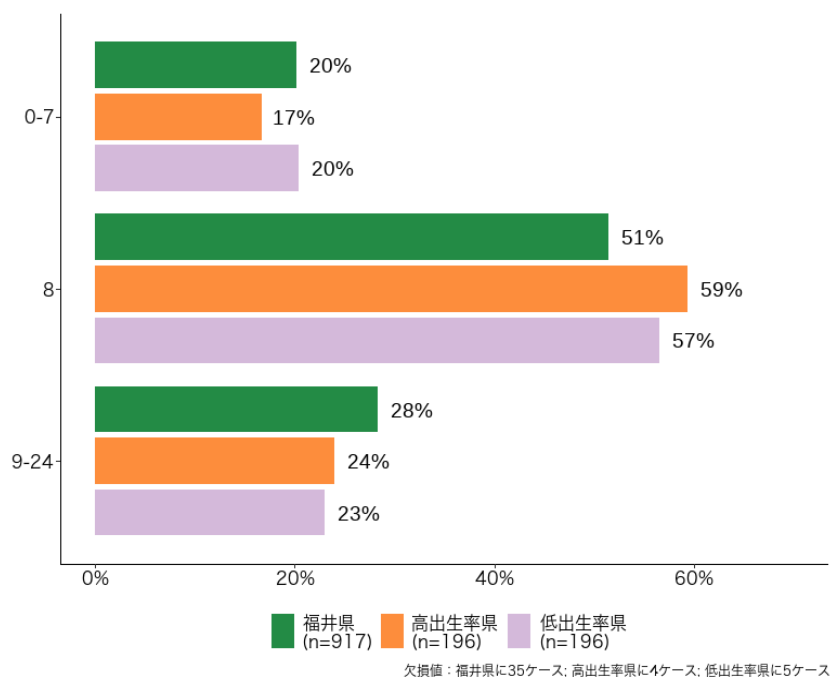
問 48 配偶者の就労形態【問 3 で配偶者がいると回答した人のみ】



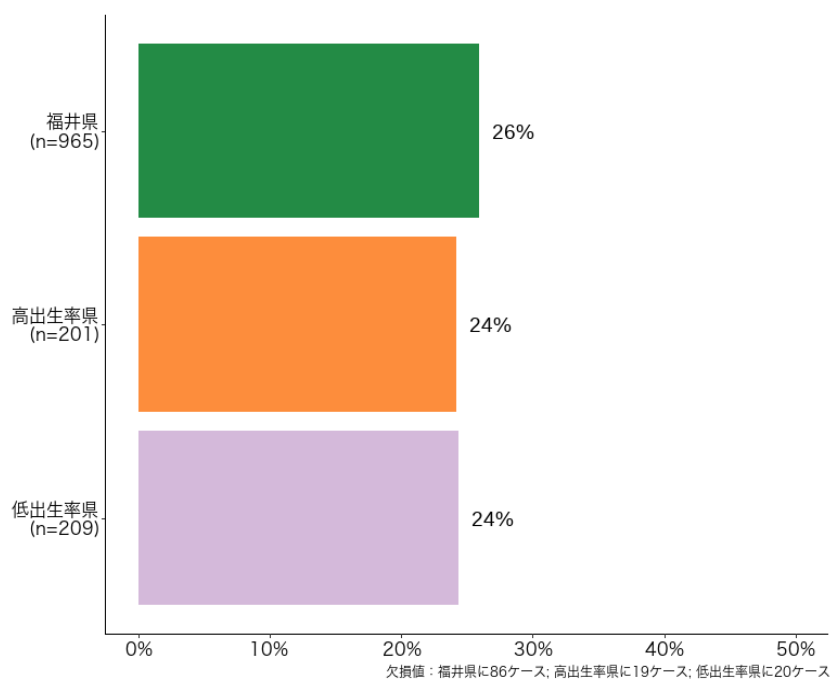
問 49 配偶者の1週間の平均的な労働日数【問3で配偶者がいると回答し、問48で就労している人のみ】



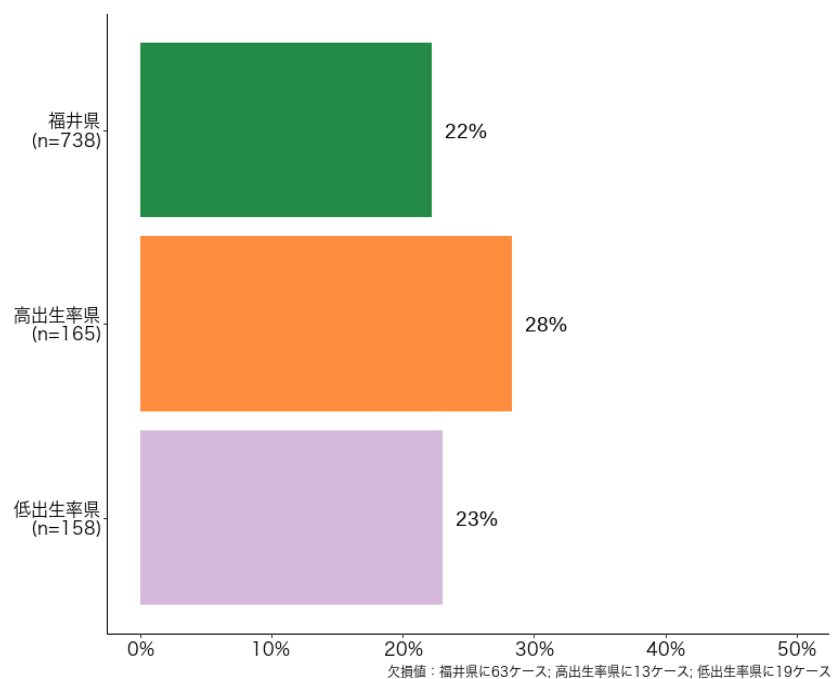
問 50 配偶者の1日の平均的な労働時間【問3で配偶者がいると回答し、問48で就労している人のみ】



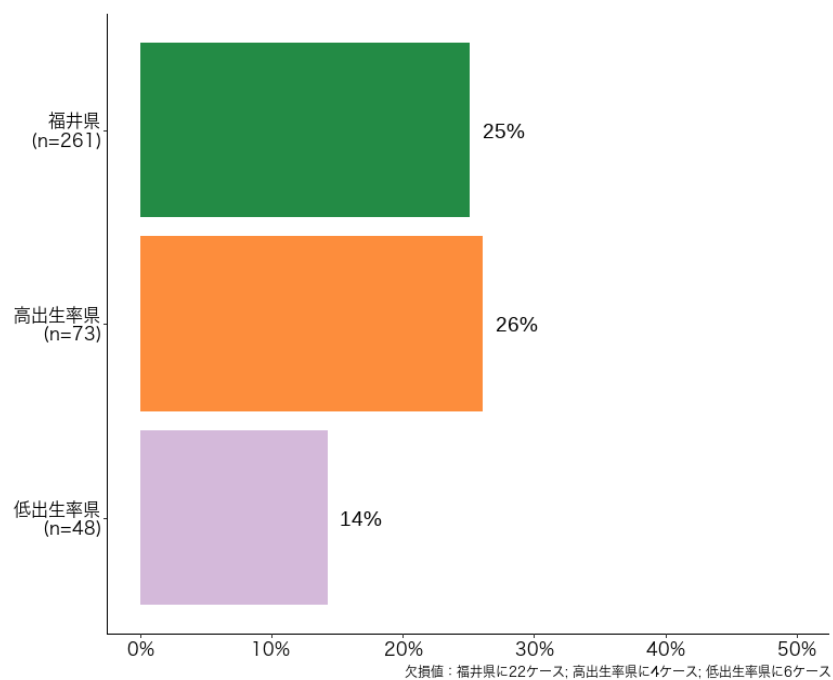
問 51.1 配偶者が育児休業を取得した人の割合（第一子時）【問 3 で配偶者がいる、問 4 で子どもが一人以上と回答した人】



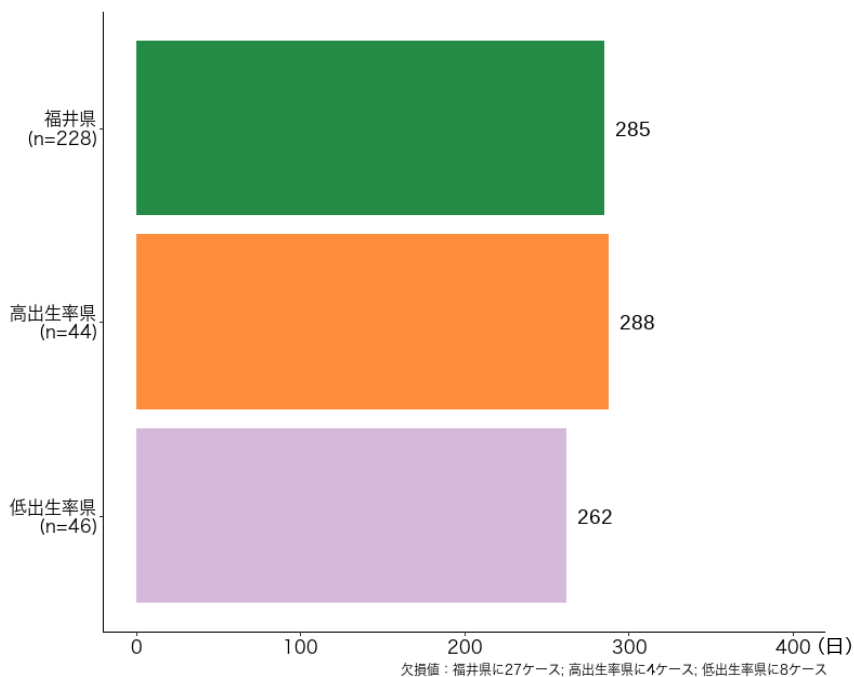
問 51.1 配偶者が育児休業を取得した人の割合（第二子時）【問 3 で配偶者がいる、問 4 で子どもが二人以上と回答した人】



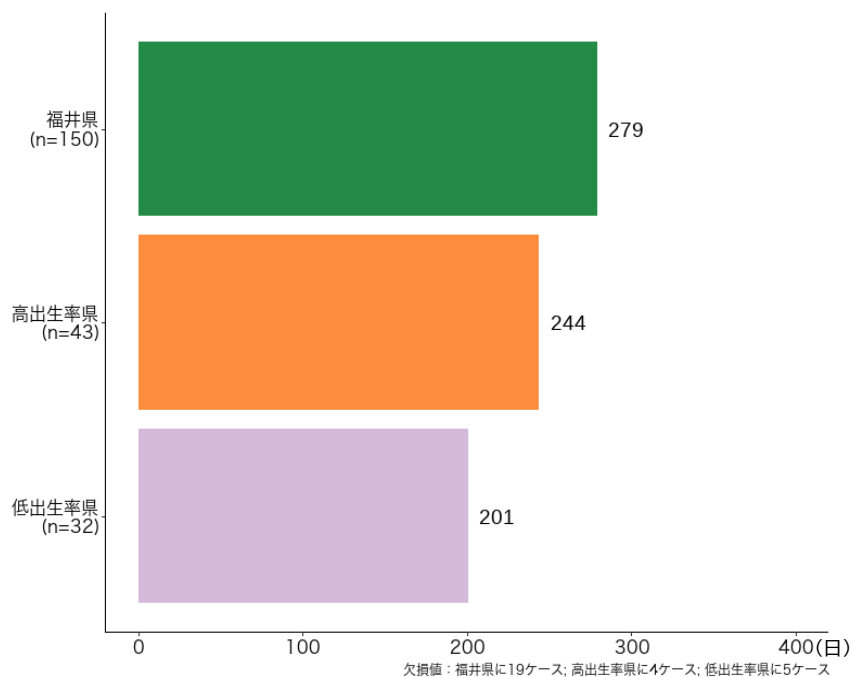
問 51.1 配偶者が育児休業を取得した人の割合（第三子時）【問 3 で配偶者がいる、問 4 で子どもが三人以上と回答した人】



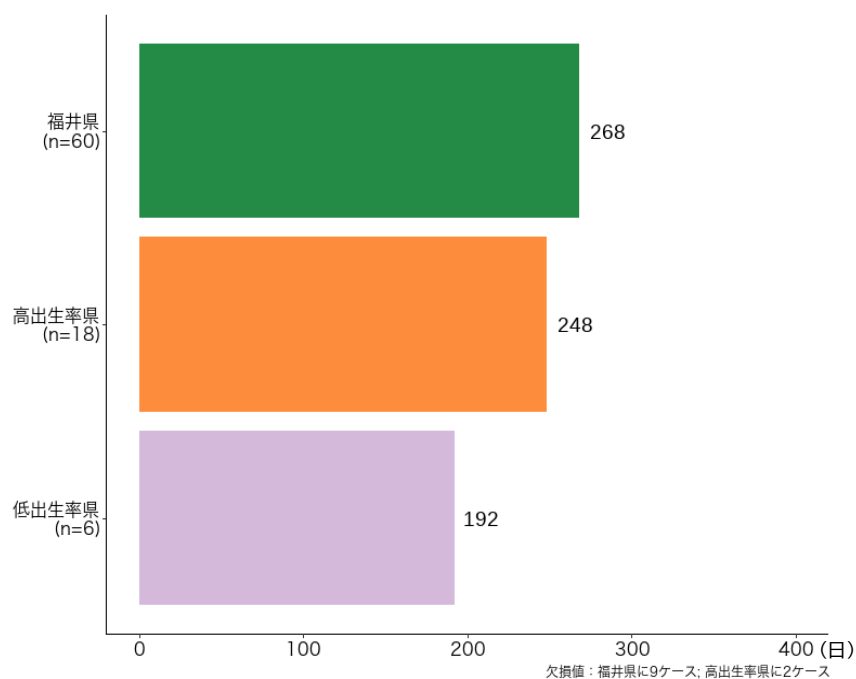
問 51.2 配偶者の育児休業取得の平均期間（第一子時）【問 51.1 で育児休業取得した（第一子時）と回答した人】



問 51.2 配偶者の育児休業取得の平均期間（第二子時）【問 51.1 で育児休業取得した（第二子時）と回答した人】



問 51.2 配偶者の育児休業取得の平均期間（第三子時）【問 51.1 で育児休業取得した（第三子時）と回答した人】



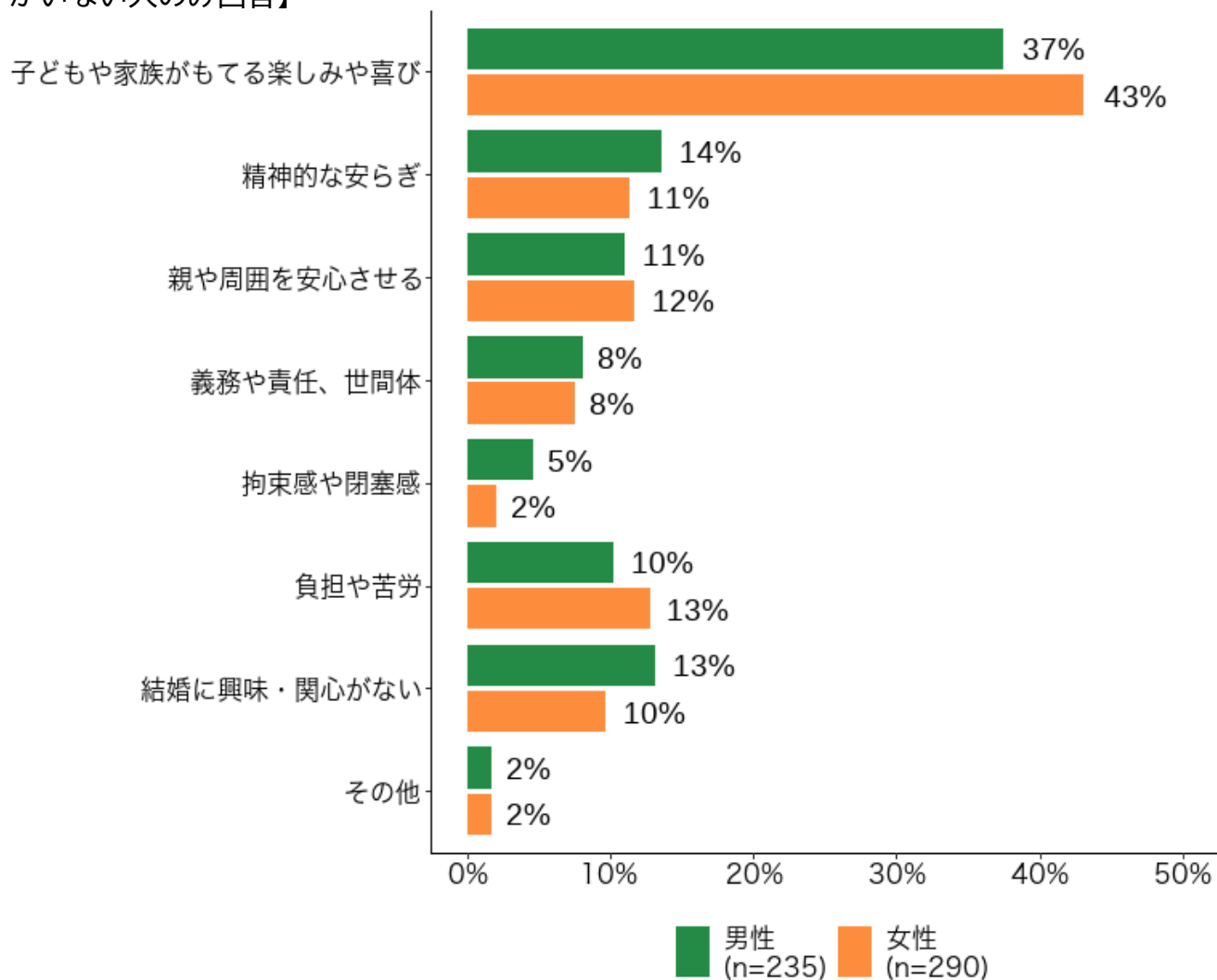
第二部：福井県のクロス集計表

福井県に絞り、性別、年齢、また配偶者の有無や子どもの有無別に分けて集計する。

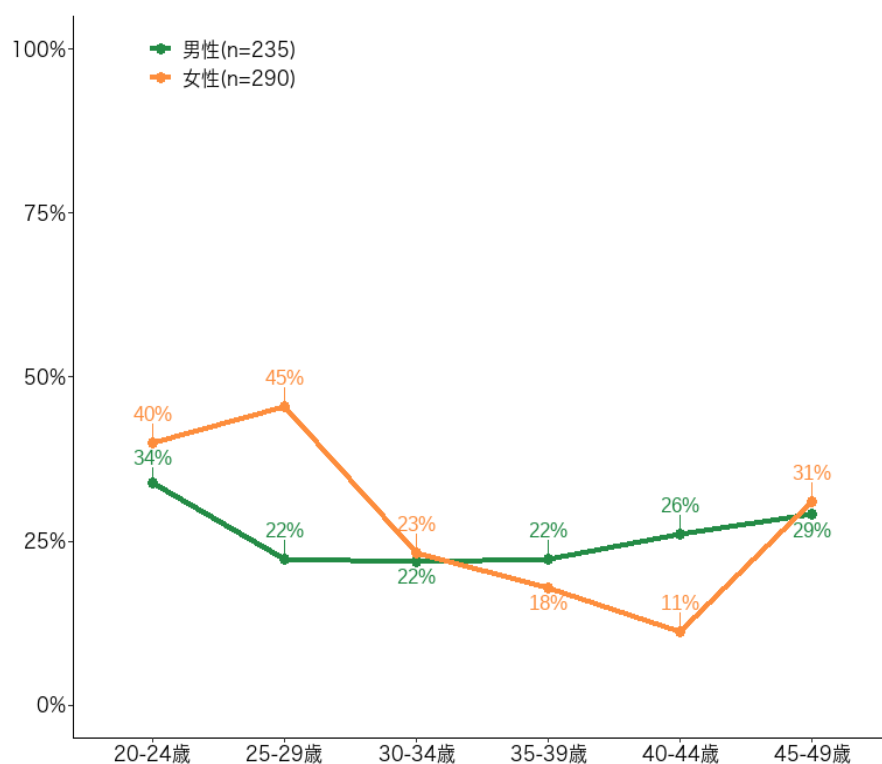
1. 結婚に関すること

交際相手がいる割合は、25 - 44 歳では男性は 25%前後で一定なのに対し、女性は 25 - 29 歳の 45%から 40 - 44 歳には 11%まで減少している。この年齢までに結婚したいという年齢は男性 37.8 歳と女性に比べて 3.8 歳高い値だ。結婚に至っていない理由として、経済要因を挙げる割合は男性の方が高かった。

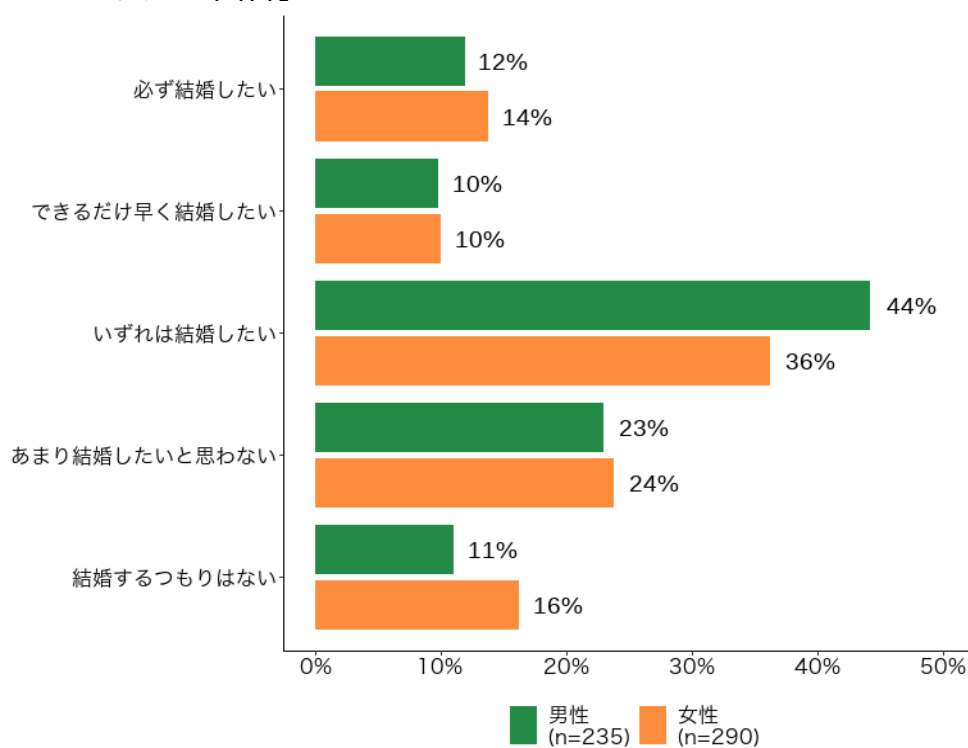
問1 結婚に対するイメージ【福井県内の調査のうち、結婚したことがない、または配偶者がいない人のみ回答】



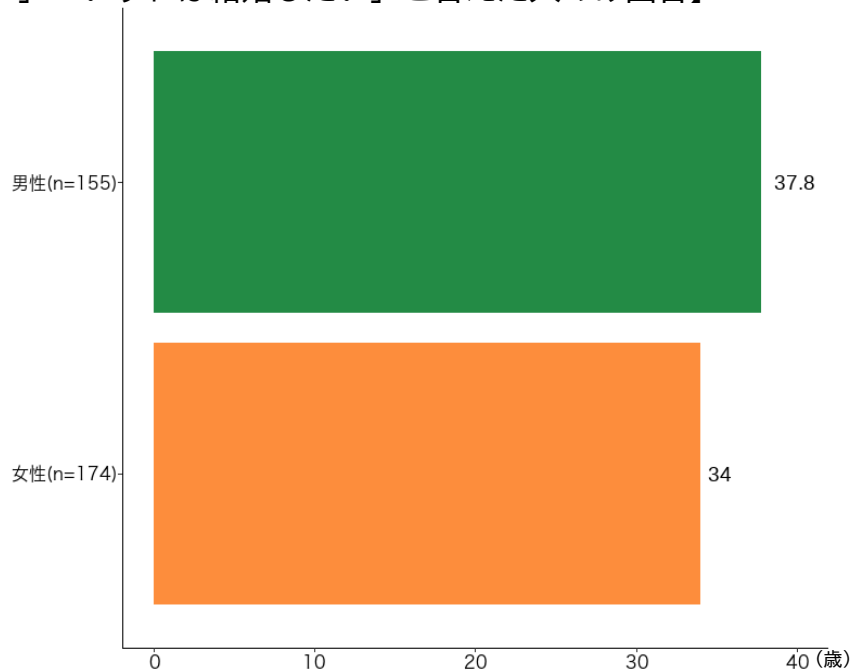
問2 交際相手がいる人の割合【福井県内の調査のうち、結婚したことがない、または配偶者がいない人のみ回答】



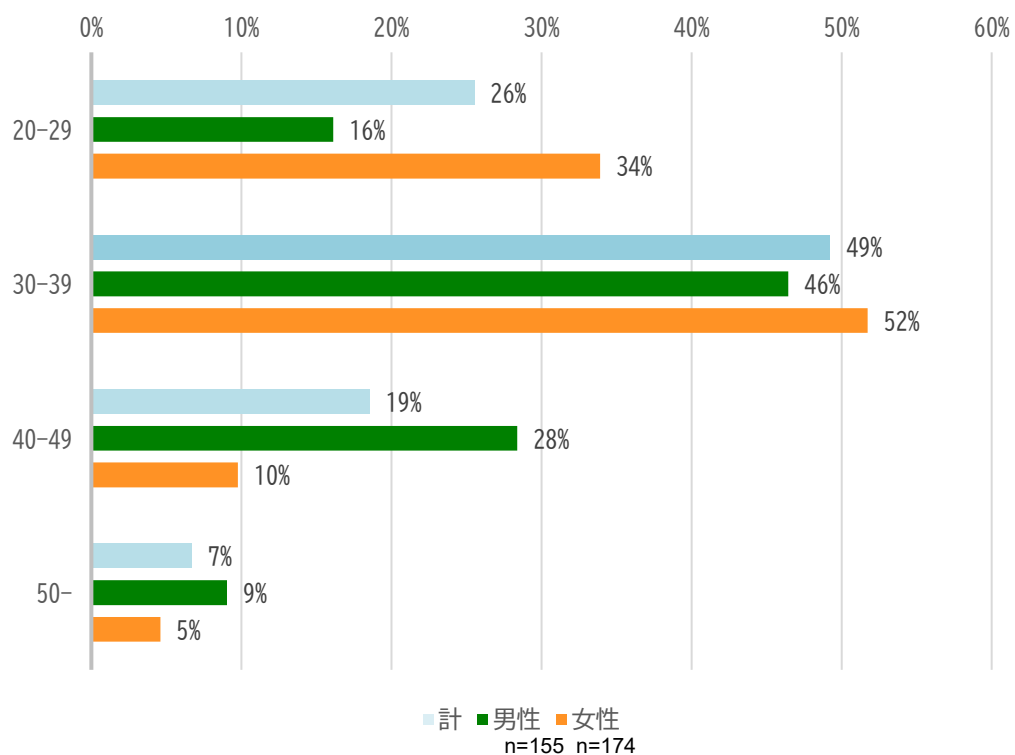
問3 今後結婚する意欲があるか【福井県内の調査のうち、結婚したことがない、または配偶者がいない人のみ回答】



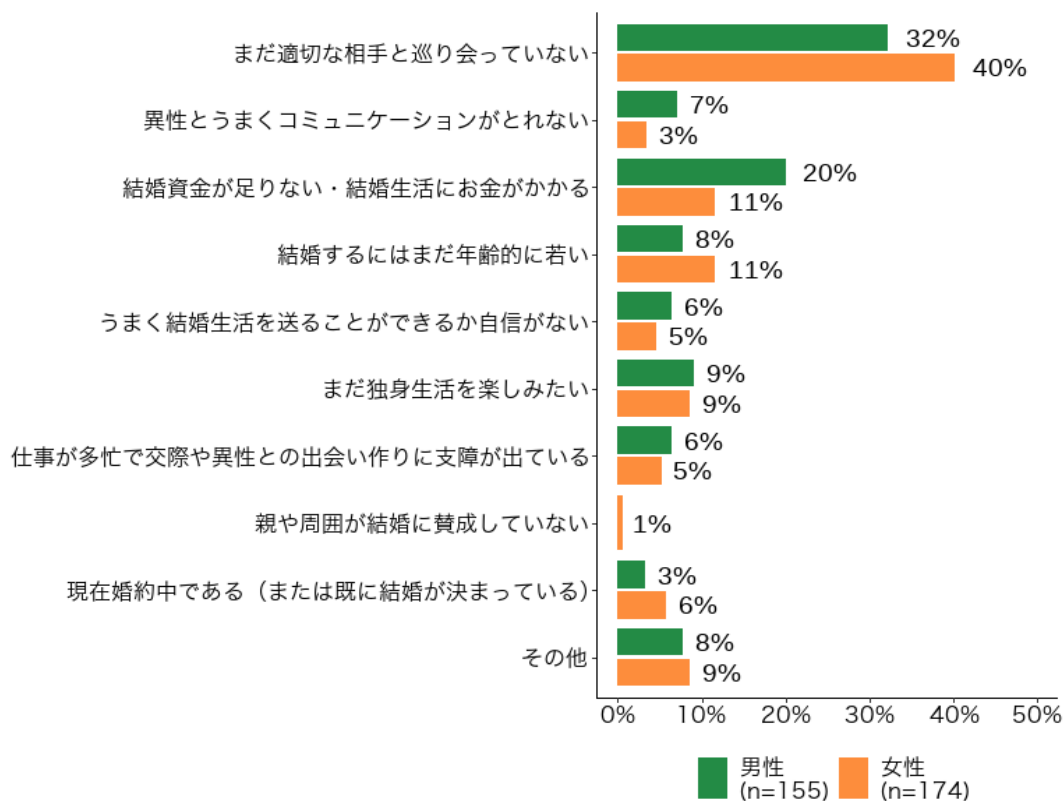
問4 何歳までに結婚したいか（平均値）【問7で「必ず結婚したい」「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚したい」と答えた人のみ回答】



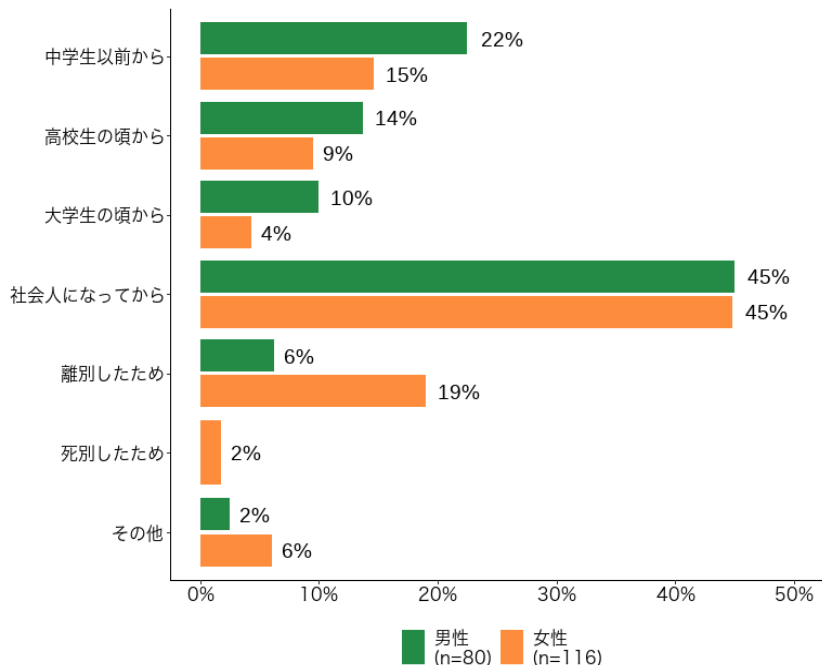
何歳までに結婚したいか（理想の年齢の分布）【問7で「必ず結婚したい」「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚したい」と答えた人のみ回答】



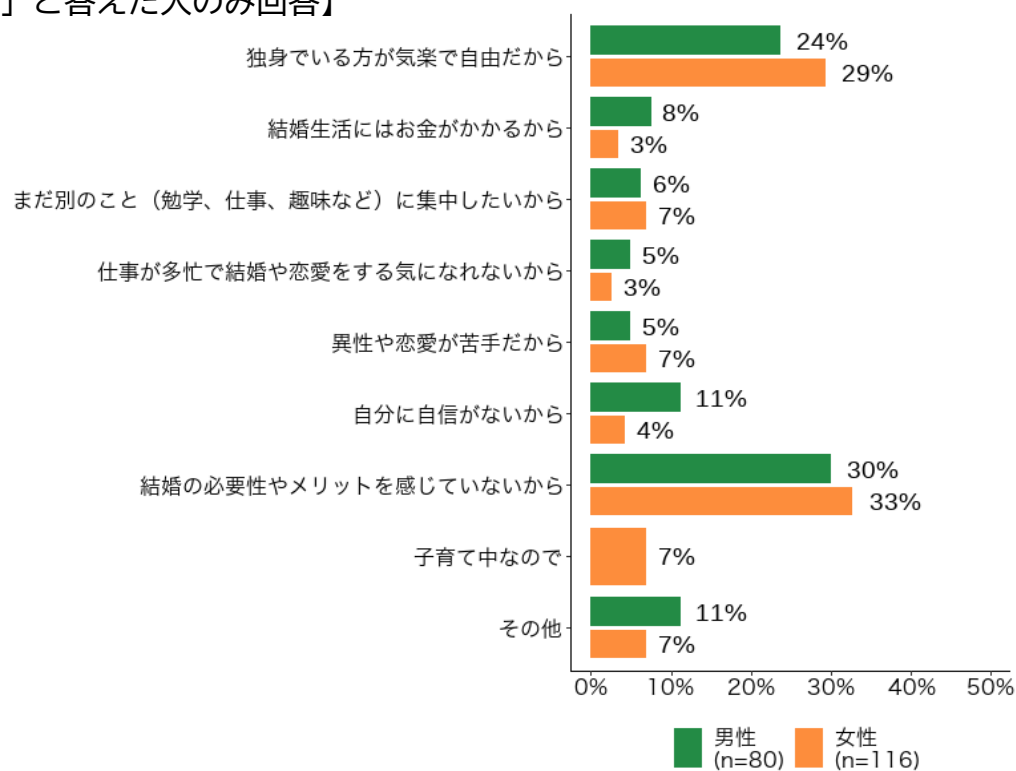
問5 まだ結婚に至っていない理由【問3で「必ず結婚したい」「できるだけ早く結婚したい」「いずれは結婚したい」と答えた人のみ回答】



問6 いつ頃から結婚への意欲がなくなったか【問3で「あまり結婚したいと思わない」「結婚するつもりはない」と答えた人のみ回答】



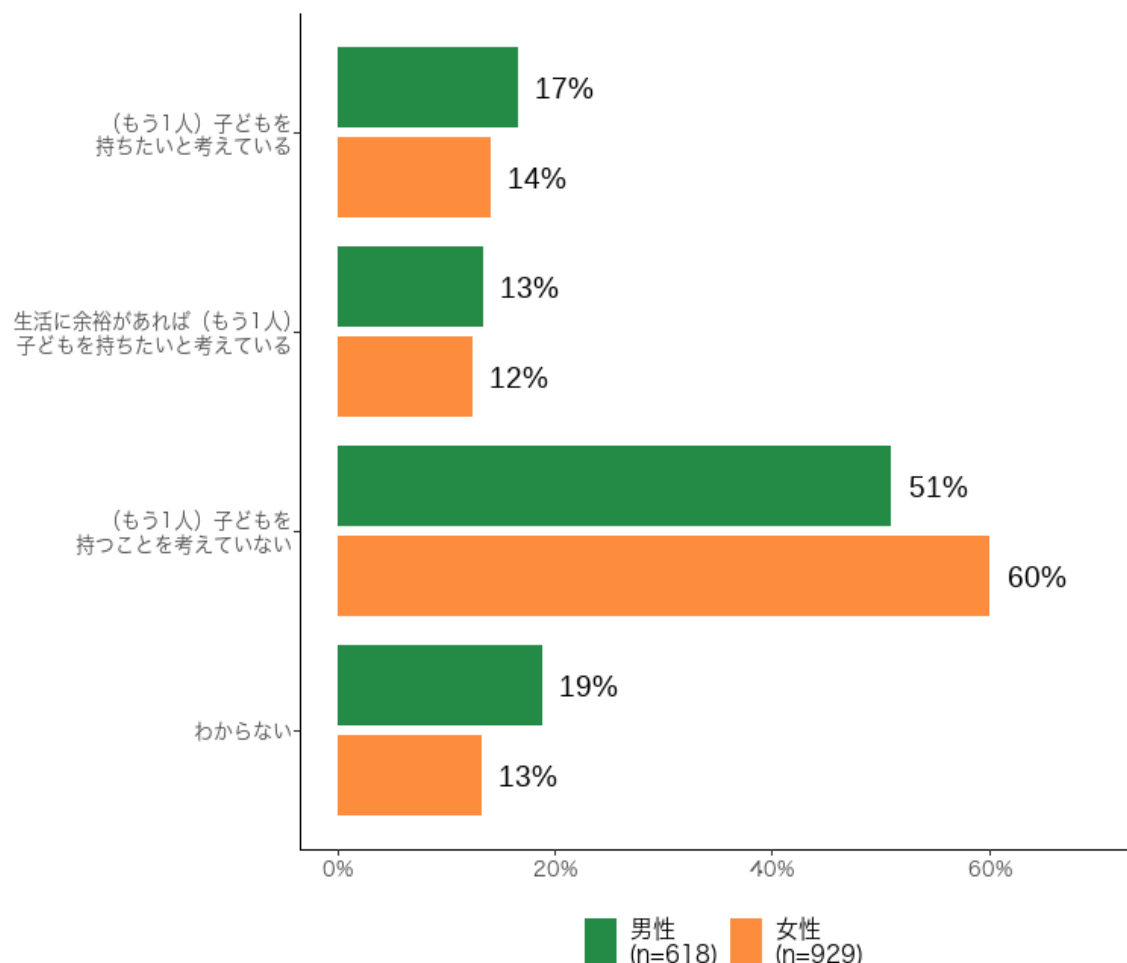
問7 結婚への意欲が無い理由【問3で「あまり結婚したいと思わない」「結婚するつもりはない」と答えた人のみ回答】

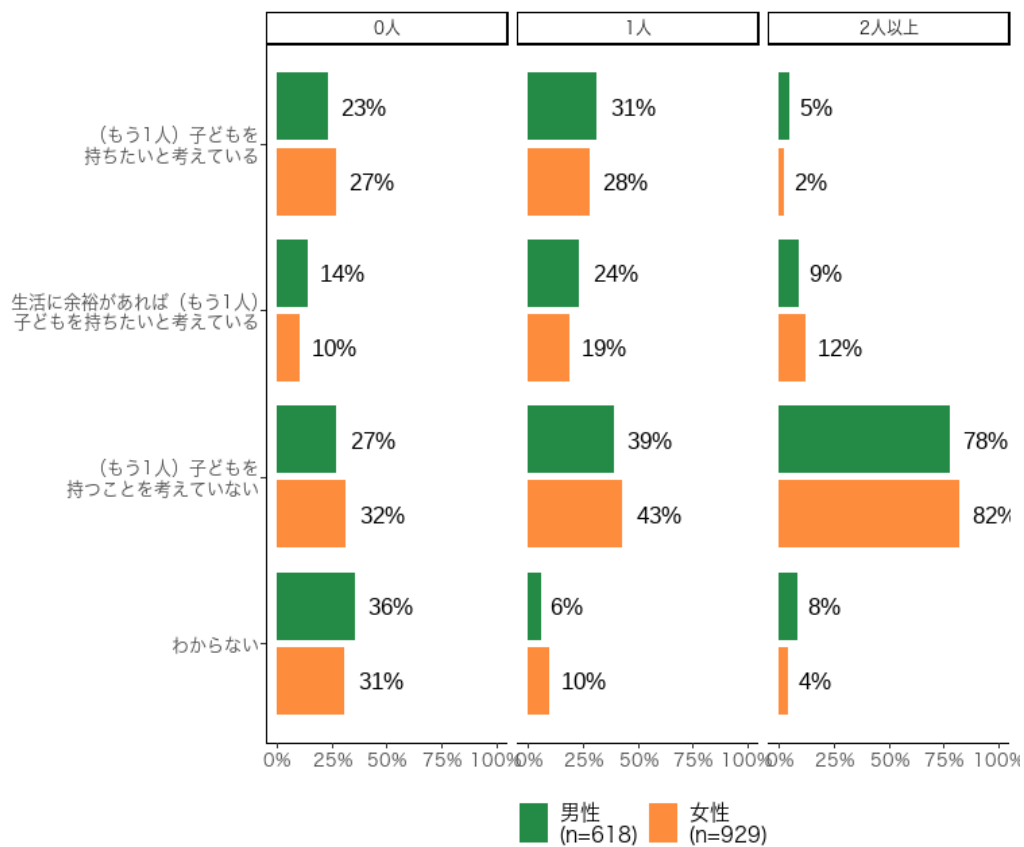
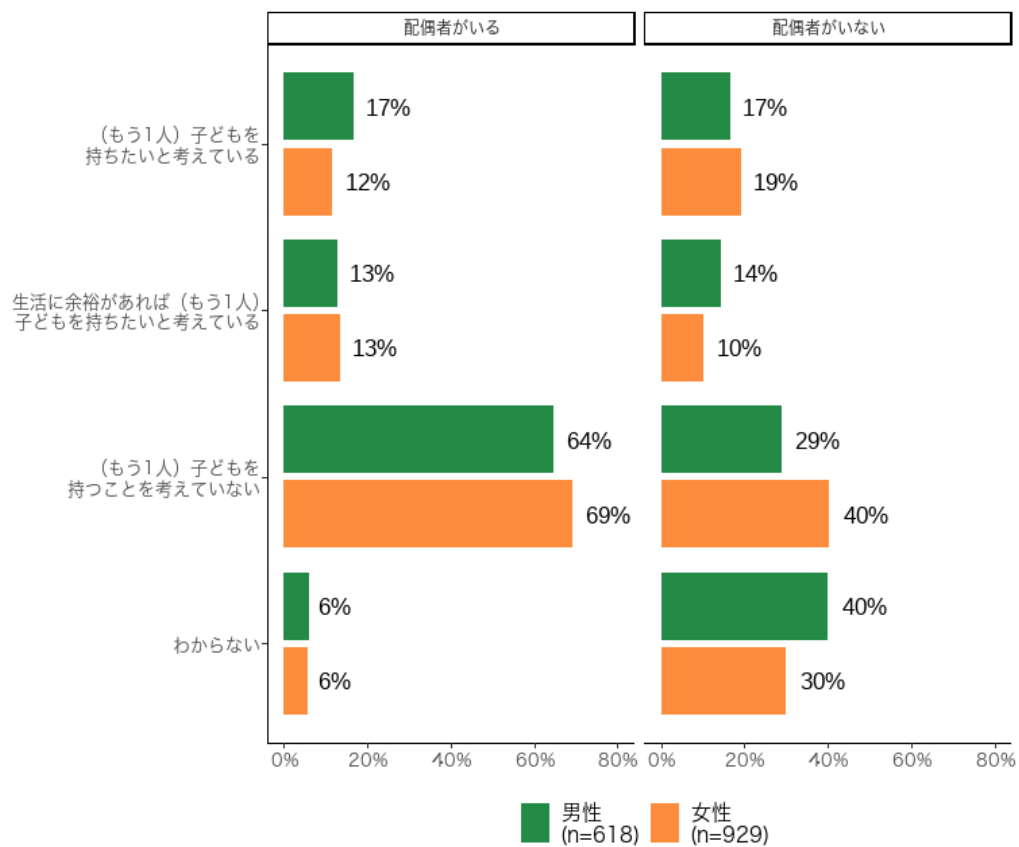


3. 子どもや子育てに関すること

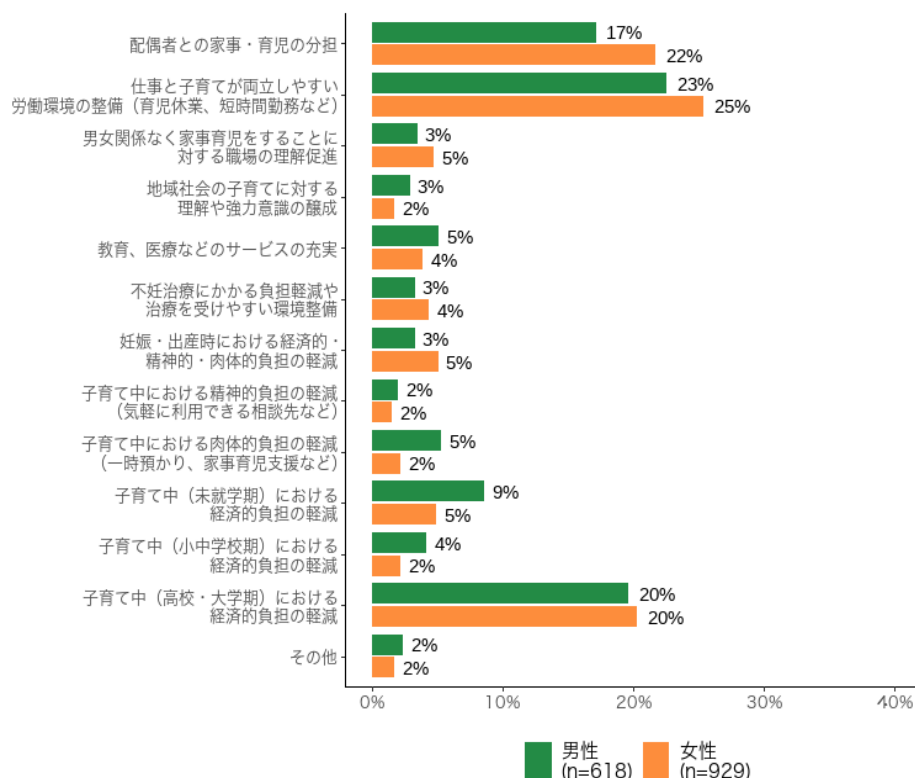
男女差で特徴的なのは、今後3年以内に子どもを持ちたいか、に対する答え方で、女性は「(もう1人)子どもを持つことを考えていない」とする割合が高いのに対し、男性は「わからない」とする割合が高かった。この質問の傾向をさらに詳細にみるために、配偶者の有無と子ども数で分けた分析も試みた。「(もう1人)子どもを持つことを考えていない」と答えている割合は男女ともに配偶者がいる回答者ほど高く、反対に「わからない」と答える割合は配偶者がいない回答者ほど高かった。子ども数別にみても傾向はおおむね似ている。「(もう1人)子どもを持つことを考えていない」割合は子どもが2人以上の回答者で特に高いことが明らかになった。子どもや子育てに対するイメージは男女で分けただけでは特別な傾向がみられなかったが、配偶者の有無や子ども数で分けると、配偶者がいる方が「楽しみや喜び」と答える割合が高く、反対に「義務や責任」と答える割合は配偶者がいない人で高かった。特に男性に顕著な差がみられ、配偶者がいる人で「義務や責任」と答える割合は14%に対し、配偶者がいない人は25%と11%の差がみられた。こうした傾向は子ども数でも同様にみられた。

問8 今後3年以内に子どもを持ちたいと考えているか（すでにお子さんがいる方はもう1人持ちたいと考えているか）【全員回答】 問9は省略

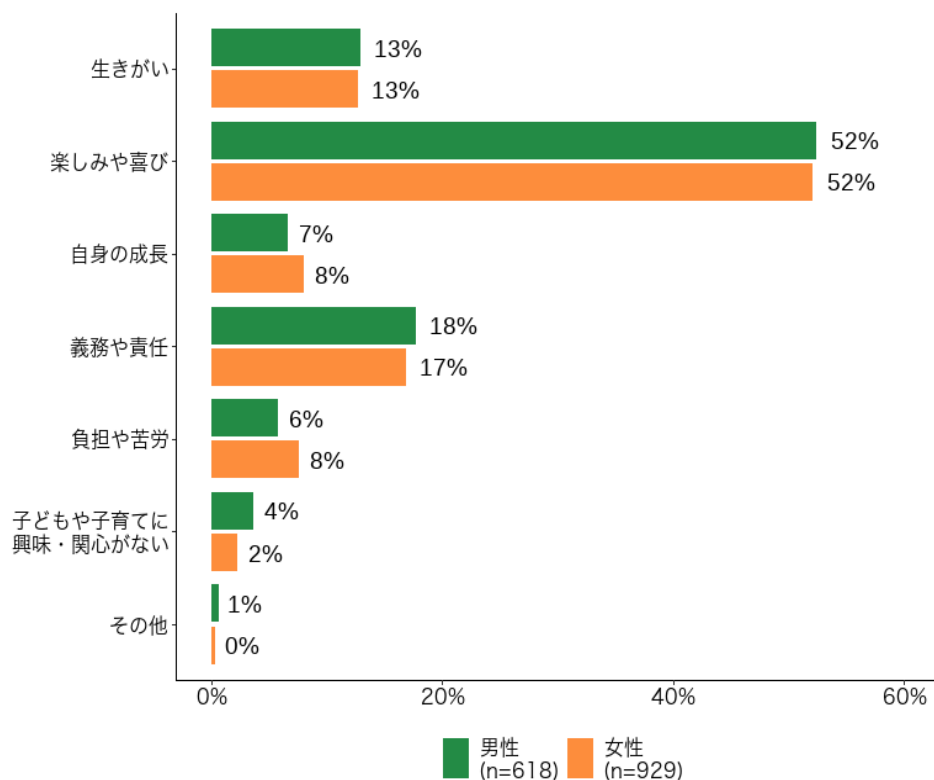


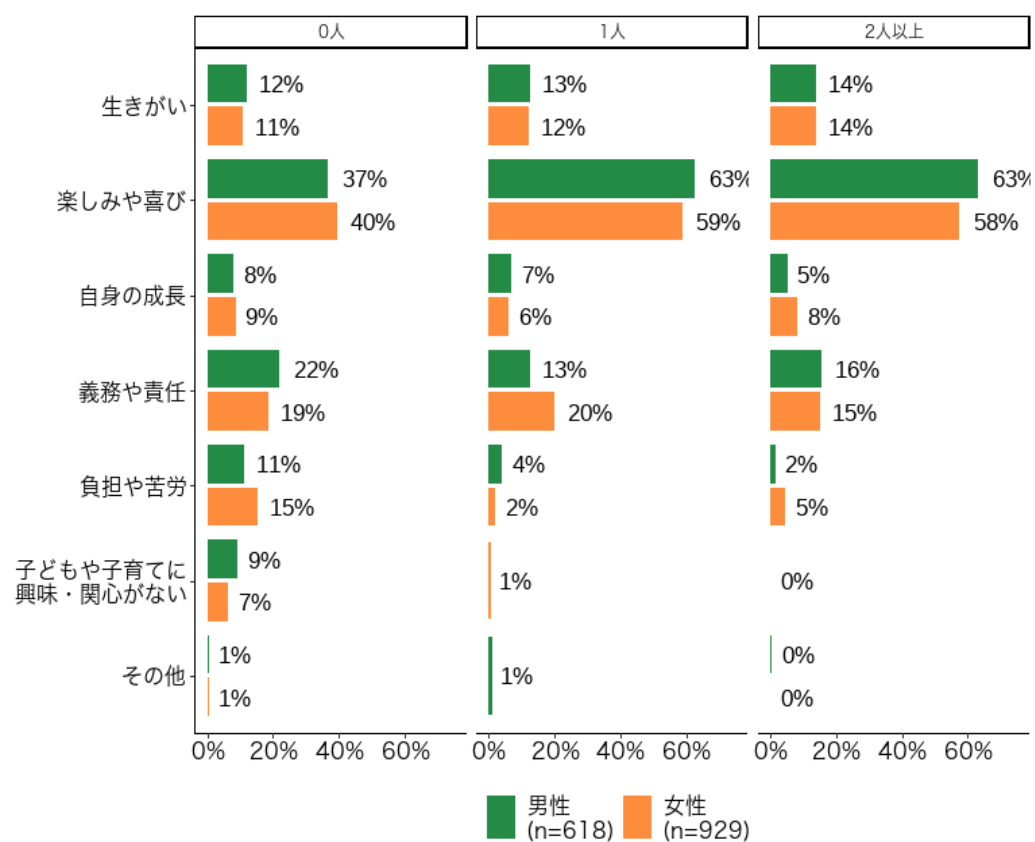
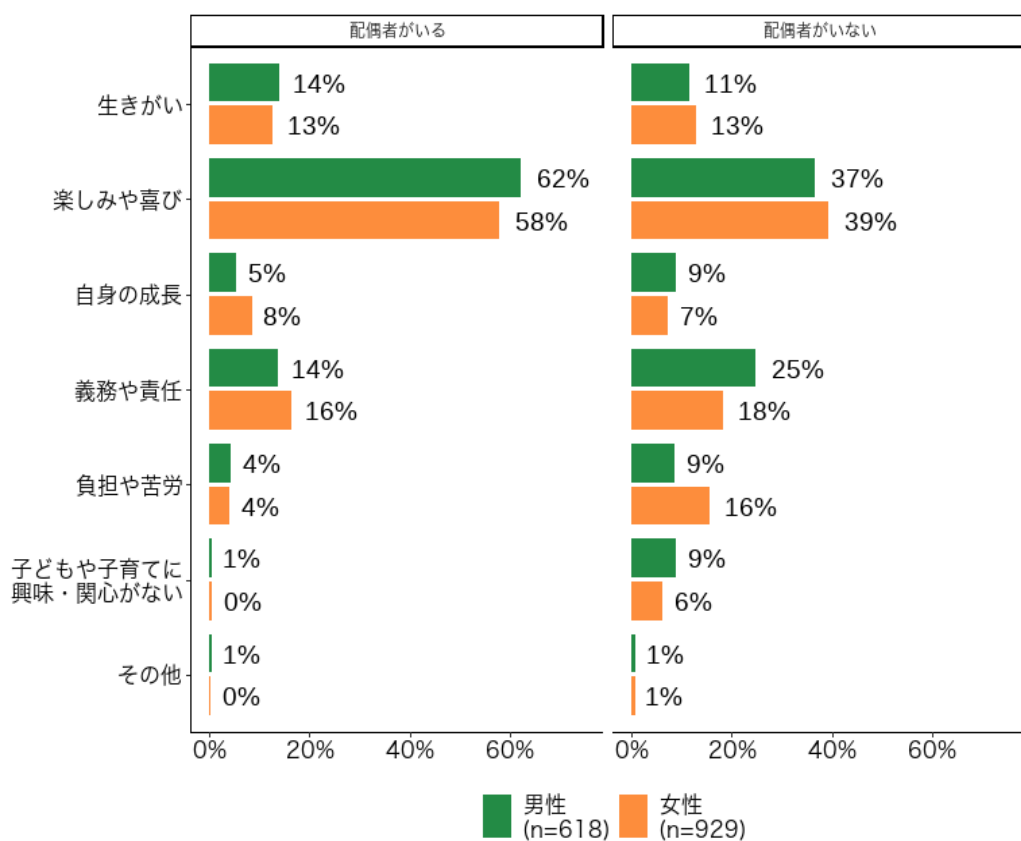


問 10 理想とする子どもの数を実現するために必要だと思うこと（1 位）【全員回答】



問 11 子どもや子育てに対するイメージ【全員回答】





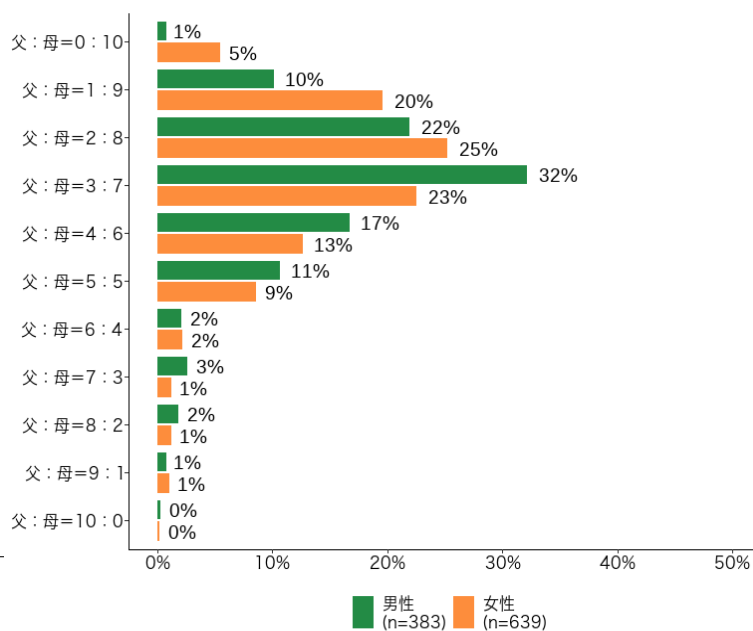
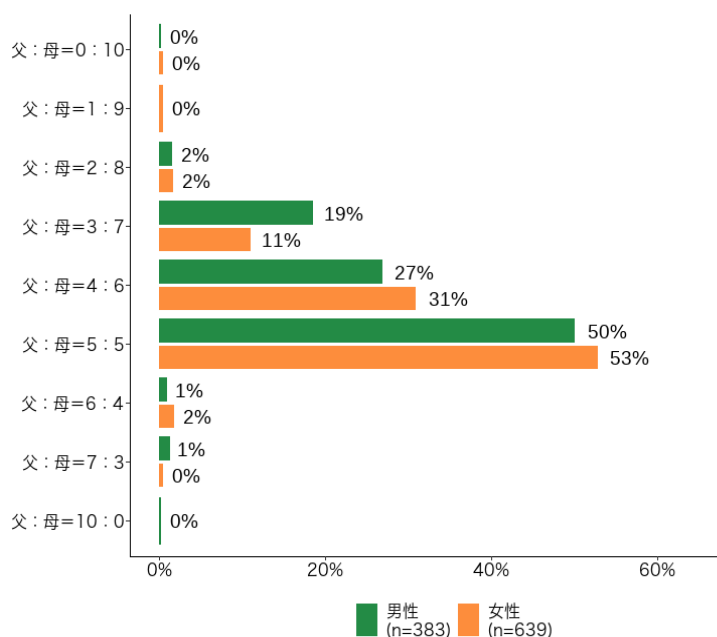
4. 家事育児の分担に関すること

理想の家事育児への関わり具合と実際の関わり具合の男女差が特徴的にみられた。男女ともに父と母が平等に関わるのが理想とする割合が半分以上と最多だったが、男性は父：母＝3：7とする割合が女性に比べて高い。また、実際の関わり方として、父親の関わりが0～3とする割合は男性より女性の方が高いのに対し、父親の関わりが4か5とする割合は男性の方が高い。こうした家事育児の理想の関わり方を実現する方法として、男性は職場の理解など働き方を挙げる割合が女性より高いのに対し、女性は男性の家事育児への啓発や教育を挙げる割合が男性より高い。

問 12 父親と母親の家事育児への理想の関わり具合（左）

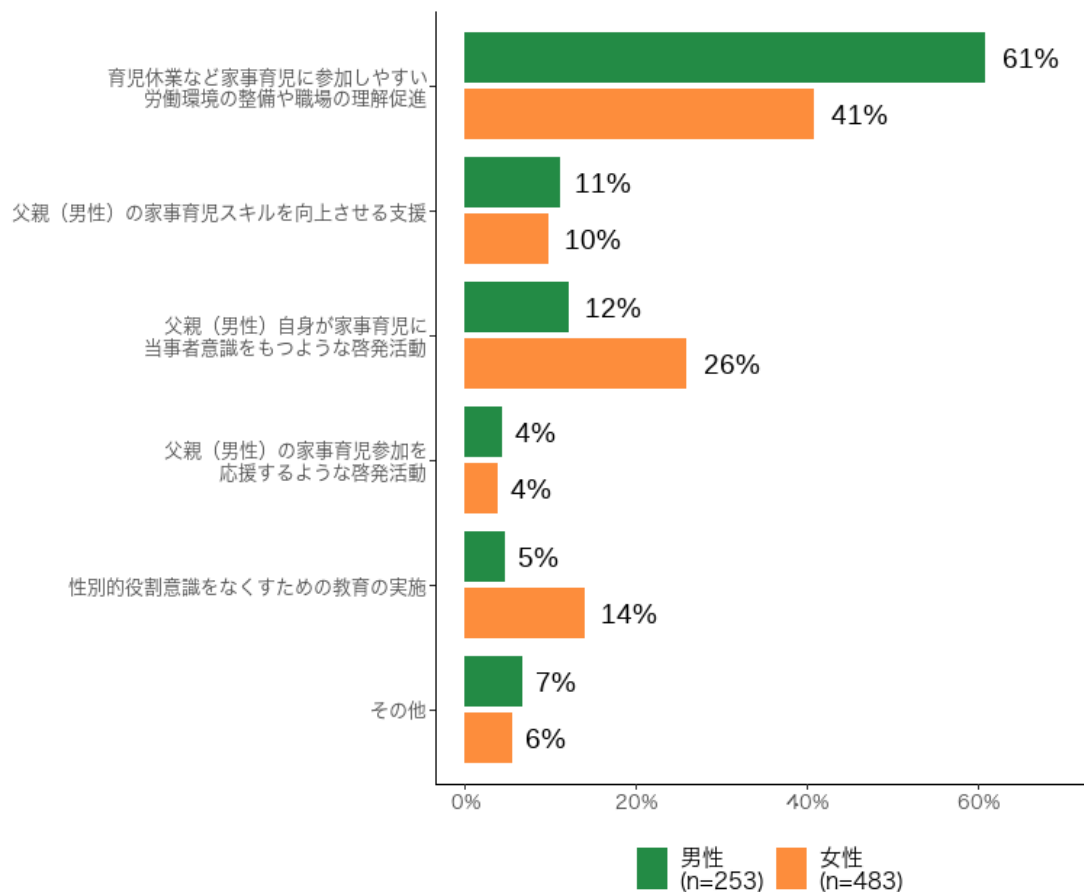
問 13 父親と母親の家事育児への実際の関わり具合（右）

【いずれも福井県内の調査のうち、配偶者ありと答えた人のみ回答】



問 14 理想の家事育児の関わり具合を実現するために必要だと思うこと

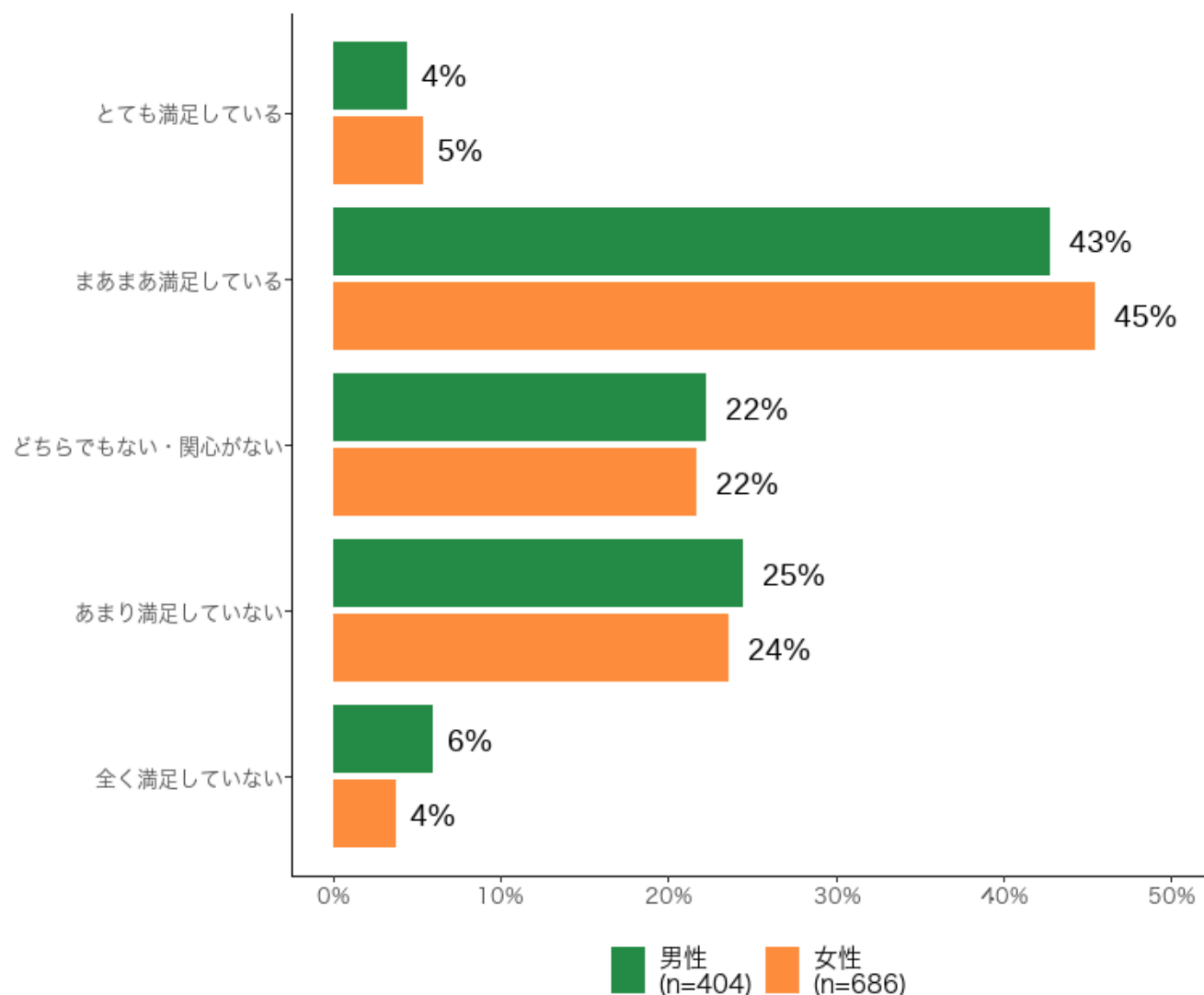
【問 12、13 で父親の実際の関わり具合が理想の関わり具合より低い方のみ回答】



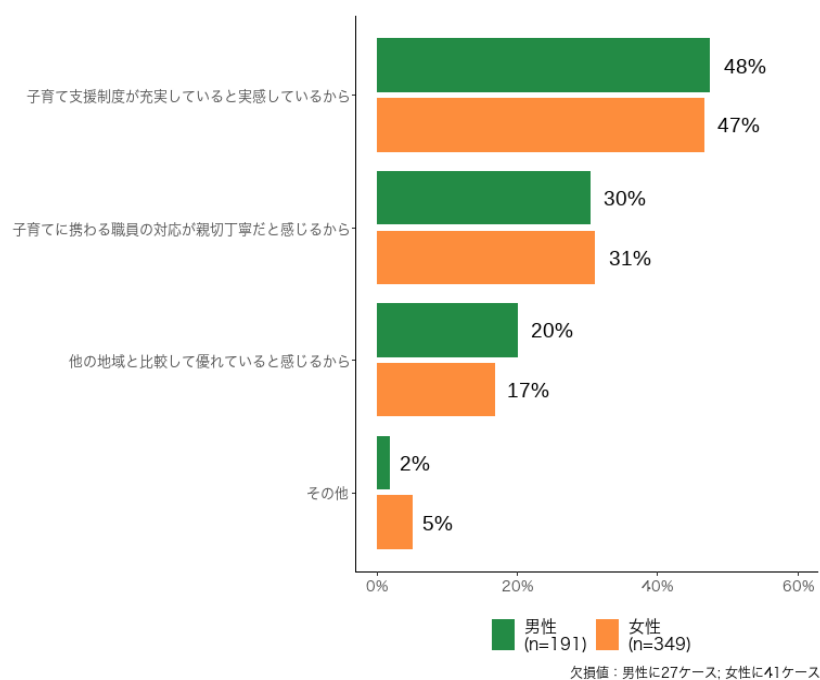
5. 子育てにかかる環境に関すること

居住している地域の行政による子育て支援に満足していない女性は、男性に比べて「他の地域より劣っているから」と考えている人が多い。職場において子育てへの理解には、男女ともに「まあまあ理解がある」と答えている割合が最も高いのに対して、女性は男性に比べて「とても理解がある」と答える割合が高く、男性は「あまり理解がない」と答えている割合が高かった。

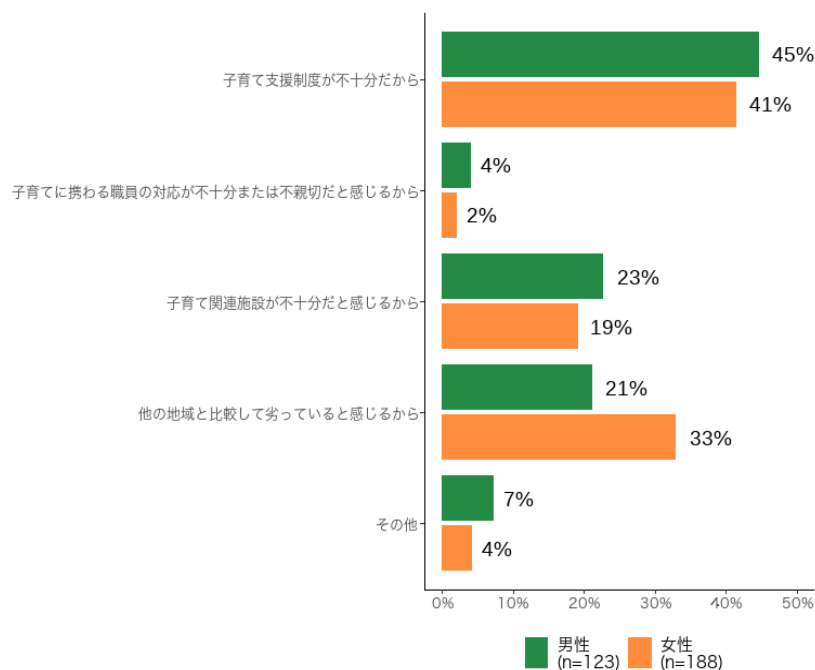
問 15 居住している地域（県全体）の行政による子育て支援に満足しているか【福井県内の調査のうち、配偶者あり、または子どもがいると答えた人のみ回答】



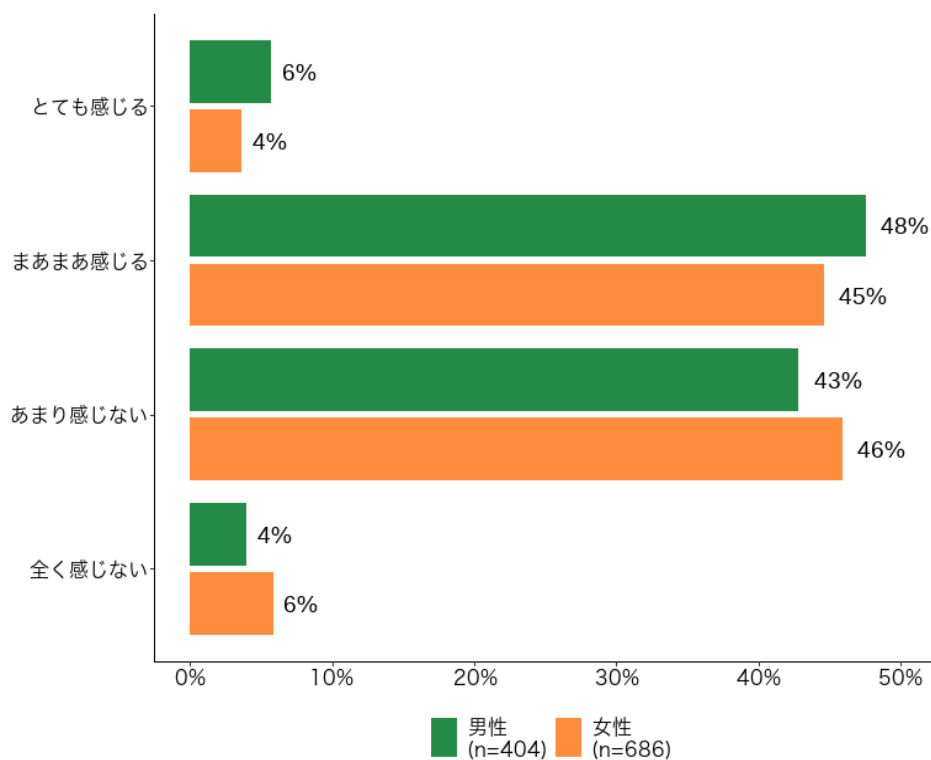
問 16 満足していると回答した理由【問 15 で「とても満足している」「まあまあ満足している」と答えた人のみ回答】 問 17 は省略



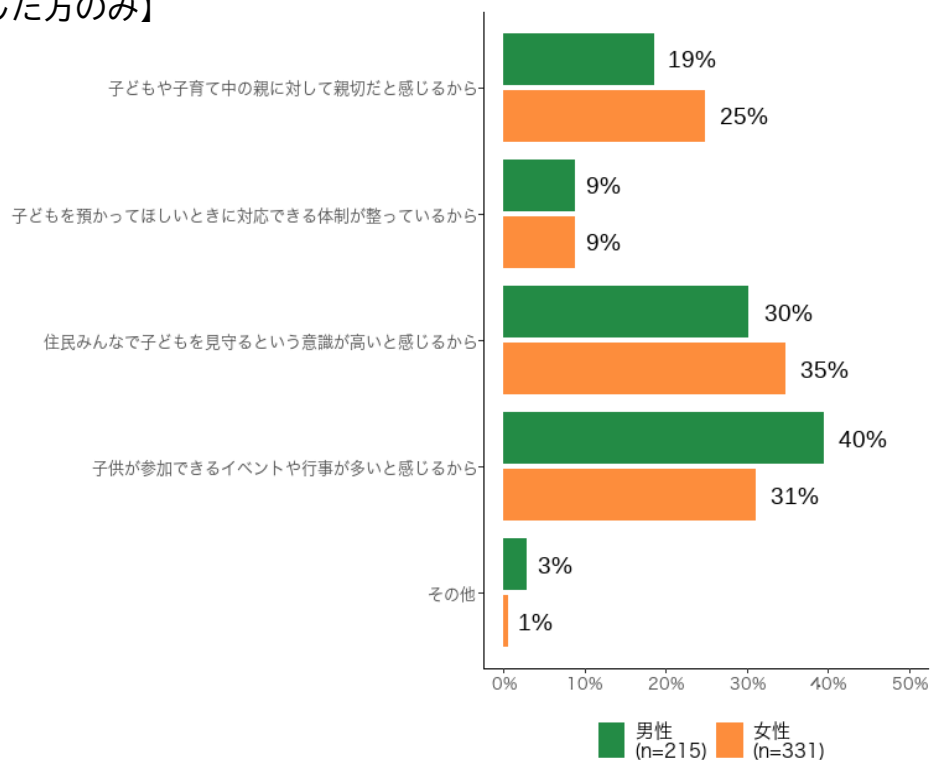
問 18 満足していないと回答した理由【問 15 で「あまり満足していない」「全く満足していない」と回答した方のみ】



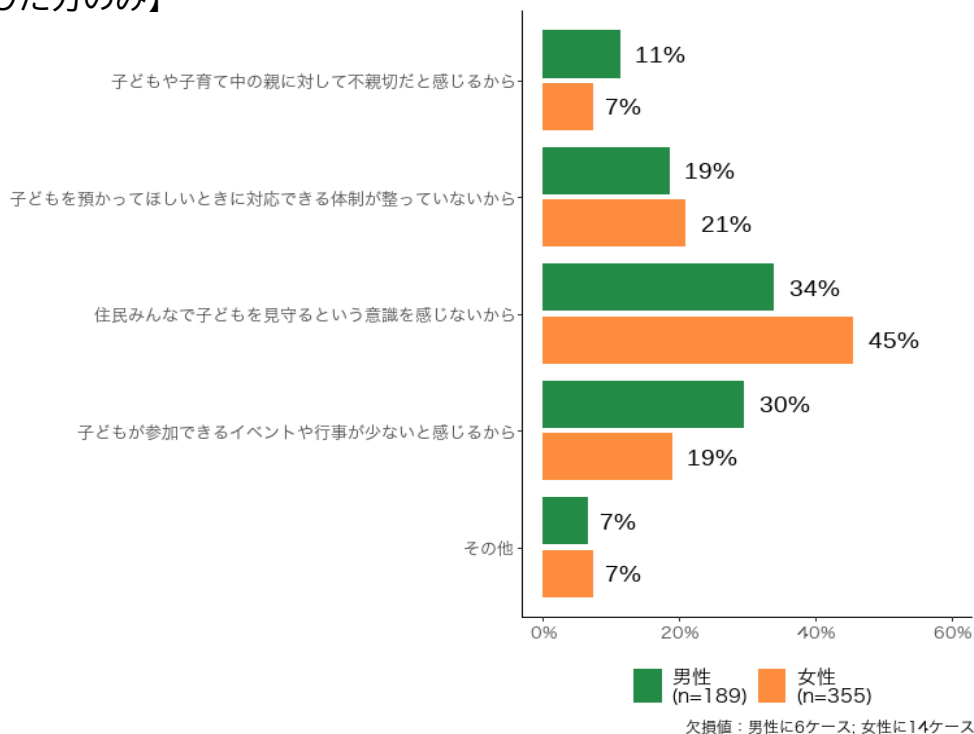
問 19 居住している地域は、地域住民と子どもの関わりが深いと感じるか【福井県内の調査のうち、配偶者あり、または子どもがいると答えた人のみ回答】



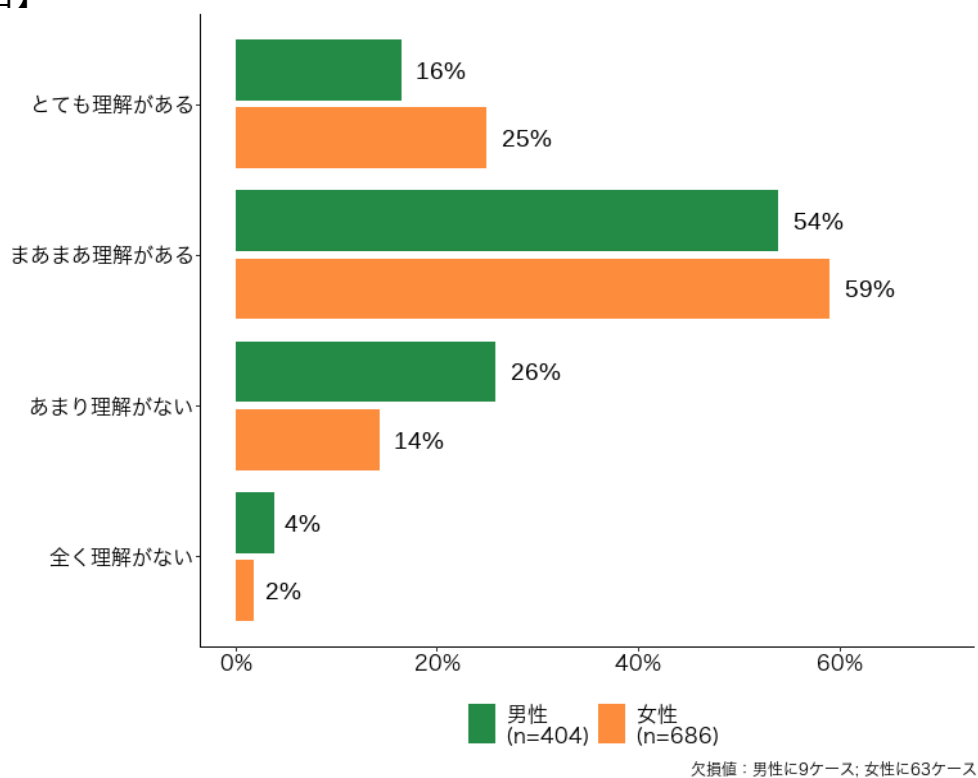
問 20 関わりが深いと回答した理由【問 19 で「とても感じる」「まあまあ感じる」と回答した方のみ】



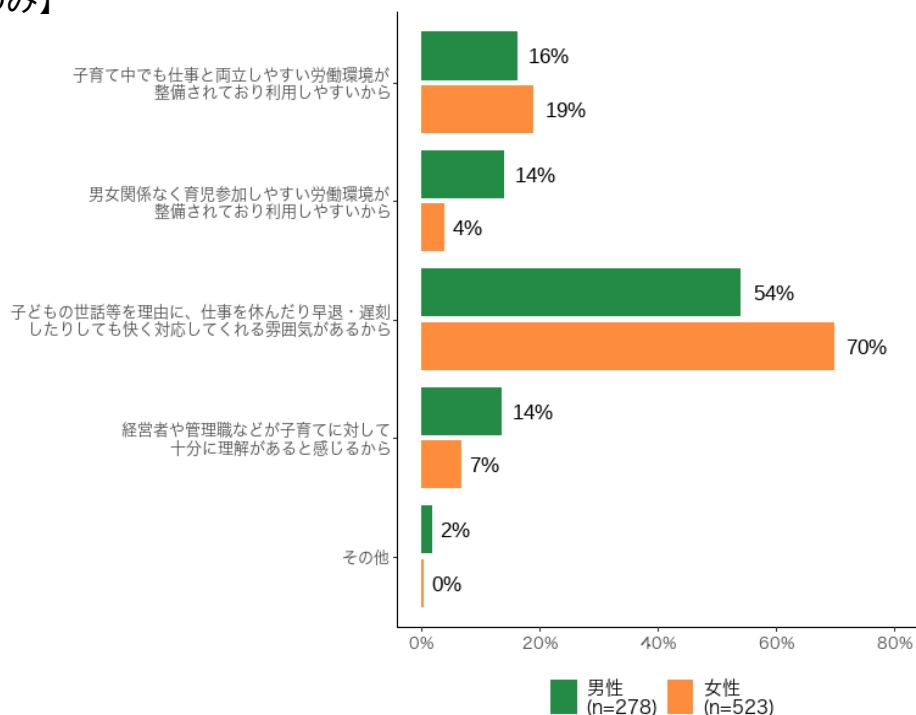
問 21 関わりが深くないと回答した理由【問 19 で「あまり感じない」「全く感じない」と回答した方のみ】



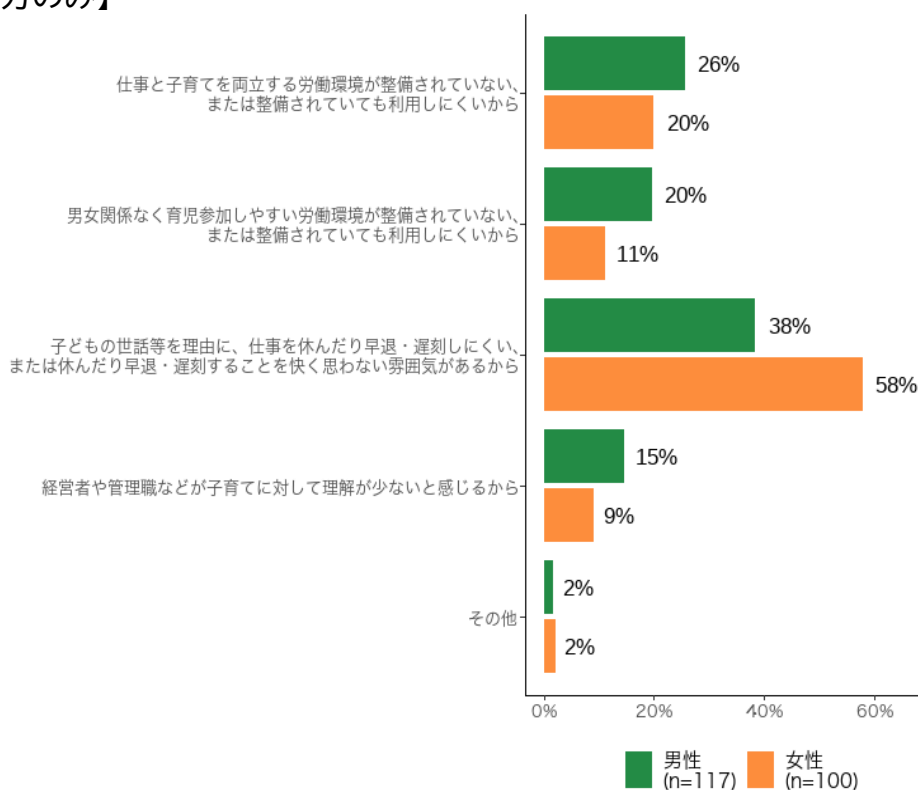
問 22 職場において子育てへの理解は十分にあるか【配偶者あり、または子どもがいると答えた人のみ回答】



問 23 理解があると回答した理由【問 22 で「とても理解がある」「まあまあ理解がある」と回答した方のみ】



問 24 理解がないと回答した理由【問 22 で「あまり理解がない」「全く理解がない」と回答した方のみ】

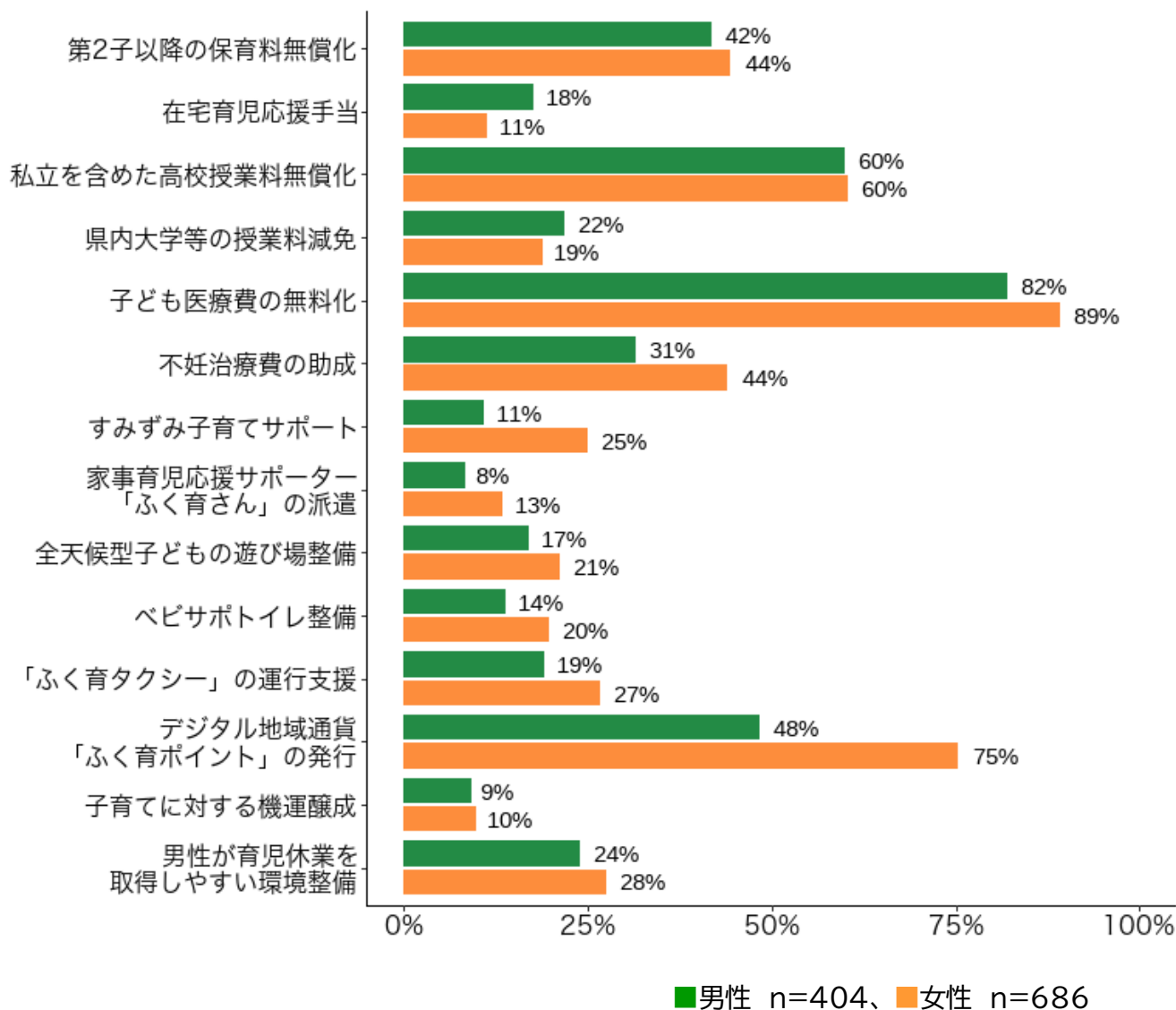


6. 既存の子育て支援策に関すること

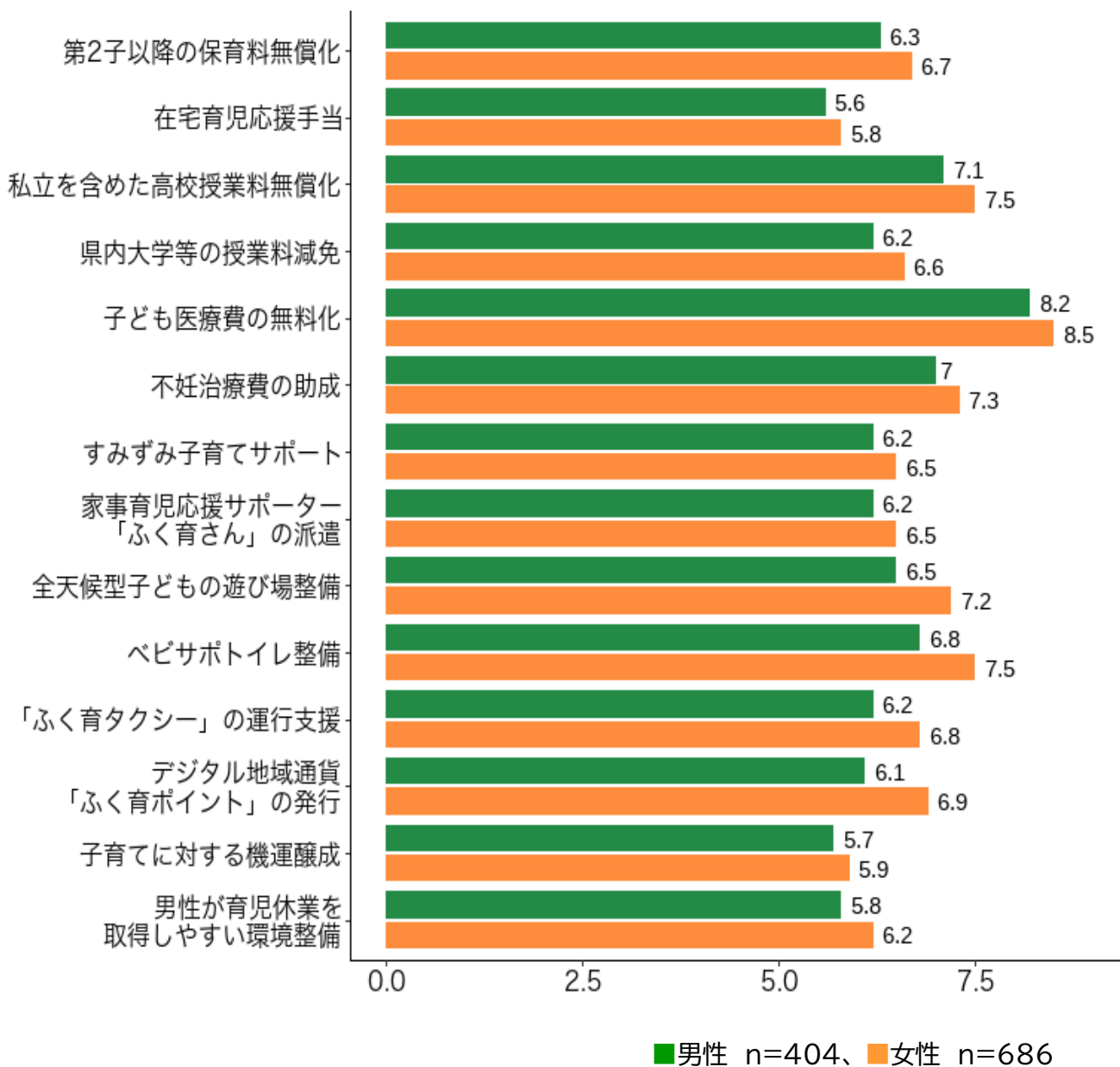
福井県が独自で行っている子育て支援策は、おおむね第1部で見られた傾向と似ていたが、男女間で大きな違いがみられる施策もあった。男性の方が女性よりも知っている割合が高い施策は、在宅育児応援手当と県内大学等の授業料減免だけで、他の施策は女性の方が高いか同じレベルだった。女性の認知度が特に高い施策は、不妊治療費の助成、すみずみ子育てサポートとデジタル地域通貨「ふく育ポイント」の発行である。

問 25 福井県が独自に実施している子育て支援策の評価【福井県内の調査のうち、配偶者がいるまたは子どもがいると回答した人のみ】

制度を知っていたか



制度に対する評価（平均値）

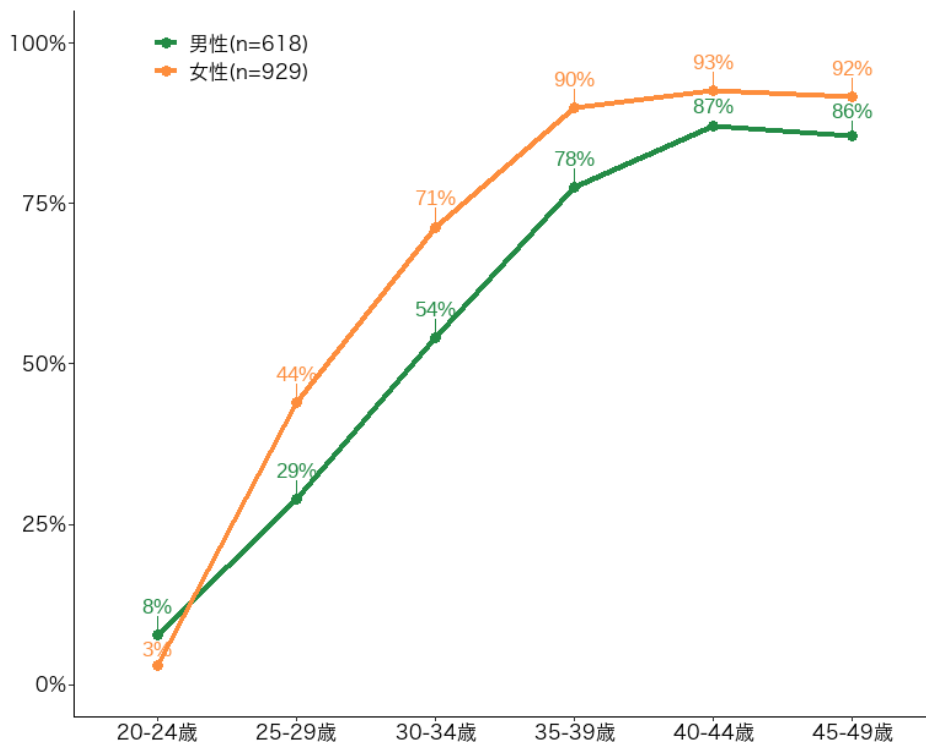


7. 回答者の属性に関すること

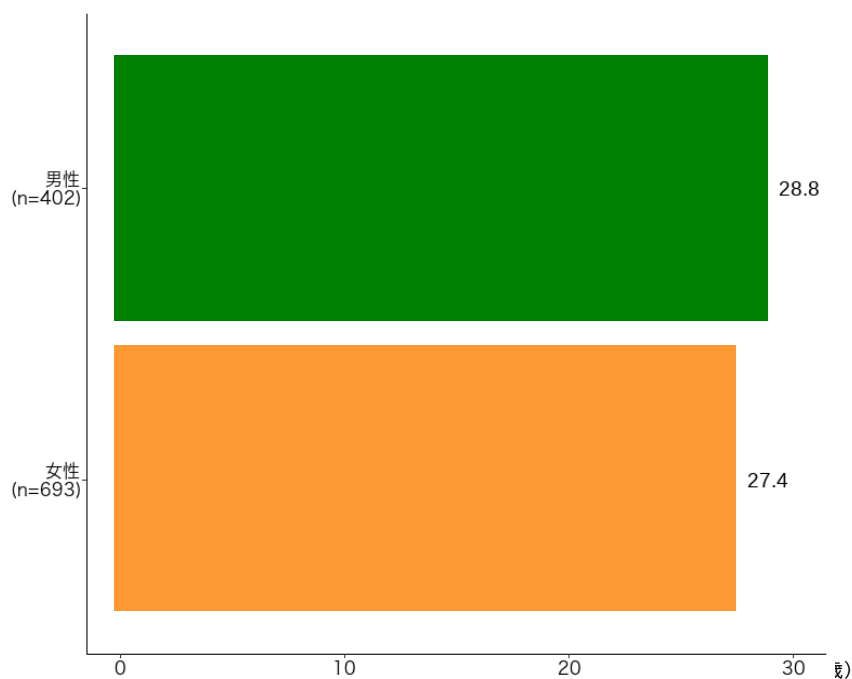
有配偶割合と平均初婚年齢において男女間で特に違いがみられた。有配偶割合は20 - 24 歳以外で女性の方が男性よりも高い値を示した。25 - 29 歳では男性は 29% に対し、女性は 44%、30 - 34 歳は男性 54%、女性 71%、35 - 39 歳は男性 78%、女性 90% と 10%ポイント以上の差がある。国全体を対象にした調査と同様の結果をみせた。また、初婚年齢も同様に、男性において初婚年齢が高く、福井県では 1.4 歳の差がみられる。

正社員割合は男性が 79%、女性は 52%、その裏返しとして、パートなどの非正規雇用割合は女性の方が高かった。専業主婦は福井県では 5%と全国値よりも少ない。育児休業取得割合も男性がどの子どもを出産するタイミングでも 10%以下なのに対し、女性は 54%と大きな差がみられた。また、育児休業取得日数も同様に男性は平均 50 日前後なのに対し、女性は平均 1 年以上とこちらも大きな差がある。特に 1 日の平均労働時間が 9 時間以上の割合が男性は 38%と女性の 2 倍以上高い値を取っている。1 日の平均労働時間を配偶者の有無や子ども数別にみると顕著な違いがみられた。配偶者がいない、または子どもがいない回答者では、男女差は比較的小さいが、配偶者がいる女性において平均労働時間は 0 - 7 時間が最も多く労働時間が増えるほどその割合は減少した。一方、配偶者のいる男性は、平均労働時間が 8 時間と 9 時間以上の回答割合に大きな差がみられなかった。こうした傾向は子ども数別にみても同様にみられるが、子ども数が 1 人に比べて 2 人以上の回答者の方がこうした傾向が強くみられた。

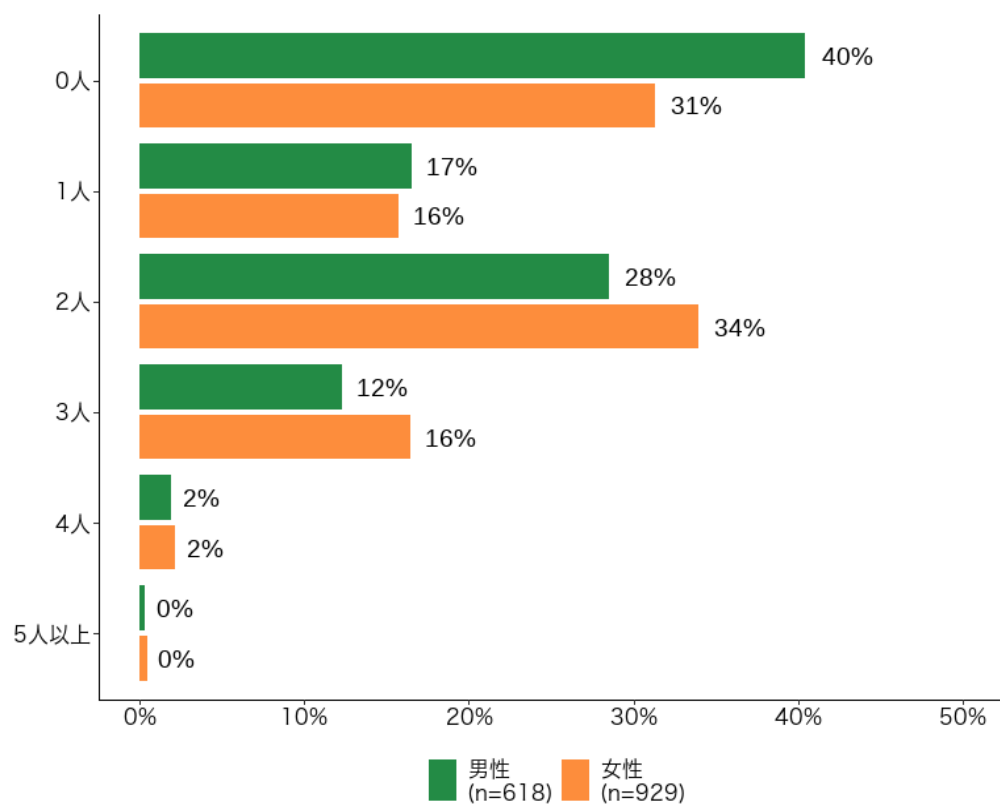
問 26 結婚している・したことがある人の割合【全員回答】



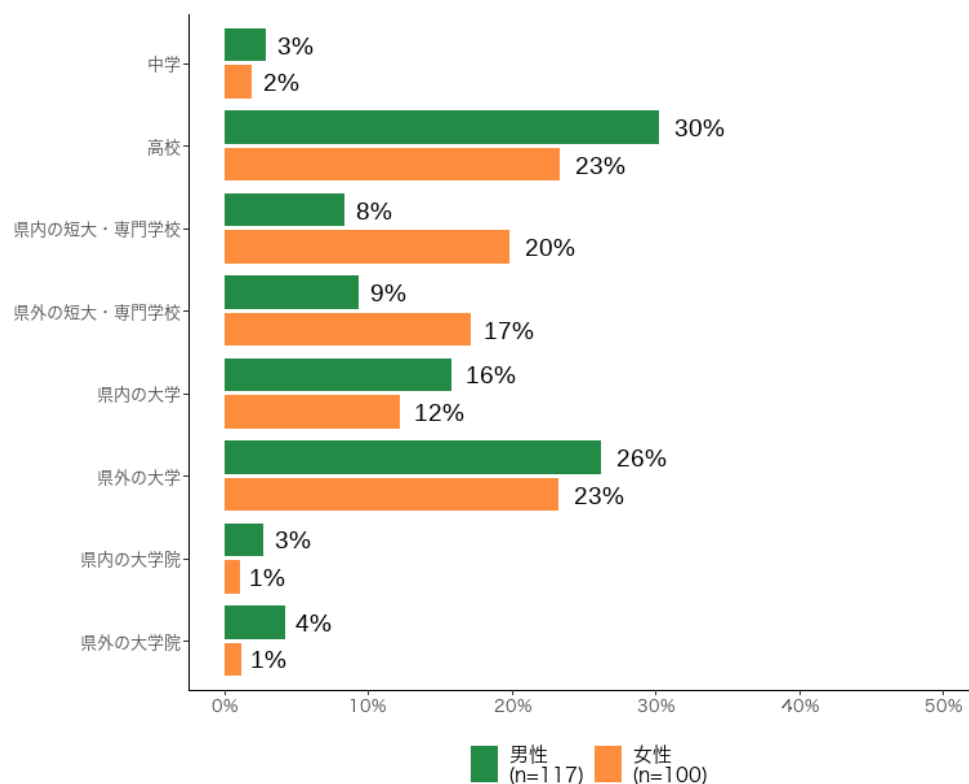
問 27, 28 平均初婚年齢【問 26 で「結婚している・したことがある」と回答した人のみ】



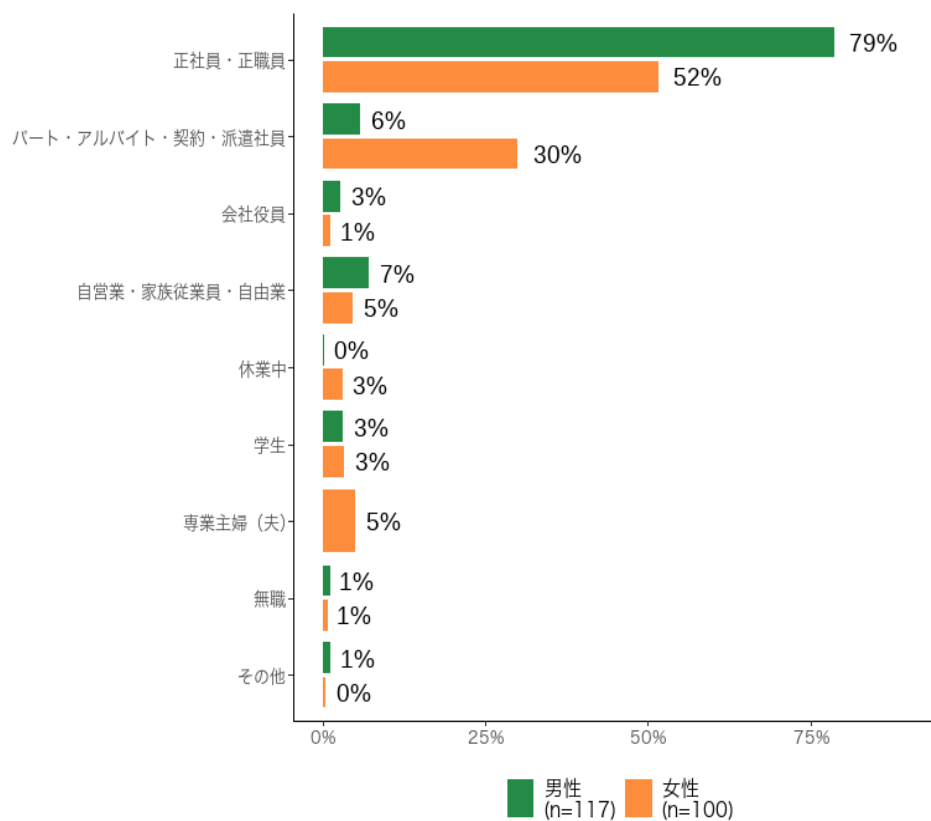
問 29 現在の子どもの数【全員回答】



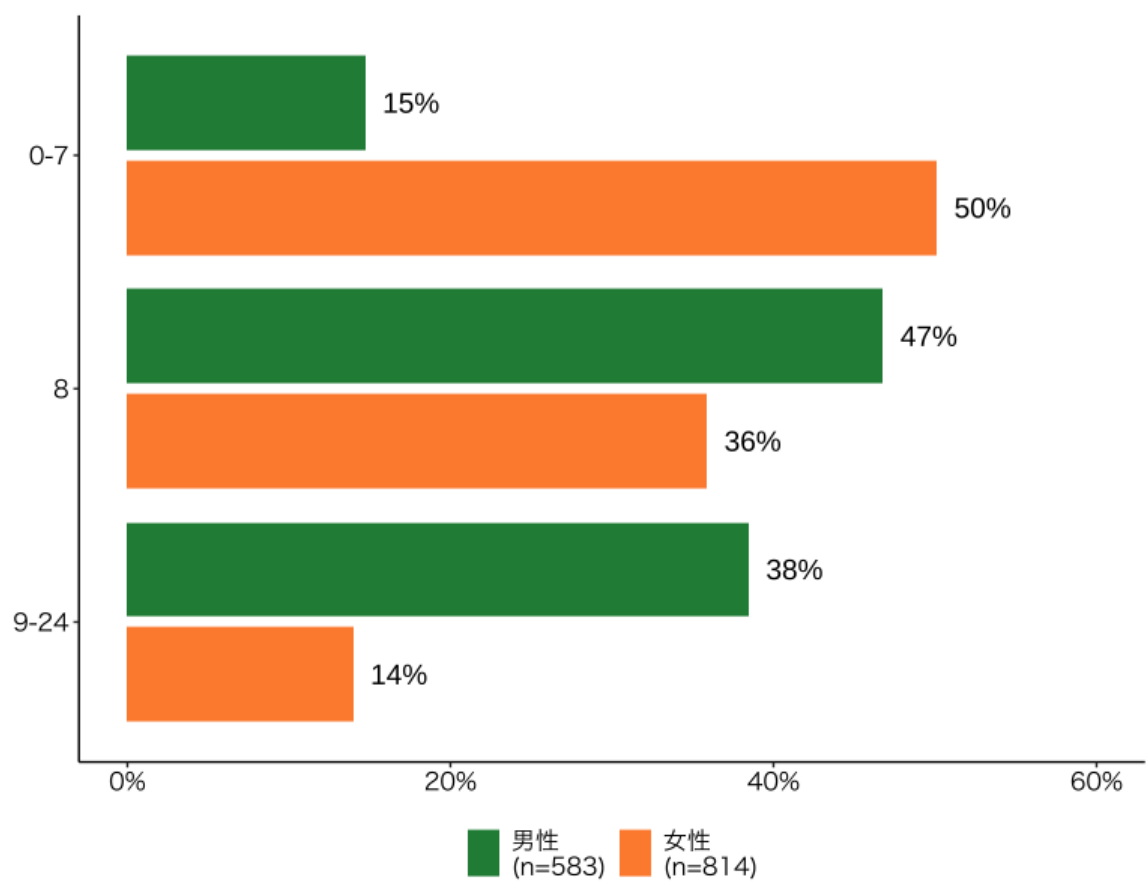
問 37 最終学歴または在学中の学校【全員回答】 問 30～36 は省略



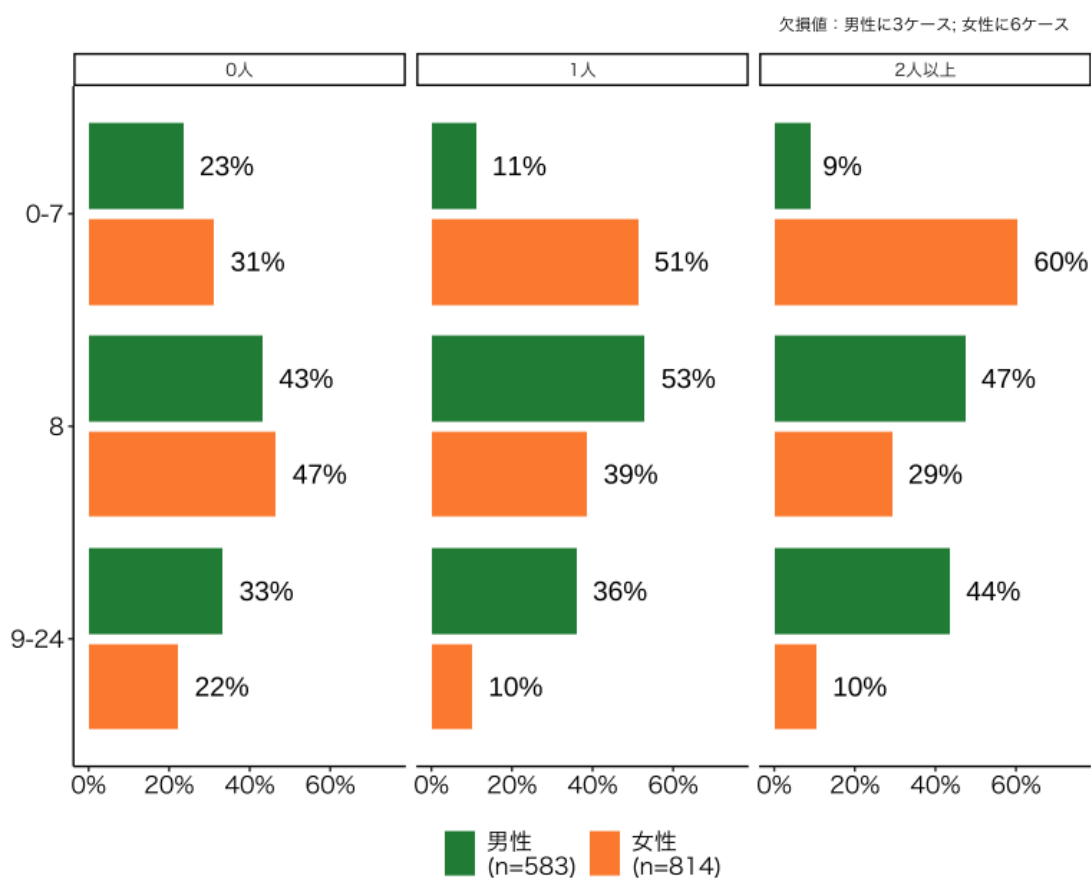
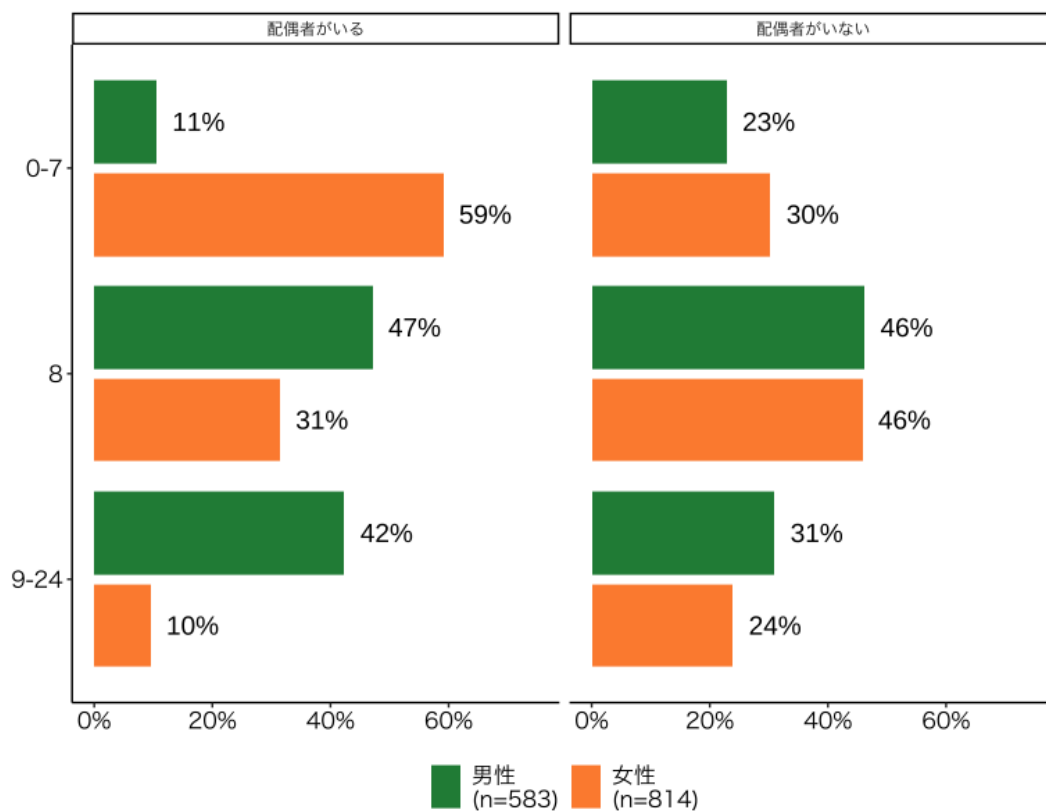
問 38 就労形態【全員回答】 問 39 は省略



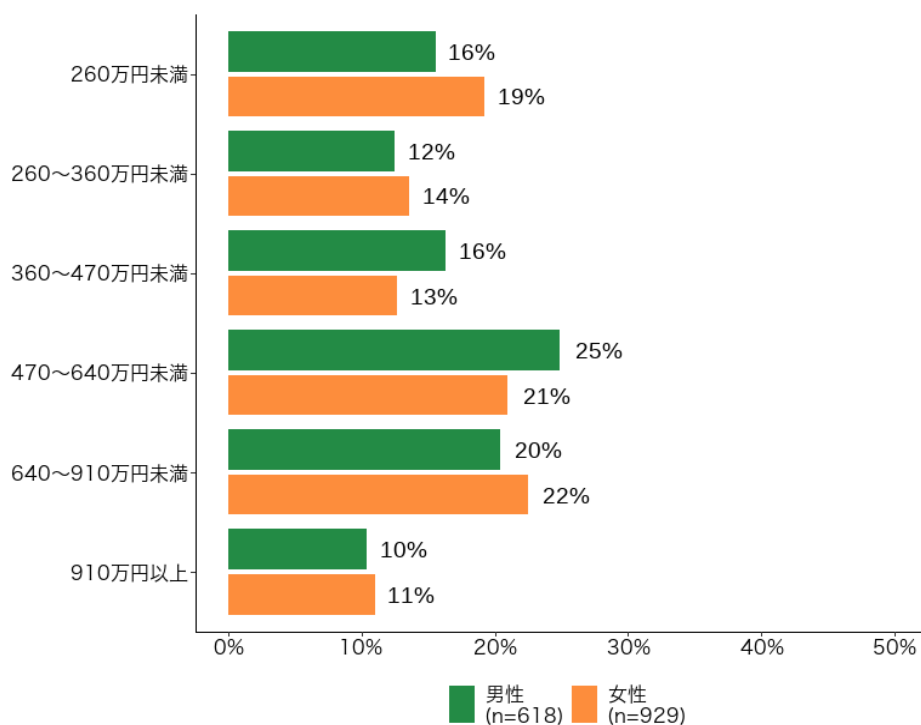
問 40 1日の平均的な労働時間【問 38 で就労していると回答した人のみ】



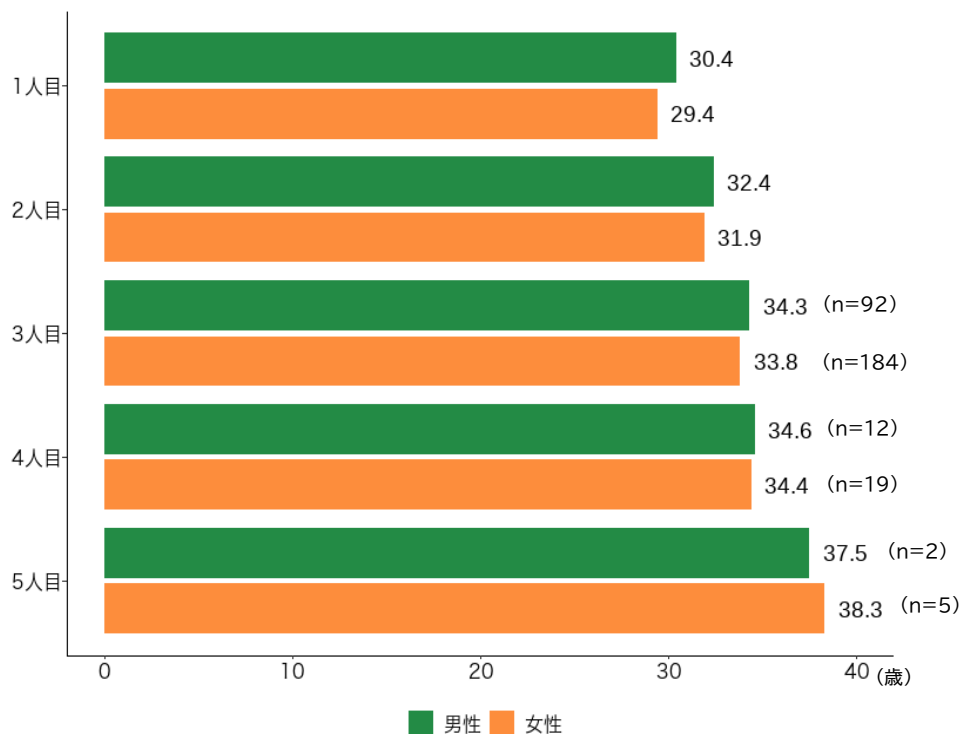
欠損値：男性に6ケース; 女性に6ケース



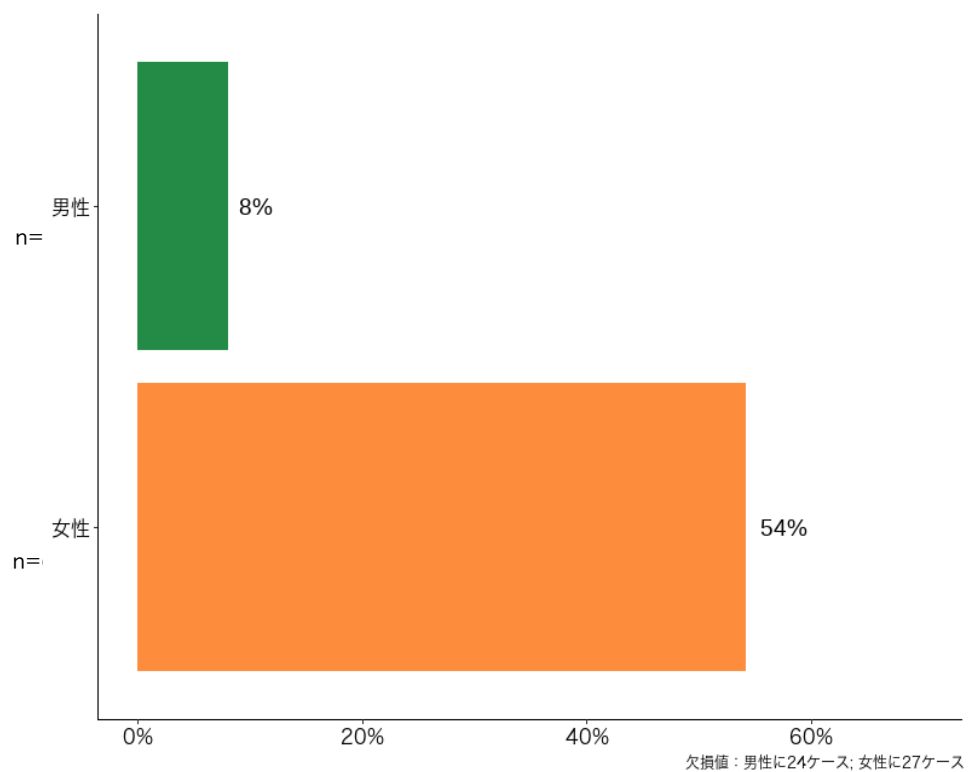
問 41 ご自身と配偶者を合わせた昨年 1 年間の年収、配偶者がいない場合はご自身だけの年収【全員回答】



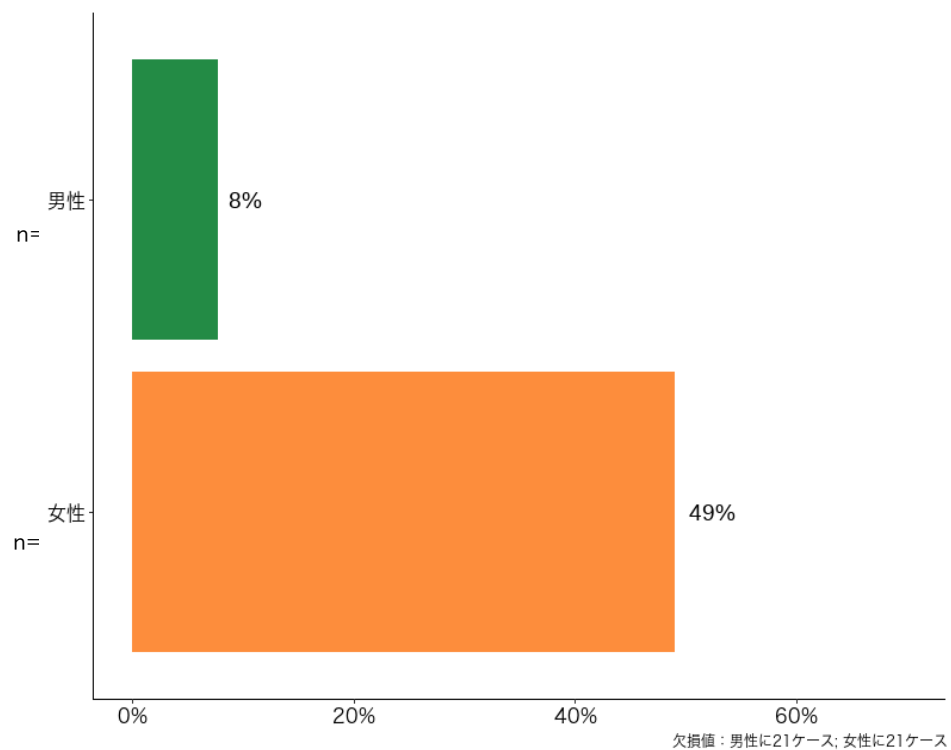
問 42 それぞれの子どもを出産した年齢【問 4 で回答した子ども数】



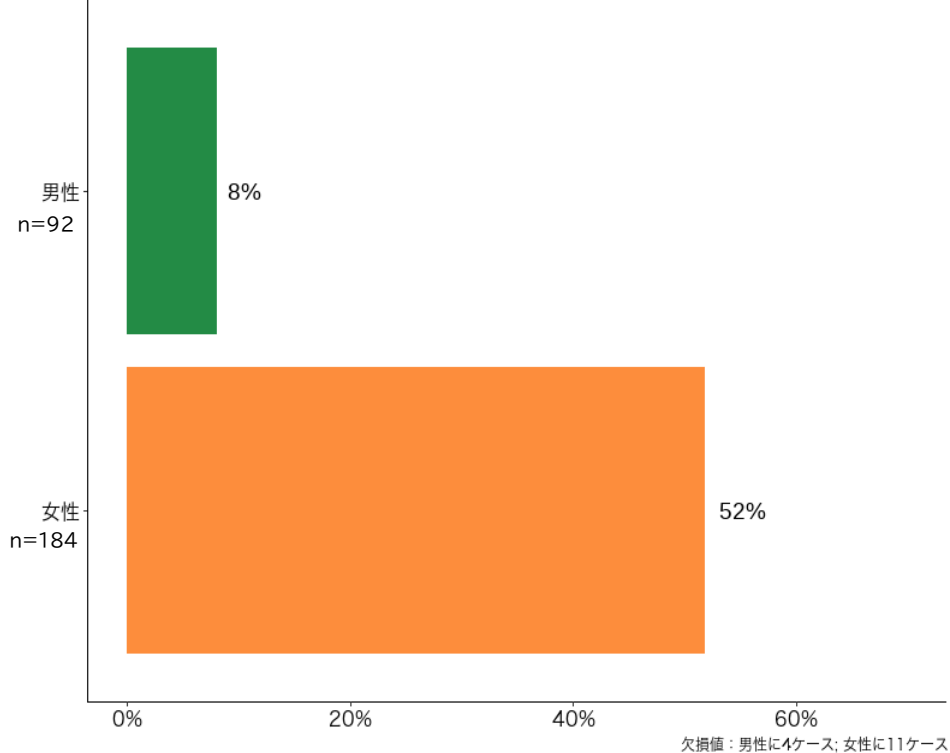
問 43.1 育児休業を取得した人の割合（第一子時）【問 4 で子どもが一人以上と回答した人】



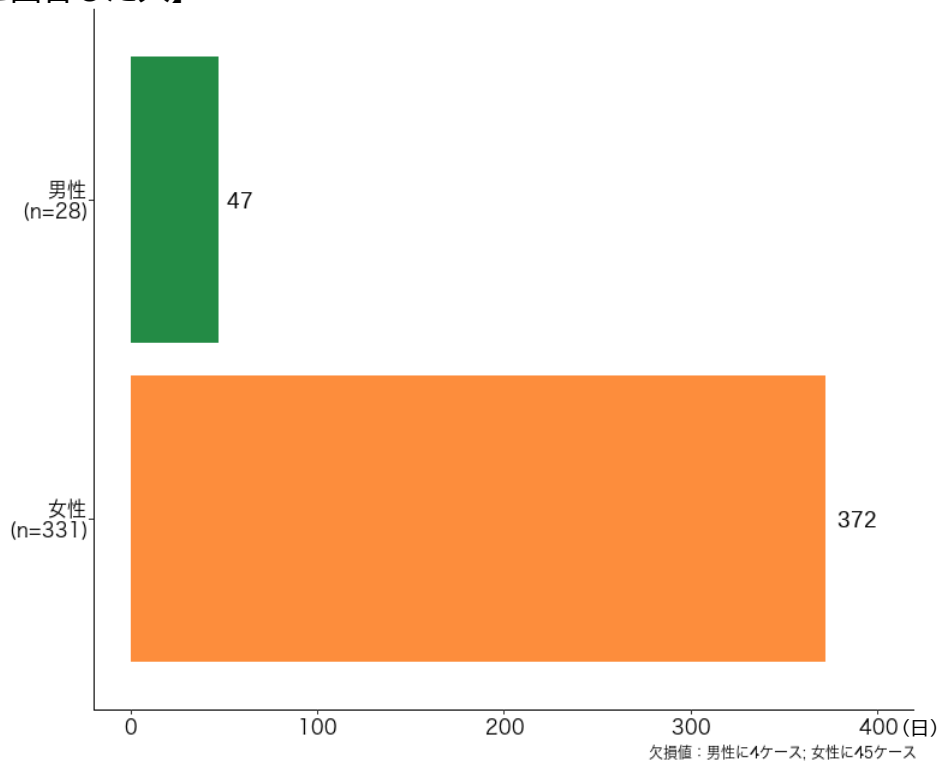
問 43.1 育児休業を取得した人の割合（第二子時）【問 4 で子どもが二人以上と回答した人】



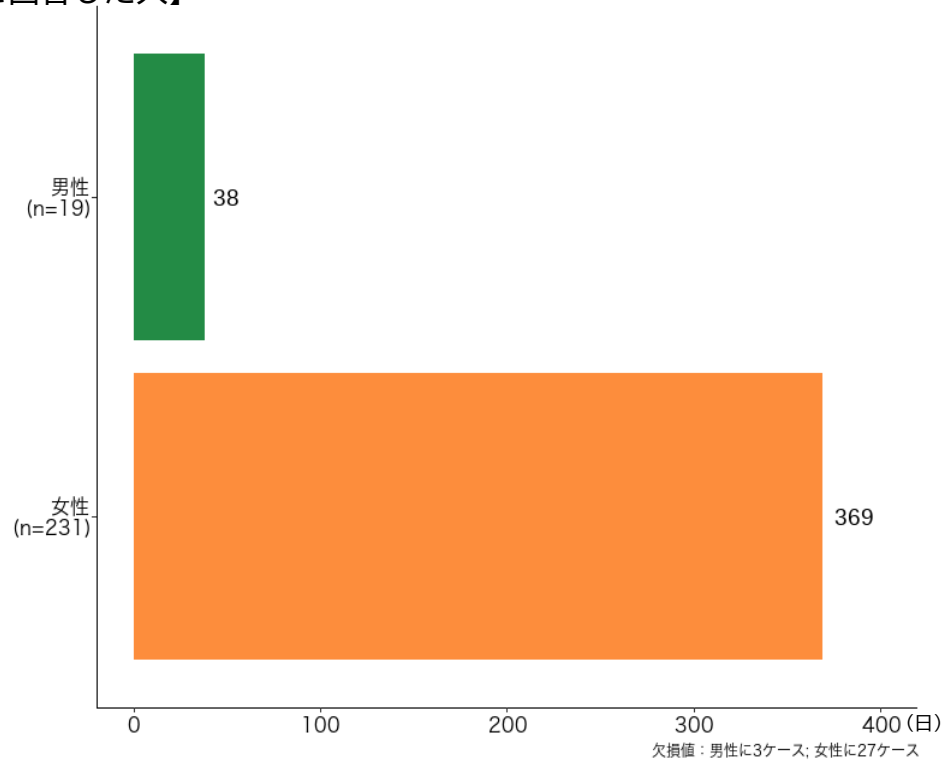
問 43.1 育児休業を取得した人の割合（第三子時）【問 4 で子どもが三人以上と回答した人】



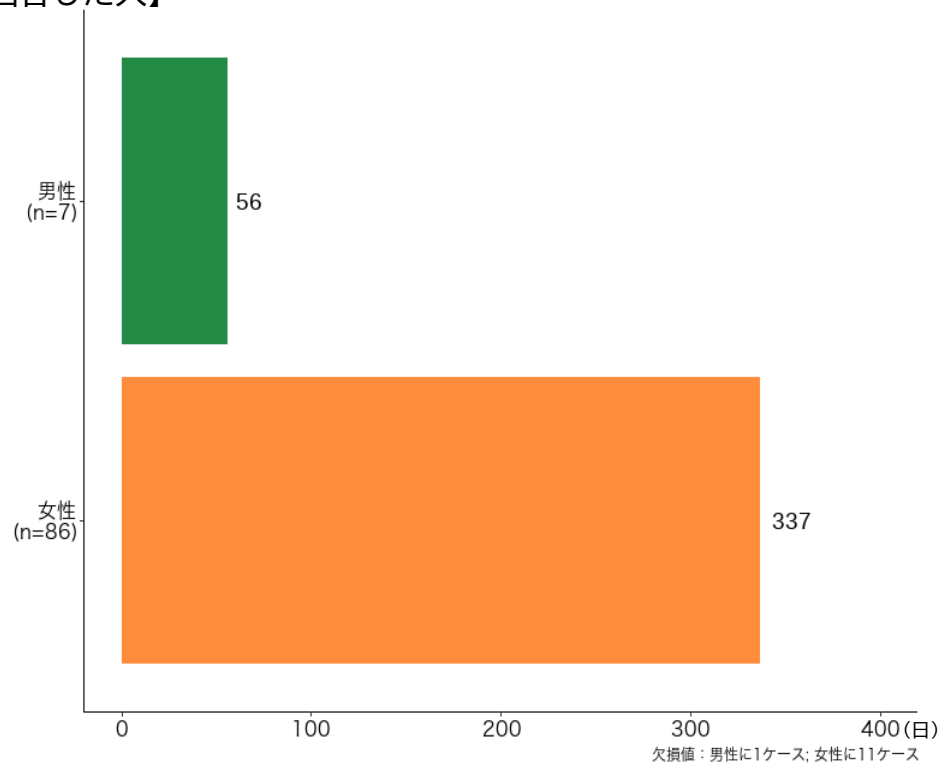
問 43.2 育児休業取得の平均期間（第一子時）【問 43.1 で育児休業取得した（第一子時）と回答した人】



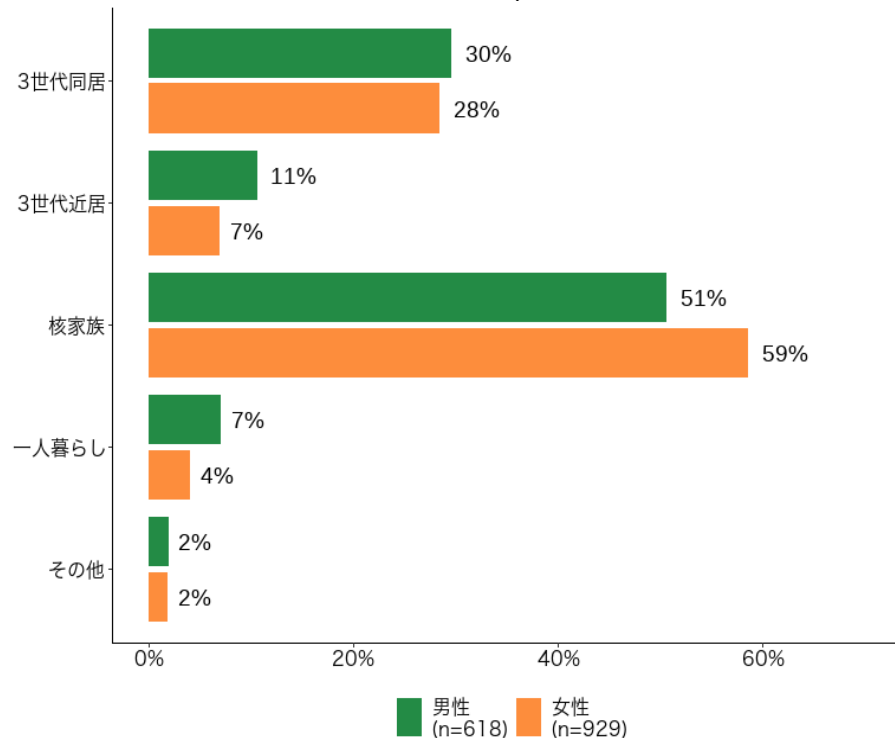
問 43.2 育児休業取得の平均期間（第二子時）【問 43.1 で育児休業取得した（第二子時）と回答した人】



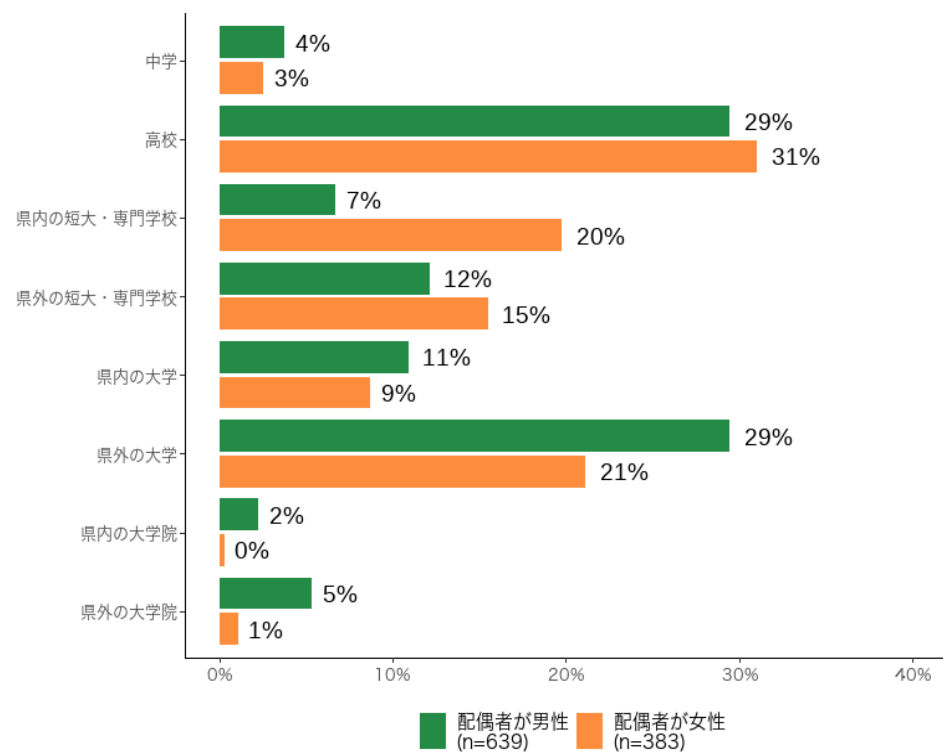
問 43.2 育児休業取得の平均期間（第三子時）【問 43.1 で育児休業取得した（第三子時）と回答した人】



問 44 世帯の状況【全員回答】 問 45, 46 は省略

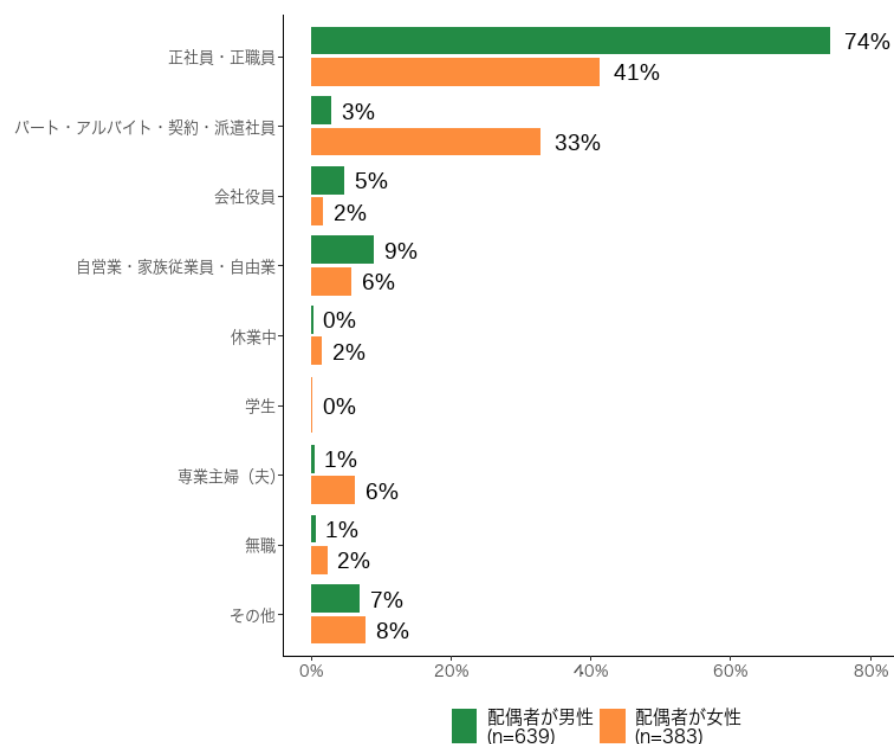


問 47 配偶者の最終学歴または在学中の学校【問 3 で配偶者がいると回答した人のみ】

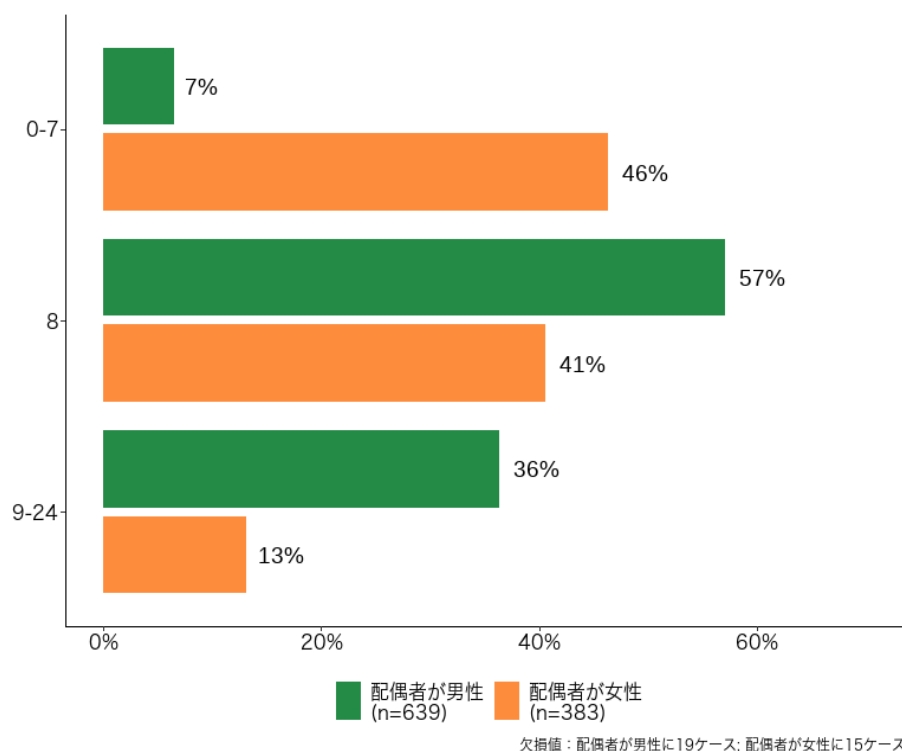


欠損値：配偶者が男性に55ケース; 配偶者が女性に28ケース

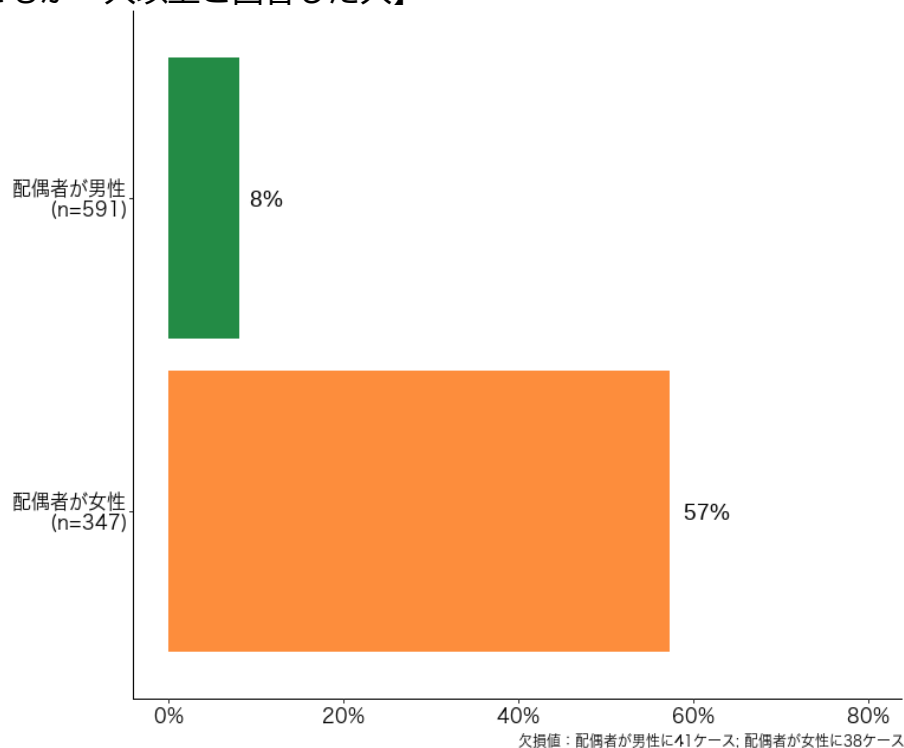
問 48 配偶者の就労形態【問 3 で配偶者がいると回答した人のみ】問 49 は省略



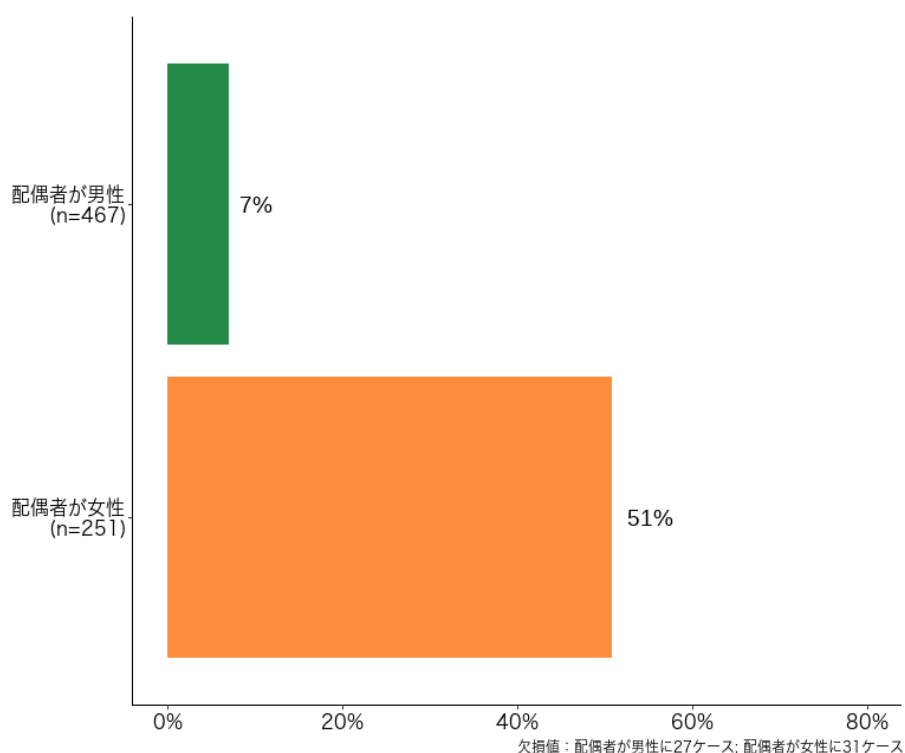
問 50 配偶者の 1 日の平均的な労働時間【問 3 で配偶者がいると回答し、問 48 で就労している人のみ】



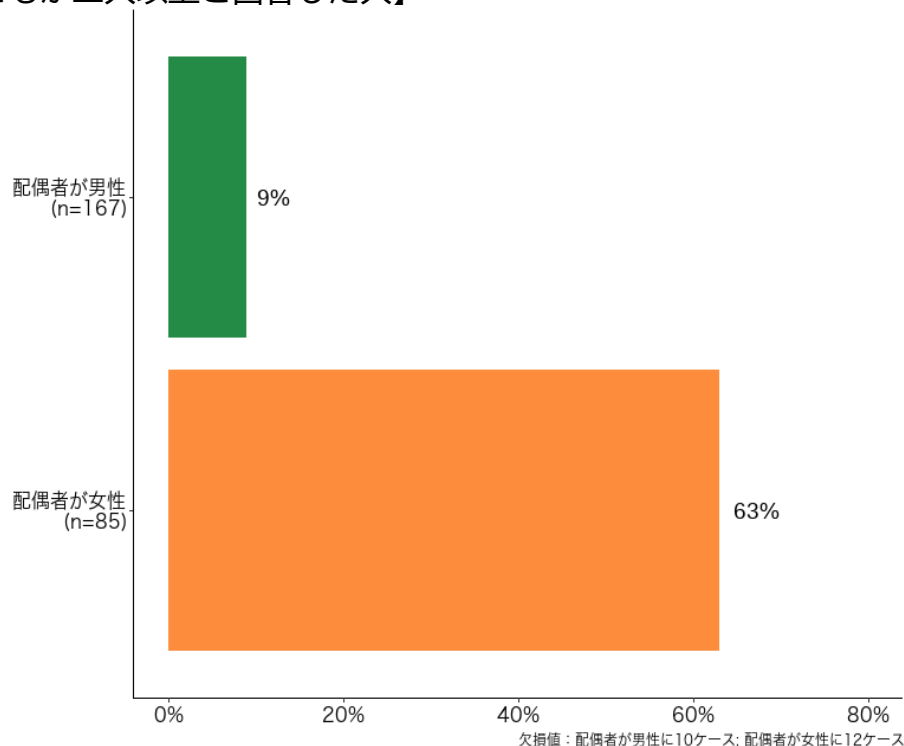
問 51.1 配偶者が育児休業を取得した人の割合（第一子時）【問 3 で配偶者がいる、問 4 で子どもが一人以上と回答した人】



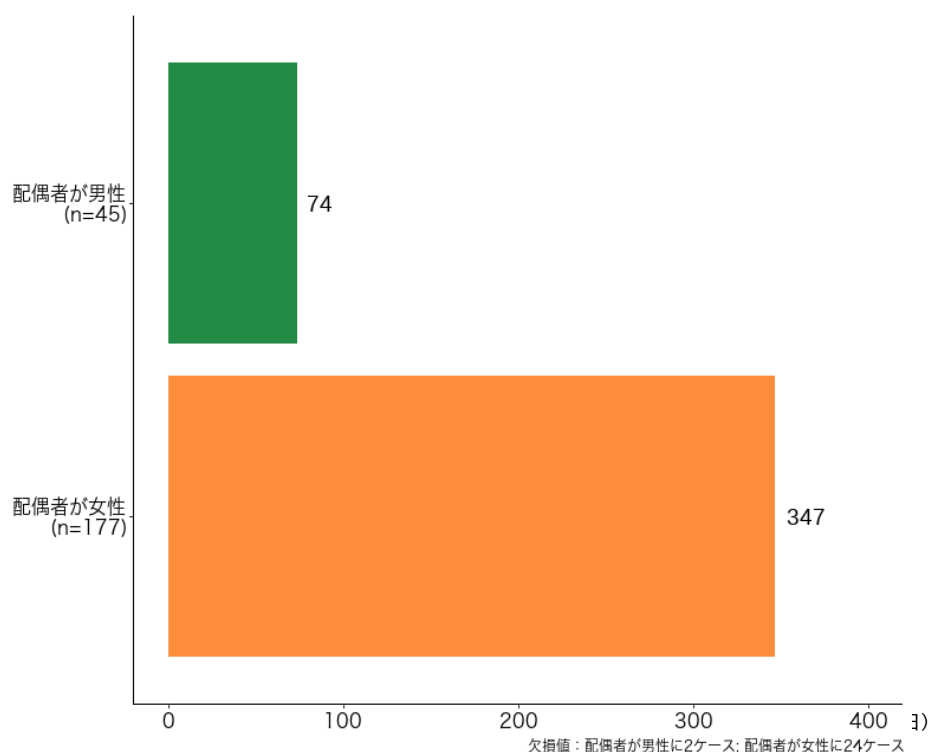
問 51.1 配偶者が育児休業を取得した人の割合（第二子時）【問 3 で配偶者がいる、問 4 で子どもが二人以上と回答した人】



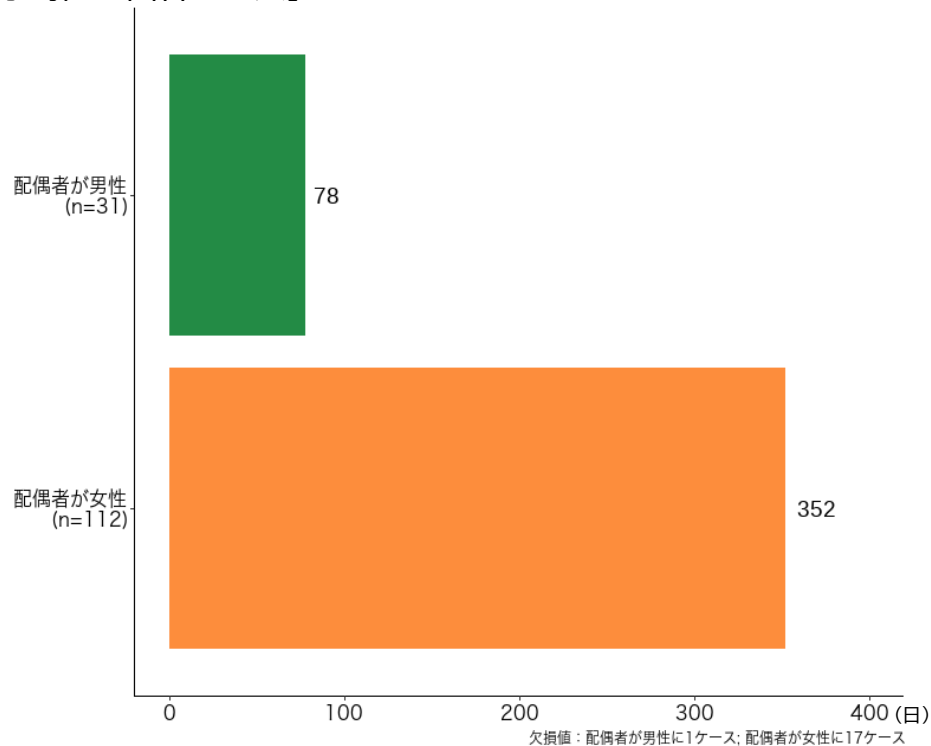
問 51.1 配偶者が育児休業を取得した人の割合（第三子時）【問 3 で配偶者がいる、問 4 で子どもが三人以上と回答した人】



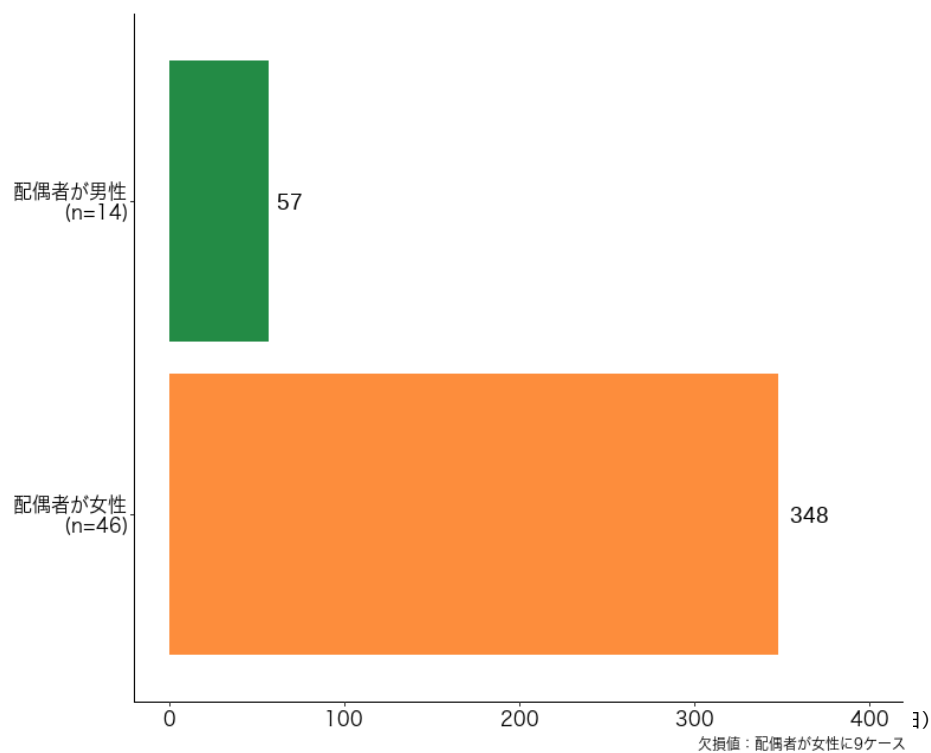
問 51.2 配偶者の育児休業取得の平均期間（第一子時）【問 51.1 で育児休業取得した（第一子時）と回答した人】



問 51.2 配偶者の育児休業取得の平均期間（第二子時）【問 51.1 で育児休業取得した（第二子時）と回答した人】



問 51.2 配偶者の育児休業取得の平均期間（第三子時）【問 51.1 で育児休業取得した（第三子時）と回答した人】

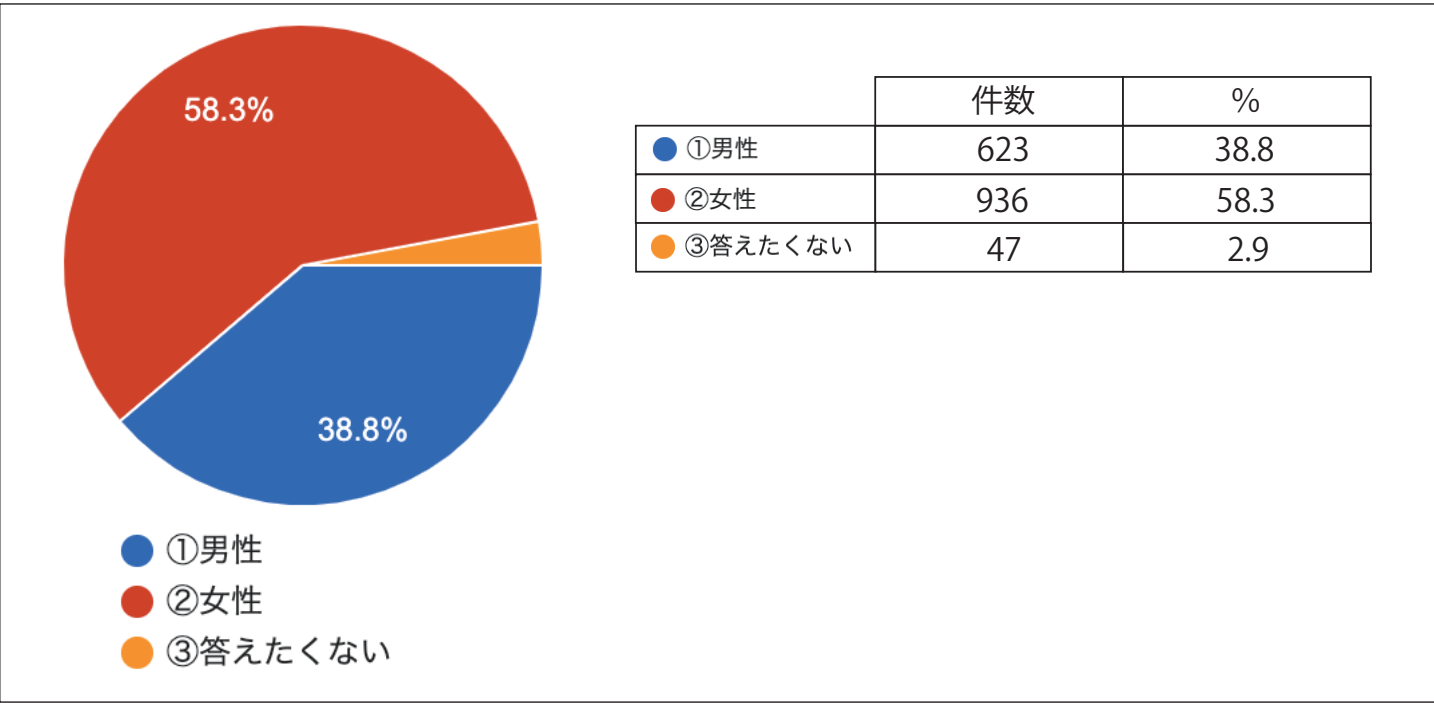


以下、参考

回答者の属性

問 31 性別を選択してください。（あてはまるもの1つ選択）

こちらは②の女性が 936 件 (58.3%) と多かった。続いて①の男性が 623 件 (38.8%) と女性が多い結果となった。



問 32 出生年月（西暦）をご回答ください。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1947 年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1950 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1961 年	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1969 年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2
1973 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
1974 年	1	5	6	13	8	6	3	5	5	6	2	5	65
1975 年	1	6	8	8	12	7	6	6	11	4	4	6	79
1976 年	1	7	9	4	4	3	9	8	5	6	3	5	61
1977 年	0	10	8	5	3	5	11	7	11	1	3	9	73
1978 年	0	5	4	2	2	6	3	2	1	2	2	4	33
1979 年	0	10	5	4	6	2	6	10	6	3	3	5	60
1980 年	0	8	4	6	7	5	5	9	4	6	4	2	60
1981 年	1	5	7	4	6	6	8	2	3	6	10	8	58
1982 年	1	4	3	4	5	6	6	7	6	8	5	8	57

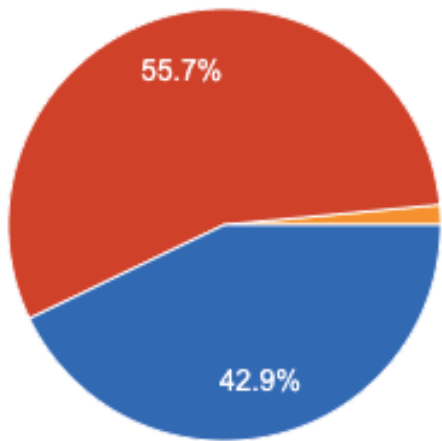
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1983 年	0	3	0	3	5	0	4	3	6	2	3	3	32
1984 年	0	4	7	2	1	4	3	7	10	4	6	3	51
1985 年	0	7	5	6	4	2	5	1	4	4	5	0	43
1986 年	1	1	1	6	6	2	8	5	3	2	8	5	48
1987 年	0	4	7	5	3	2	10	2	9	3	6	6	57
1988 年	2	2	4	5	6	4	1	2	4	4	0	2	36
1989 年	0	1	3	1	2	4	2	2	2	1	0	1	19
1990 年	1	3	4	6	3	8	3	2	6	2	6	4	48
1991 年	0	5	6	4	0	4	6	5	3	3	3	7	46
1992 年	2	7	2	3	4	4	2	6	3	4	2	6	45
1993 年	0	4	3	4	2	3	1	3	5	3	2	3	33
1994 年	0	2	3	3	1	9	2	1	2	7	3	5	38
1995 年	0	1	3	3	4	1	3	2	1	2	6	5	31
1996 年	0	2	0	6	6	2	5	0	5	4	2	3	35
1997 年	0	3	3	2	3	2	2	3	3	3	1	2	27
1998 年	0	1	2	1	3	2	2	2	2	0	2	1	18
1999 年	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
2000 年	2	3	1	5	3	2	3	5	0	1	3	2	30
2001 年	2	5	2	6	1	5	6	5	4	2	3	1	42
2002 年	2	4	1	3	3	4	2	4	6	4	1	0	34
2003 年	2	1	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	7
2005 年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2006 年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
2007 年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
2012 年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
2013 年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
2018 年	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2019 年	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
2020 年	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
2022 年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
2023 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
計	131	116	110	118	108	105	113	107	125	97	99	97	

問 32 年齢をお答えください。(記述式)

	計		計		計		計
18 歳	1	28 歳	37	37 歳	56	46 歳	96
20 歳	12	29 歳	44	38 歳	60	47 歳	81
21 歳	37	30 歳	51	39 歳	63	48 歳	91
22 歳	45	31 歳	49	40 歳	45	49 歳	85
23 歳	30	32 歳	53	41 歳	70	50 歳	4
24 歳	40	33 歳	54	42 歳	76	53 歳	1
25 歳	17	34 歳	25	43 歳	78		
26 歳	37	35 歳	46	44 歳	68		
27 歳	38	36 歳	70	45 歳	46		

問 31 性別を選択してください。（あてはまるもの1つ選択）

こちらは②の女性が 113 件 (55.7%) と多かった。続いて①の男性が 73 件 (42.7%) と女性が多い結果となった。



	件数	%
①男性	73	42.7
②女性	113	55.7
③答えたくない	3	1.5

- ①男性
- ②女性
- ③答えたくない

出生年月（西暦）をご回答ください。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1974 年	2	2	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	11
1975 年	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	3
1976 年	1	0	0	1	1	2	0	1	1	0	1	0	10
1977 年	1	0	2	0	1	2	0	0	2	0	0	2	10
1978 年	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0	9
1979 年	0	1	3	0	0	0	0	1	0	0	3	0	8
1980 年	1	0	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	8
1981 年	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
1982 年	3	0	1	0	0	0	1	0	2	1	0	1	10
1983 年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
1984 年	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
1985 年	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1986 年	0	0	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	6
1987 年	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4

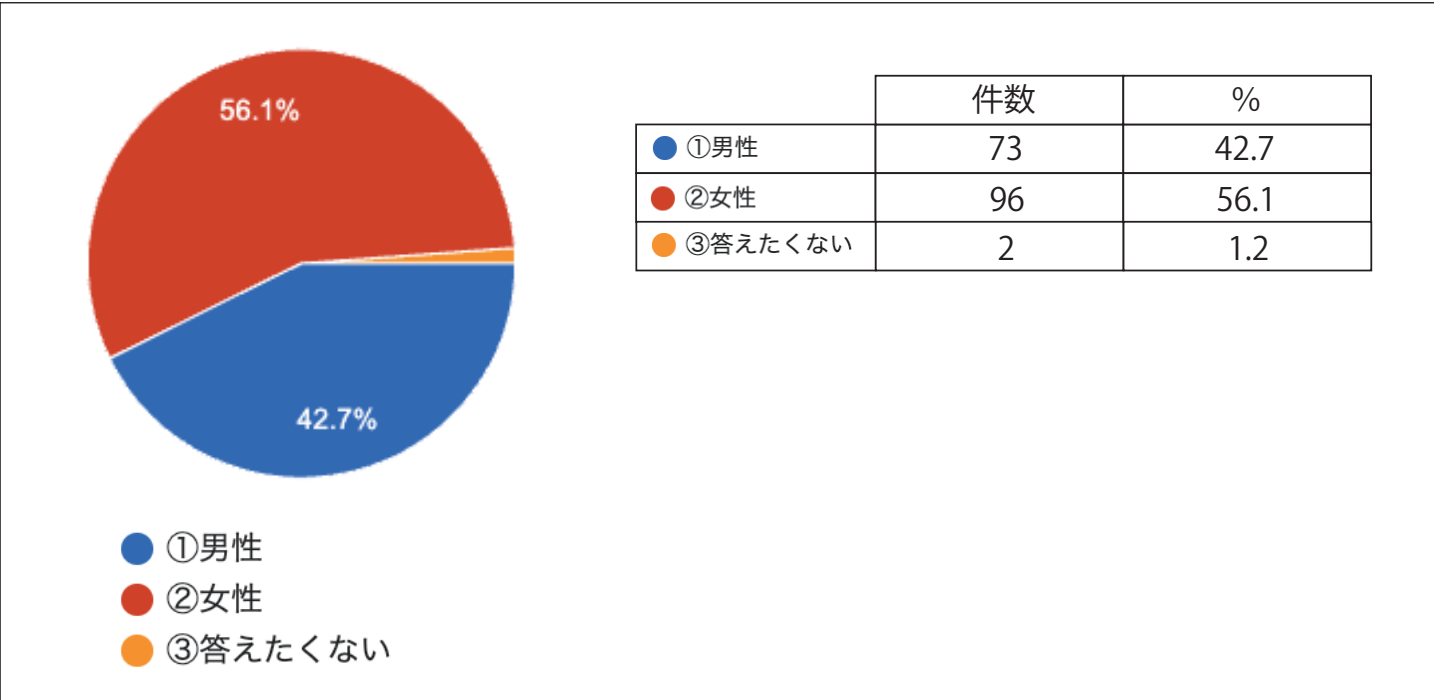
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1988年	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
1989年	2	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	0	7
1990年	1	0	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	8
1991年	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5
1992年	3	0	1	0	0	0	1	1	2	1	0	1	10
1993年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
1994年	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
1995年	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
1996年	0	0	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	6
1997年	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4
1998年	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
1999年	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3
2000年	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	4
2001年	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	5
2002年	2	0	1	0	0	0	1	0	1	2	2	0	9
2003年	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	3
2010年	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
2011年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2019年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
計	22	16	21	12	18	19	12	9	19	10	14	12	

問 32 年齢をお答えください。（記述式）

	計		計		計		計
20 歳	4	29 歳	4	38 歳	11	47 歳	10
21 歳	11	30 歳	3	39 歳	11	48 歳	5
22 歳	4	31 歳	10	40 歳	6	49 歳	11
23 歳	4	32 歳	5	41 歳	6		
24 歳	3	33 歳	9	42 歳	7		
25 歳	3	34 歳	6	43 歳	9		
26 歳	4	35 歳	4	44 歳	10		
27 歳	7	36 歳	3	45 歳	10		
28 歳	2	37 歳	5	46 歳	12		

問 31 性別を選択してください。（あてはまるもの1つ選択）

こちらは②の女性が 96 件 (56.1%) と多かった。続いて①の男性が 73 件 (42.7%) と女性が多い結果となった。



出生年月（西暦）をご回答ください。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1974 年	0	1	0	3	0	0	0	2	1	0	1	0	8
1975 年	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	3
1976 年	1	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	6
1977 年	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	4
1978 年	2	2	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	9
1979 年	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	4
1980 年	0	1	1	1	1	0	2	1	1	1	0	0	9
1981 年	2	1	2	2	1	1	1	1	3	0	0	1	15
1982 年	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	4
1983 年	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	5
1984 年	0	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	6
1985 年	2	1	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	8
1986 年	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
1987 年	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	4

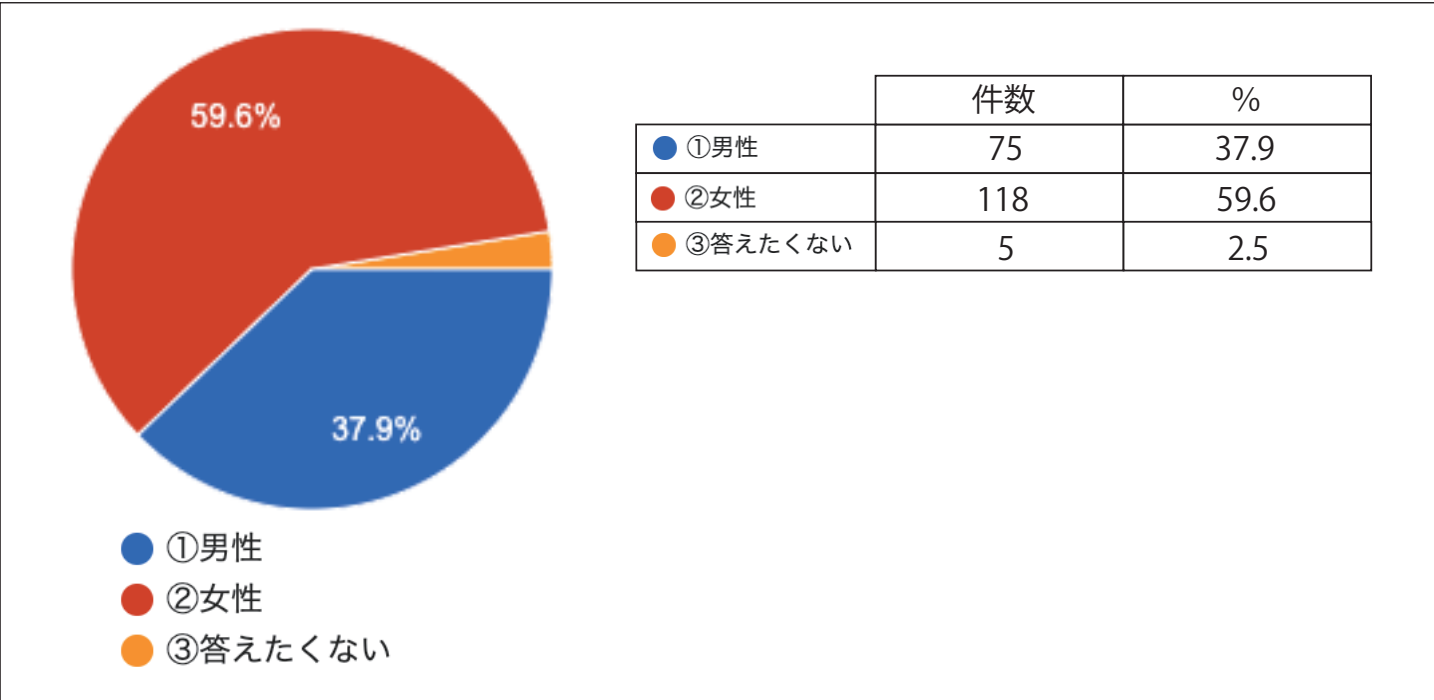
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1988 年	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3
1989 年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
1990 年	1	0	0	0	1	0	2	1	0	1	1	1	8
1991 年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	3
1992 年	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4
1993 年	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
1994 年	0	0	0	2	0	0	0	0	1	1	0	1	5
1995 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
1996 年	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
1997 年	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	2	0	6
1998 年	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
1999 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2000 年	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4	0	7
2001 年	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	1	6
2002 年	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
2003 年	0	0	2	2	0	1	0	1	0	1	0	0	7
2009 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2012 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
2023 年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
計	10	12	14	18	10	10	16	15	11	18	14	10	

問 32 年齢をお答えください。（記述式）

	計		計		計		計
20 歳	7	29 歳	4	38 歳	10	47 歳	5
21 歳	4	30 歳	2	39 歳	6	48 歳	4
22 歳	4	31 歳	5	40 歳	7	49 歳	9
23 歳	7	32 歳	4	41 歳	8		
24 歳	2	33 歳	8	42 歳	4		
25 歳	4	34 歳	2	43 歳	10		
26 歳	6	35 歳	5	44 歳	5		
27 歳	3	36 歳	4	45 歳	11		
28 歳	3	37 歳	3	46 歳	4		

問 31 性別を選択してください。（あてはまるもの1つ選択）

こちらは②の女性が 118 件 (59.6%) と多かった。続いて①の男性が 75 件 (37.9%) と女性が多い結果となった。



出生年月（西暦）をご回答ください。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1974 年	0	2	2	3	1	0	0	1	0	0	0	0	7
1975 年	1	4	0	2	0	0	3	2	0	2	1	1	16
1976 年	1	0	1	0	1	1	0	0	4	1	0	0	9
1977 年	0	2	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	7
1978 年	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	4
1979 年	0	1	0	0	1	0	1	1	2	2	0	0	8
1980 年	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	7
1981 年	2	0	1	1	0	0	0	1	1	1	0	1	8
1982 年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
1983 年	0	1	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	6
1984 年	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	0	0	5
1985 年	0	0	1	2	1	1	0	2	0	2	1	1	11
1986 年	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	5
1987 年	1	2	1	0	0	1	1	2	0	0	1	0	9

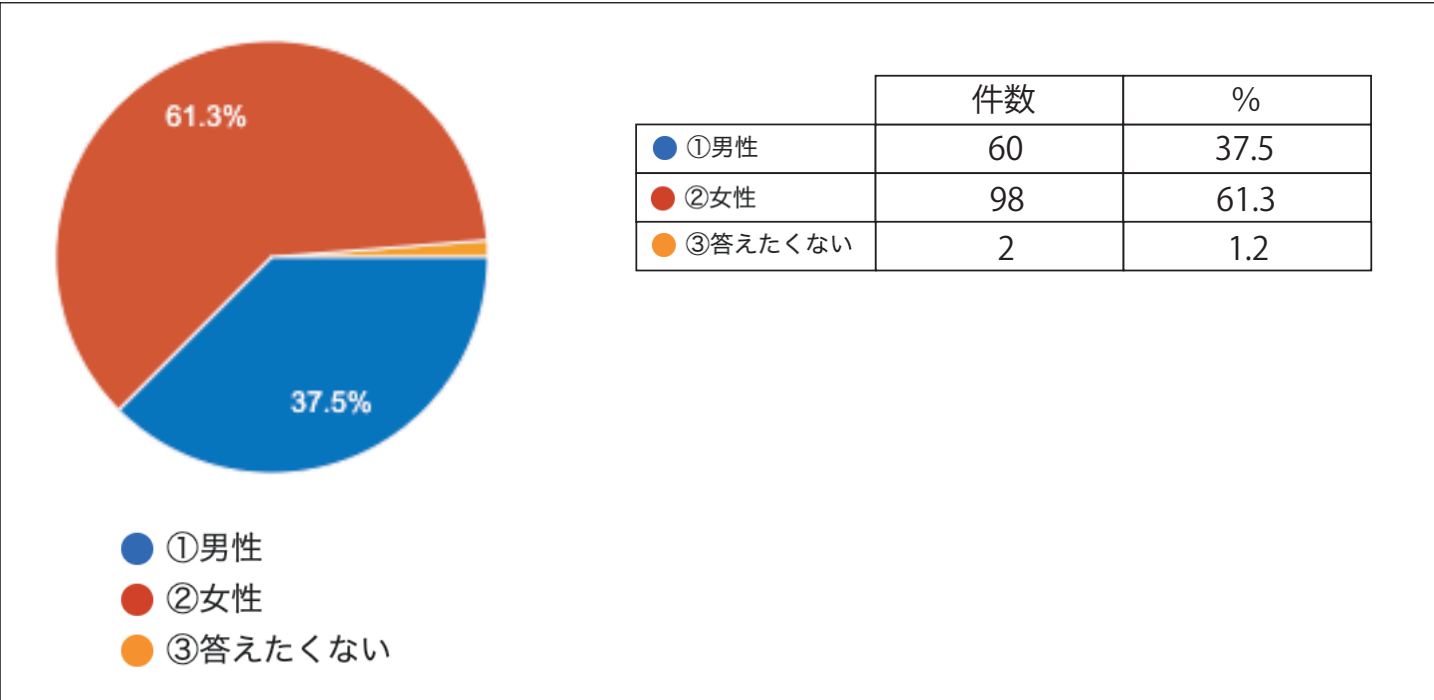
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1988年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	0	4
1989年	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	5
1990年	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	5
1991年	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
1992年	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
1993年	1	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	5
1994年	1	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	6
1995年	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4
1996年	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	4
1997年	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	4
1998年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
1999年	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	5
2000年	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	5
2001年	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	1	3	8
2002年	0	0	0	0	1	0	0	2	1	1	0	0	5
2003年	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
2023年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
計	13	20	13	16	13	8	15	20	16	20	12	13	

問 32 年齢をお答えください。(記述式)

	計		計		計		計
20歳	4	29歳	6	38歳	13	47歳	10
21歳	6	30歳	5	39歳	6	48歳	16
22歳	7	31歳	3	40歳	7	49歳	9
23歳	5	32歳	2	41歳	2		
24歳	5	33歳	6	42歳	10		
25歳	2	34歳	5	43歳	9		
26歳	4	35歳	3	44歳	7		
27歳	4	36歳	10	45歳	8		
28歳	6	37歳	8	46歳	8		

問 31 性別を選択してください。（あてはまるもの1つ選択）

こちらは②の女性が 98 件 (61.3%) と多かった。続いて①の男性が 60 件 (37.5%) と女性が多い結果となった。



出生年月（西暦）をご回答ください。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1974 年	1	1	1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	8
1975 年	1	1	2	0	0	2	1	0	0	2	0	0	10
1976 年	1	1	0	0	1	2	1	1	2	2	0	1	12
1977 年	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	7
1978 年	0	2	0	0	0	0	1	1	3	0	0	0	7
1979 年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4
1980 年	0	0	1	1	1	1	2	1	1	0	0	0	9
1981 年	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	8
1982 年	1	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	3	8
1983 年	0	0	0	1	1	0	2	2	0	1	0	2	9
1984 年	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	5
1985 年	0	0	2	0	2	1	0	2	1	0	1	0	9
1986 年	1	2	2	1	0	2	0	0	0	0	1	2	11
1987 年	0	0	0	0	0	1	1	3	1	0	2	0	8

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1988年	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	5
1989年	0	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	5
1990年	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5
1991年	0	1	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	5
1992年	2	1	2	1	0	0	0	1	1	0	2	1	11
1993年	0	0	0	2	0	0	1	0	0	2	0	1	6
1994年	0	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	5
1995年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
1996年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3
1997年	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	1	0	6
1998年	0	0	0	0	1	0	2	0	1	0	1	0	5
1999年	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
2000年	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	4
2001年	0	1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	6
2002年	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	5
2004年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2011年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
計	13	15	20	17	15	14	16	18	17	12	17	20	

問 32 年齢をお答えください。（記述式）

	計		計		計		計
0歳	1	29歳	6	38歳	18	47歳	11
21歳	6	30歳	7	39歳	7	48歳	11
22歳	6	31歳	12	40歳	9	49歳	9
23歳	4	32歳	6	41歳	8		
24歳	2	33歳	4	42歳	8		
25歳	6	34歳	5	43歳	9		
26歳	6	35歳	5	44歳	4		
27歳	4	36歳	10	45歳	7		
28歳	3	37歳	12	46歳	7		